トヨタの概況 2006

データで見る世界の中のトヨタ

TOYOTA

はじめに

本年も広報資料「トヨタの概況2006」をお届けします。

トヨタは、本年を「成長を続けながら、足元を固めていく１年」と位置付け、「成長に向けた戦略的な取り組みを強化すること」、「成長のために足元をしっかりと固めること」を２本の柱として取り組んでいます。

「成長に向けた戦略的取り組みの強化」には、「技術開発」と「現地化」の２つのテーマがあり、「技術開発」については、常に攻める姿勢を失わず、環境・安全・品質・原価の４つの観点により、他社に負けない研究開発・製品設計や生産技術開発を進めています。

特に、「環境対応」については、経営の最重要課題として、全力で取り組んでおり、2010年代のできるだけ早い時期に年間100万台のハイブリッド車販売の実現に向け、ハイブリッド技術のさらなる進化を目指すとともに、コスト低減にも努めています。また、「安全」についても、「より安全な車両開発」はもとより、「人に対する交通安全の啓発活動」「交通環境整備への参画」を通じ、交通安全への取り組みを強化しています。

また、「現地化」については、北米では、新設のテキサス工場でピックアップトラック・タンドラの生産を、また、ケンタッキー工場では、北米初のハイブリッド車生産となるカムリハイブリッドを、さらに中国では広州でカムリの生産をそれぞれ開始します。なお一層の現地化を進め、各地域の雇用の増加や産業の育成・振興、ひいては地域の経済・社会の発展に貢献し、各地域で市民権を得て「現地の企業」として認められることが、さらなる成長のためには不可欠だと考えています。

一方、「成長のための足元固め」という観点からは、次の３点がポイントだと考えています。

１点目は、「品質向上活動の再徹底」です。品質管理の一層の強化に努め、品質の確保に万全の体制で取り組んでいます。「品質は工程で造り込む」という一人ひとりの強い意識と仕組みをきちんとしていくことが大切だと考えています。

２点目は、「コスト競争力の向上」です。現在の取り組みを強力に推し進めるとともに、一人ひとりのコスト意識を向上、さらには全く新しい発想やアプローチでの技術開発や原価低減に取り組み、性能・品質面で優れた商品の低コストな開発にも取り組んでいます。

３点目は、「基礎体力の強化」です。人づくりに注力し、どのような需要の変動にも即応できる柔軟な生産・供給体制をグローバルなレベルで整えていきます。

当資料は、会社の概況、研究・開発、生産・販売・輸出、環境対策・安全対策、社会貢献活動などのトヨタの取り組みを幅広く紹介しています。当社の企業活動をご理解いただく一助として、当資料をご活用いただければ幸いです。

2006年４月
トヨタ自動車株式会社　広報部

当資料は当社のホームページ「TOYOTA INTERNET DRIVE」にもPDF形式で掲載しています。
頁イメージのままダウンロードしてご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/jp/about_toyota/

トヨタの概況 2006・総目次

会社概要
アウトライン 2
基本理念 3
グローバルビジョン 5
主な新製品 7
技術開発の歴史 8
研究・開発 10
生産・販売・輸出
海外生産拠点等一覧 12
地域別生産・販売台数／地域別・車名別輸出台数 14
世界最適生産・供給体制／原価低減活動 15
北米での活動 16
中南米での活動 17
ヨーロッパでの活動／アフリカでの活動 18
アジアでの活動 19
オセアニア・中東での活動 22
国内の生産・販売体制 23
LEXUS 25
車名別国内生産台数 26
車名別国内登録台数 27
国内販売車両一覧 28
環境対策 30
安全対策 33
ITS 36
ウェルキャブ 38
モータースポーツ 39
GAZOO／自動車部品 40
トヨタレンタリース／U-Car（中古車） 41
住宅事業 42
金融事業 43
主な出資会社 44
社会貢献活動 47
沿　革 51

データ編
世界 54
自動車生産
日本 56
自動車生産　56／自動車登録・届出台数　57
自動車輸出・輸入　58
自動車関係税制　59／自動車リサイクル法　60

会社概要 アウトライン

■会社概要

会社名	トヨタ自動車株式会社 (TOYOTA MOTOR CORPORATION)	従業員数	64,237人 (連結会社合計　265,753人)
創　立	1937年(昭和12年)8月28日	資本金	3,970億円

注)2005年3月末現在、従業員数は就業人員数(受入出向者を含む)を記載。

連結ベース(米国基準)

■経営状況

(1億円未満切捨)

	平成16年3月期 (15.4～16.3)	平成17年3月期 (16.4～17.3)	平成17年9月中間期 (17.4～17.9)
売上高	172,947億円	185,515億円	99,531億円
営業利益	16,668億円	16,721億円	8,094億円
当期純利益	11,620億円	11,712億円	5,705億円
設備投資※1	9,577億円	10,872億円	6,958億円
研究開発	6,822億円	7,551億円	3,731億円
連結子会社数	554社	524社	529社
持分法適用会社数	53社	56社	57社

注) ※1 リース用資産除く。

■生産実績

		平成16年3月期 (15.4～16.3)	平成17年3月期 (16.4～17.3)	平成17年9月中間期 (17.4～17.9)
車両(新車)	国　内	4,284千台	4,534千台	2,192千台
	海　外	2,230千台	2,697千台	1,510千台
	合　計	6,514千台	7,232千台	3,702千台
住　宅		4,564戸	5,115戸	2,352戸

■販売実績

		平成16年3月期 (15.4～16.3)	平成17年3月期 (16.4～17.3)	平成17年9月中間期 (17.4～17.9)
車両(新車)	国　内	2,303千台	2,381千台	1,087千台
	海　外	4,416千台	5,027千台	2,746千台
	合　計	6,719千台	7,408千台	3,833千台
住　宅		4,752戸	5,283戸	2,274戸

単独ベース(日本基準)

■経営状況

(1億円未満切捨)

	第100期 (15.4～16.3)	第101期 (16.4～17.3)	第102期前半期 (17.4～17.9)
売上高	89,637億円	92,183億円	46,640億円
経常利益	9,157億円	8,562億円	4,166億円
当期純利益	5,814億円	5,293億円	2,836億円

■生産実績

	第100期 (15.4～16.3)	第101期 (16.4～17.3)	第102期前半期 (17.4～17.9)
国内生産台数	3,558千台	3,749千台	1,798千台
海外生産台数	2,740千台	3,127千台	1,824千台

■販売実績

	第100期 (15.4～16.3)	第101期 (16.4～17.3)	第102期前半期 (17.4～17.9)
国内販売台数(出荷)	1,765千台	1,805千台	806千台
輸出台数	1,860千台	1,982千台	1,002千台
住宅販売戸数	4,038戸	4,392戸	2,055戸

■車両生産・販売・輸出台数(2005年 年間実績)

(単位:台)　(　)は、前年比%

		トヨタ	ダイハツ	日野	合計
国内生産	乗用車	3,374,526(104.4)	539,206(102.0)	—	3,913,732(104.1)
	商用車	415,056(92.3)	185,303(122.8)	96,985(103.4)	697,344(100.4)
	合　計	3,789,582(103.0)	724,509(106.6)	96,985(103.4)	4,611,076(103.5)
国内販売	乗用車	1,518,549(96.2)	444,965(100.7)	—	1,963,514(97.2)
	商用車	194,585(107.6)	156,189(114.9)	54,529(107.1)	405,303(110.2)
	合　計	1,713,134(97.4)	601,154(104.0)	54,529(107.1)	2,368,817(99.2)
輸　出	乗用車	1,827,679(108.3)	89,489(114.8)	—	1,917,168(108.6)
	商用車	215,568(81.4)	20,351(127.8)	41,639(95.5)	277,558(85.6)
	合　計	2,043,247(104.7)	109,840(117.0)	41,639(95.5)	2,194,726(105.0)
海外生産		3,571,303　(117.4)	49,764(96.4)	—	3,621,067(117.0)
世界生産		7,360,885　(109.5)	774,273(105.9)	96,985(103.4)	8,232,143(109.1)

注) 国内生産:完成車+KD(国内ラインオフベース)
国内販売:登録+届出(海外生産車を含む)
輸出:完成車+KD
海外生産:KDを除く海外生産(現地ラインオフベース)
世界生産:国内生産+海外生産

基本理念

トヨタは、21世紀が社会にとって真に豊かなものであることを願い、人や社会、地球環境、世界経済との調和を図りつつ、モノづくり、車づくりを通して、お客様、株主、社員、取引先の方々等、関わりのある多くの人々とともに成長していくことを目指しています。

■基本理念、ビジョン、会社方針の位置づけ

基本理念 （解説） 社会・地球の持続可能な発展への貢献	トヨタの憲法（1992年策定、1997年改定）
2010 GLOBAL VISION	2010年代に向けてトヨタが目指す企業像（2002年発表）
中長期経営計画	2010 GLOBAL VISION実現に向けた中長期（3～5ヵ年）の経営計画
会社方針 年度方針	中長期経営計画達成の為の課題、数値目標等（毎年見直し）

■トヨタ基本理念

1. 内外の法およびその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、国際社会から信頼される企業市民をめざす
2. 各国、各地域の文化、慣習を尊重し、地域に根ざした企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献する
3. クリーンで安全な商品の提供を使命とし、あらゆる企業活動を通じて、住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組む
4. 様々な分野での最先端技術の研究と開発に努め、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる商品・サービスを提供する
5. 労使相互信頼・責任を基本に、個人の創造力とチームワークの強みを最大限に高める企業風土をつくる
6. グローバルで革新的な経営により、社会との調和ある成長をめざす
7. 開かれた取引関係を基本に、互いに研究と創造に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する

基本理念

■社会・地球の持続可能な発展への貢献（2005年作成）

（序文）

1937年の創業以来、私たち（トヨタ自動車株式会社およびその子会社）は、革新的かつ高品質な製品とサービスの提供への不断の努力を通じ、社会の持続可能な発展への貢献に努めて参りました。その過程で、独自の経営上の考え方・価値観・手法が確立され、全ての世代を通じて共有され伝承されてきました。

私たちは、この蓄積を踏まえ、「どのような会社でありたいか」という経営理念を「トヨタ基本理念」（1992年に制定、1997年に改正）としてまとめました。この「トヨタ基本理念」は、私たちがお互いにその内容を良く理解・共有し、社会に貢献することを念頭に作られたものです。そして、今日までこの理念の精神が実践されてきているものと考えております。また、「トヨタ基本理念」を実践する上で、私たちが共有すべき価値観や手法を、「トヨタウェイ」（2001年に作成）にまとめました。この「トヨタウェイ」の精神は将来の世代に受け継がれ生き続けると信じています。

近年、事業領域が益々グローバル化する一方で、企業に期待される社会的責任の領域が広がってきました。そこで今回「トヨタ基本理念」を、ステークホルダーとの関係を念頭に置きながら、「社会・地球の持続可能な発展に対してどう貢献するのか」という観点から解説したものが、この「社会・地球の持続可能な発展への貢献」です。

私たちはこれをグローバルに共有し、社会・地球の持続可能な発展に率先して貢献して参ります。また、私たちは取引先がこの趣旨を支持し、それに基づいて行動することを期待します。

（本文）

私たち（トヨタ自動車株式会社およびその子会社）は、「トヨタ基本理念」に基づき、グローバル企業として、社会・地球の調和のとれた持続可能な発展に率先して貢献します。

私たちは、国内外・国際的な法令並びにそれらの精神を遵守し、誠意を尽くし誠実な事業活動を行います。

私たちは、持続可能な発展のために、以下のとおり全てのステークホルダーを重視した経営を行い、オープンで公正なコミュニケーションを通じて、ステークホルダーとの健全な関係の維持・発展に努めます。

お客様

■私たちは、「お客様第一主義」という信念に基づき、世界中の人々の生活を豊かにするために、お客様の様々な期待に応える革新的・安全かつ卓越した高品質な製品とサービスを開発・提供します。（基本理念3, 4）

■私たちは各国の法およびその精神を遵守し、お客様の個人情報保護の徹底に努めます。（基本理念1）

従業員

■私たちは、「事業活動の成功は従業員一人一人の創造力と優れたチームワークによってこそ達成される」との信念のもと、従業員を尊重し、個々人の成長を支援します。（基本理念5）

■私たちは、均等な雇用機会を提供するとともに、従業員の多様性・一体感の確保に努力します。また、従業員に対する差別を行いません。（基本理念5）

■私たちは、全従業員に対し公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境を維持・向上するよう努めます。（基本理念5）

■私たちは、事業活動に関わる全ての人々の人権を尊重し、いかなる形であれ強制労働・児童労働は行いません。（基本理念5）

■私たちは、従業員との誠実な対話と協議を通じ、「相互信頼・相互責任」の価値観を構築し共に分かち合います。そして、従業員と会社がお互いに繁栄するよう共に努力します。（基本理念5）

■私たちは、経営トップの率先垂範のもと、倫理的な行動を促す企業文化を育て、それを実践していきます。（基本理念1, 5）

取引先

■私たちは、サプライヤー・販売店などの取引先を尊重し、長期的な視野に立って相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組みます。（基本理念7）

■私たちは、取引先の決定にあたっては、全ての候補に対しその国籍または規模に関わらず門戸を開き、その総合的な強みに基づき判断します。（基本理念7）

■私たちは、各国の競争法の規定と精神を遵守し、公正かつ自由な取引を維持します。（基本理念1, 7）

株主

■私たちは、株主の利益のために、長期安定的な成長を通じ企業価値の向上を目指します。（基本理念6）

■私たちは、株主および投資家に対して、事業・財務状況と成果の適時かつ適正な開示を行います。（基本理念1, 6）

地域社会・グローバル社会

環境

■私たちは、あらゆる事業活動を通じ環境保全に努め、環境と経済を両立する技術の開発と普及に取り組むとともに、社会の幅広い層との連携を図り、環境との調和ある成長を目指します。（基本理念3）

社会

■私たちは、各国の文化・慣習・歴史および法令を尊重し、「人間性尊重」の経営を実践します。（基本理念2）

■私たちは、社会が求めるサステイナブル・モビリティの実現に向けて、安全でクリーンかつ社会のニーズを満たす優れた技術を常に追求し、製品の開発を行います。（基本理念3, 4）

■私たちは政府や取引先による贈収賄を許さず、行政府諸機関と誠実かつ公正な関係を維持します。（基本理念1）

社会貢献

■私たちは、事業活動を行うあらゆる地域において、独自にまたはパートナーと協力して、コミュニティの成長と豊かな社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します。（基本理念2）

グローバルビジョン

■2010年グローバルビジョンの概要

●トヨタが目指すべき企業像

●再生社会・循環型社会の到来
・地球規模での「再生社会」への転換が進行
・大量生産・消費の時代から、「循環型社会」へReduce（省資源化）・Reuse（再使用）・Recycle

●ITS社会・ユビキタスネットワーク社会の到来
・情報通信技術の進化と自動車のIT化
→移動中の情報サービスが飛躍的に向上
→交通インフラと協調した予防安全が進展

2020～30年頃に期待する世界

Kind to the Earth
地球にフレンドリーな技術で地球再生を牽引する

Comfort of Life
安全・安心・快適に暮らせる車とクルマ社会を創造する

トヨタが目指すべき企業像

Excitement for the World
自動車の魅力を世界中に広めトヨタファンを拡大する

Respect for all People
真のグローバル企業として世界の人々や地域から敬愛される存在へ

●世界規模でのモータリゼーションの進展
・地球上のあらゆる人が、自動車の高いモビリティの恩恵を受ける

●成熟した人間社会の到来
・ナショナリズムが徐々に減退し、世界中の人々が互いを尊重する世界に移行
・グローバルな企業においては、多様な国籍・民族の人々が活発に交流

●2010年グローバルビジョン

Innovation into the Future
～ 豊かな社会創りに情熱をかけて ～

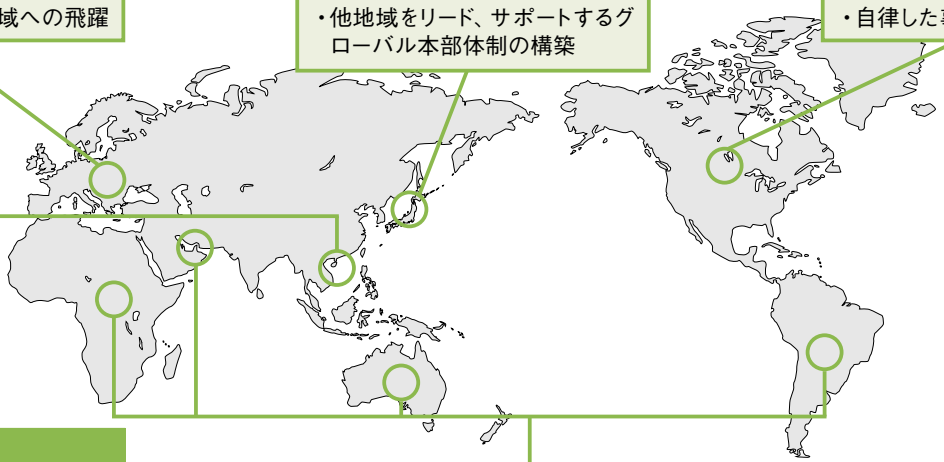
創業以来の精神である「モノづくり、車づくりを通して社会に貢献する」ということの意味を今一度かみしめ、強い情熱と高い志を持って、『豊かな新世紀社会を実現する』ために邁進する。

〈地域軸ビジョン〉

欧　州
・欧州メーカーに匹敵するプレゼンスの確立
・第3の収益確保地域への飛躍

日　本
・ホームグラウンドとして日本事業の安定的な収益確保
・他地域をリード、サポートするグローバル本部体制の構築

北　米
・経営の基盤である最重要地域としての安定的な収益確保
・自律した事業体制の構築



アジア
・ダイハツ・日野を含めたグループとしての効率的な事業体制の構築

中南米・中近東・オセアニア・アフリカ
・各々の地域特性に応じた取り組みの推進

グローバルビジョン

〈機能軸ビジョン〉

R&D

・先進技術と市場創造型商品で世界を牽引
・技術創造立国日本のスーパープレーヤー

調達・生産・物流

・需要変動に応じた柔軟な生産・物流体制の構築
・製造・調達コストで世界NO.1の競争力の獲得

販売・マーケティング

・世界最適商品ラインアップとブランド戦略の展開
・世界各地域の最適販売ネットワークの構築

R&D → 商品企画 → 製品開発 → 生産準備 → 製造 → 販売

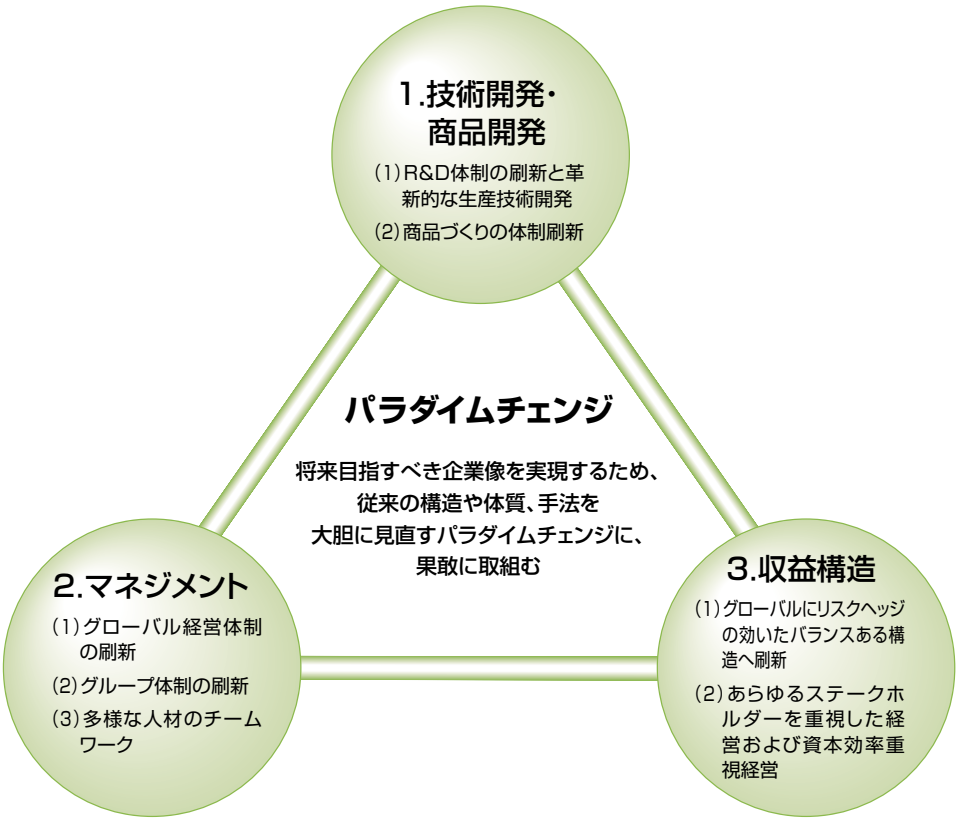
マネジメント

・真のグローバル&リーディングカンパニーとしての経営モデルの確立

自動車周辺事業・新規事業

・自動車で培ったコアコンピタンスを活かし、最大限のシナジー効果を発揮
・豊かな社会の実現に貢献するコアビジネスの創生

●目指すべき企業像を実現するためのパラダイムチェンジ



主な新製品

■主な新商品

●2005年2月	選んだことに誇りを持てる「新型ヴィッツ」 コンパクトクラスのスタンダードを提案したクルマとして好評を博したヴィッツを、これまでのコンパクトカーより一段上の水準を追求し、フルモデルチェンジ。
	IMVシリーズの新型ミニバン「イノーバ」(インド) 「イノーバ(Innova)」は高品質と快適性、安全・環境性能を充実、優れた使い勝手と快適な乗り心地を実現したIMVシリーズの新型ミニバン。インド・バンガロール工場で生産を開始。
●2005年3月、4月	IMVシリーズの新型ピックアップトラック「ハイラックス」(アルゼンチン、南アフリカ) インドに続き、IMVシリーズ生産国5カ国目となるアルゼンチン・サラテ工場で生産を開始。2005年4月には南アフリカでも「ハイラックス」の生産を開始。
●2005年3月	新世代のハイブリッドSUV「ハリアーハイブリッド」、「クルーガーハイブリッド」 「ハリアーハイブリッド」ならびに「クルーガーハイブリッド」は、エコとパワーを高い次元で両立、動力性能と操縦性、走行安定性を追及しながら、世界最高水準の低燃費と排出ガスのクリーン化を実現。
●2005年4月	鉄骨ユニット工法住宅「シンセ・スマートステージ　モア」 「シンセ・スマートステージ」をベースに、上質感をプラスした2階建て住宅。主に「“モノ”へのこだわりを持ちながらも、自分らしく暮らすことを大切にする」30代後半単世帯家族に向けた新商品。
	ETCカード差し忘れ防止に配慮した新型ETC車載器 アンテナ内蔵のインジケータでETCカードの有無の確認を可能としたほか、別売キットとの組み合わせでナビ画面での料金や履歴の表示も可能。
	次世代テレマティクスサービス「G-BOOK ALPHA」 事故や救急時に、警察や消防に接続して緊急車両の手配を要請する「ヘルプネット」を標準装備、デジタル著作権物保護システムにより楽しみたい音楽を楽しみたいときに車内で購入可能。
	ナビゲーション、新モデル HDDナビゲーションでは4機種、DVDナビゲーションでは3機種を新設定。また後席ディスプレイやバックガイドモニターもオプション設定。
●2005年8月	レクサス(LEXUS)開業に伴う新型「GS」、「SC」、「IS」 2005年8月の日本での開業を機に、「個性」や「プレミアム感」を重視するお客様の拡大に対応する「グローバルプレミアムブランド」の確立を目指し、新モデルGS、SC、ISを発売。
●2005年9月	世界初の「キーインテグレーテッドウォッチ」 「キーインテグレーテッドウォッチ」はスマートキーの機能を腕時計に内蔵、クラウン専用の販売店装着オプションとして発売。
●2005年10月	スタイリッシュで使いやすく、走りも楽しいハイクオリティコンパクトカー「ラクティス」 『高速大容量スタイリング』をテーマに、走行性能、パッケージ、スタイリングにこだわり、軽快な走り、ゆとりと使いやすさを追求した室内空間、スタイリッシュなデザインを高次元で融合。
	鉄骨軸組工法住宅「エスパシオ　Mezzo(メッツォ)」 個性や自分らしさにこだわる都市および都市近郊の居住者に向けた都市型新商品。シンプルモダンなボックス型外観や、中庭・吹き抜けを建物内部に取り込むことでの敷地全体の生活有効空間化などが特徴。
	環境改善効果の高いチェリーセイジ(半常緑低木) 新開発品種の「キルシェピンク」は従来品種より大気汚染物質の吸収能力やヒートアイランド現象の緩和能力が高く、植物による環境改善をより推進することが可能。
	新型プレジャーボート「PONAM-45」 フィッシングとクルージングの機能を高次元で両立させた次世代コンバーチブル。自動車技術を応用した先進機能も採用され、マリンライフを快適に楽しめる魅力的な仕様の新型艇。
●2005年11月	活動的に思いのままに行動できるカーライフを提案する「新型RAV4」 アーバンシーンに映える洗練されたスタイルとアウトドアでの機動性を兼ね備え、世界中のオンロード、オフロードで快適な移動が可能な新たなSUVとしてフルモデルチェンジ。
	「美しい」という名のコンパクトセダン「ベルタ」 『コンパクトスタイリッシュサルーン』をテーマに、コンパクトセダンの持つ魅力を質感の高い美しいスタイルで包み込み、毎日の生活に美しい演出を提供。
	鉄骨ユニット工法住宅「シンセ・アヴェンティーノ」 主に現在50代半ばの団塊世代や建替層に向け、夫婦それぞれの多様なこだわりと快適性、および夫婦二人のくつろぎ空間を実現した新商品。これからの新しい生活を豊かに暮らせる工夫や、ひとクラス上の安心、安全を提案。
●2005年12月	『クルマ型Music Player』を開発テーマとした「新型bB」 「いつも音楽に囲まれて暮らしたい」というライフスタイルをクルマで実現することを目指し、若者の嗜好を十分に満たすためにフルモデルチェンジ。

技術開発の歴史

トヨタは、お客様のニーズにお応えしながら環境にやさしく、安全性、走行性、快適性、信頼性などの要素を高度にバランスさせた自動車の開発に努めています。

■トヨタの技術開発の歴史　（1985～，凡例：▲……環境対策関連技術　●……安全対策関連技術）

年	1985～89	1990～1999
エンジン	・油圧駆動ファン ・ハイメカDOHCエンジン（シザースギア） ・ミッドシップ ・セラミックターボ	▲スモークレスディーゼルエンジン ・電子制御スロットル ▲ディーゼルスモークコントロールシステム（DSCS） ・アルミクランクダンパープーリ ▲連続可変バルブタイミング機構（VVT-i） ・レーザークラッドシリンダーヘッド ▲4弁直噴ディーゼル ・5バルブエンジン ▲新世代希薄燃焼エンジン
駆動・制動足廻り	●4WS ・アクティブコントロールサスペンション ●トラクションコントロール（TRC）	・6速M/T ▲フレックスロックアップシステム ●アクティブ4WS ●車両安定性制御システム（VSC） ・スーパーストラットサスペンション ・ロータリートリプレードカップリング ・5速A/T ●車両総合制御システム〈i-Four〉
ボディ	●SRSエアバッグ ・ガルウィングドア ●超音波雨滴除去ドアミラー ●サイドドアビーム ●サイドウインドゥワイパー	▲トヨタスーパーオレフィンポリマー（TSOP）バンパー ●助手席エアバッグ
電子・電気	・デジタルシグナルプロセッサー ・CRT付エレクトロマルチビジョン ・CDインフォメーション ●クリアランスソナー	・GPSナビゲーション ●ヘッドアップディスプレイ ●CCD式バックモニター ・GPSボイスナビゲーション ▲燃焼圧センサー
材　料	・外板塗料（MIOカラー、グラファイトカラー、アージェンタムマイカ） ▲メタル担体触媒 ・マグネシウムステアリングホイール ・複合機能ファブリック	▲ディーゼル酸化触媒 ▲内装用高性能樹脂（TSOP-5） ・樹脂製燃料タンク ・マグネシウムシリンダーヘッドカバー ▲パラジウム三元触媒 ▲新冷媒エアコン ・デオドラント機能付きファブリック ▲リーンバーン用新三元触媒

■2005年に発表した主な新技術（発表時期）

VDIM〈アクティブステアリング統合制御〉（2005/6）、SRSツインチャンバーエアバッグ （2005/6）、D-4S （2005/8）

	2000～
▲連続可変バルブタイミング＆可変リフト機構（VVTL-i） ▲コモンレール式直噴ディーゼルターボエンジン（D-4D） ▲高効率直噴ガソリンエンジン（D-4） ・窒化チタンコートシム ▲燃料電池電気自動車（FCEV） ▲トヨタハイブリッドシステム（THS）	▲Dual VVT-i ▲ストイキD-4 ▲コモンレール式ピエゾインジェクション直噴ディーゼルターボエンジン（D-4D Clean Power） ▲D-4S ▲TOYOTA STOP AND GO SYSTEM ▲燃料電池ハイブリッド車（FCHV-4、FCHV-5） ▲燃料電池ハイブリッド車（トヨタFCHV） ▲トヨタハイブリッドシステム（THS-C、THS-M、THSⅡ） ▲トヨタインテリジェントアイドリングストップシステム ▲ディーゼルハイブリッドシステム ▲リダクションギヤ付THSⅡ ▲Lo-Hi切替ギヤ付THSⅡ
・ナビ協調シフト制御 ●EBD付ABS ●ブレーキアシスト ▲Super CVT ●ARS	・ランフラットタイヤ ・新工法タイヤ ●電子制御ブレーキシステム（ECB） ●プリクラッシュセーフティシステム ▲電気式4輪駆動システム（E-Four） ●VDIM ●VDIM（アクティブステアリング統合制御） ●S-VSC+アクティブトルクコントロール4WD協調制御 ▲6Super ECT（6速A/T） ●アクティブスタビライザーサスペンションシステム ●ドライバーモニター付プリクラッシュセーフティシステム（ミリ波レーダー方式）
・UVカットドアガラス ●はっ水ドアガラス ●新衝突安全ボディ（GOA） ●SRSカーテンシールドエアバッグ ●SRSサイドエアバッグ ●フォースリミッター付きシートベルト ▲塗装補修バンパーリサイクル	・パワーバックドア ●助手席デュアルステージSRSエアバッグ ●運転席デュアルステージSRSエアバッグ ●プリクラッシュシートベルト ・電動開閉式メタルトップシステム ●前後席SRSカーテンシールドエアバッグ ●運転席SRSニーエアバッグ ●歩行者傷害軽減ボディ ●SRSツインチャンバーエアバッグ
・マルチゾーンオートエアコン ●タイヤ空気圧警報システム ・ブラインドコーナーモニター ・レーダークルーズコントロール ▲電動パワーステアリング	・スマートキーシステム ●ナイトビュー ・ワイドビューフロントモニター ・ステアリング感応式クリアランスソナー ●インテリジェントAFS ・G-BOOK ALPHA ・音声ガイダンス機能付バックガイドモニター ・G-BOOK ・レーンモニタリングシステム ・フロント＆サイドモニター ●ヘルプネット ・レーンキーピングアシスト ・レーダークルーズコントロール（低速追従モード付） ・インテリジェントパーキングアシスト（IPA） ・マイナスイオン発生装置 ・AC100Vコンセント ・スマートエントリー＆スタートシステム
▲ディーゼル酸化触媒	▲ディーゼル車用高性能触媒システム（DPNR） ▲トヨタエコプラスチック ▲ケナフ材パッケージトレイトリム、ドアトリム ・プラズマクラスター ▲植物系生分解樹脂（バイオプラスチック） ▲CO_2冷媒電動ヒートポンプ式エアコン ・花粉除去フィルター

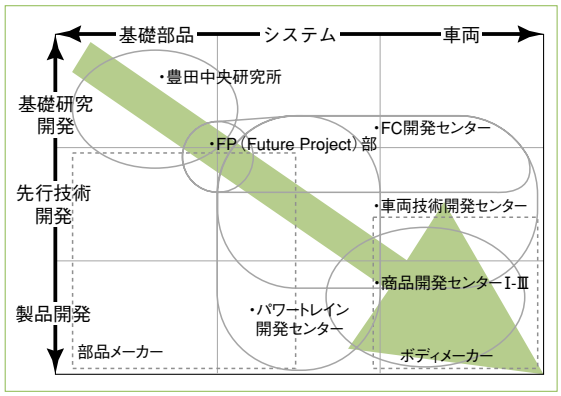
研究・開発

■トヨタの研究・開発体制

トヨタでは、次の各開発フェーズを通して研究・開発に取り組んでいます。
この３つの開発フェーズが連携・融合し合うことで、最少の時間で、先進的、高品質で魅力的な車が継続的に開発されています。

1.「基礎研究開発」
　開発の方向性を探るフェーズ。車の基本となるベーシックな部分の研究開発。
2.「先行技術開発」
　コンポーネント、システムなどの技術的ブレークスルーを必要とする開発フェーズ。高度な技術開発を他社に先駆けて進めるために、最新のコンポーネントやシステム研究に専念。
3.「製品開発」
　新型車両の開発を中心に担当。

トヨタグループの研究・開発体制



TEMA（トーランス）

キャルティデザインリサーチ（株）

アリゾナ試験場

TEMA（アナーバー）

TME-RDM

■アメリカ

トヨタモーターエンジニアリング＆マニュファクチャリングノースアメリカ（株）（TEMA）	所在地（本社）	ミシガン州アナーバー（分室：ミシガン州プリマス、カリフォルニア州トーランス、ガルデナ、アリゾナ州ウィットマン、ワシントンD. C.）
	設立年月	2006年４月
	主な活動	米国の部品・材料の試験や評価から、排出ガスの検定や技術的調査まで車両の研究・開発を実施。 特に、北アメリカ向けのトヨタ製品のデザイン研究開発の分野で益々重要な役割を担っています。
キャルティデザインリサーチ（株）	所在地	カリフォルニア州ニューポートビーチ
	設立年月	1973年10月
	主な活動	トヨタ初の海外でのデザイン開発拠点で、日米のデザイナーにより新デザインを共同調査・開発。 第二世代のセリカ、エスティマ（アメリカ名、プレビア）、ソアラ（アメリカ名、レクサスSC430）、タコマ、プリウス、ソラーラのデザインを開発。 1991年5月に先進的な外観、内装、カラーデザイン開発用の建物が完成、設備も一新。

■ヨーロッパ

トヨタモーターヨーロッパ R&D/マニュファクチャリング（TME-RDM）	所在地	ベルギー ザベンタム（分室：イギリス ダービー州とドイツ ケルペン）
	設立年月	1987年9月
	主な活動	トヨタのヨーロッパでの事業サポート、ヨーロッパの環境面における車両・材料の評価、トヨタ車の認証、技術の調査・研究
トヨタヨーロッパデザインディベロップメント（有）（ED²）	所在地	フランス コートダジュール
	設立年月	1998年11月
	主な活動	外観・内装・カラーデザインの開発研究、モデル製作、デザイン調査
トヨタモータースポーツ（有）（TMG）	所在地	ドイツ ケルン
	設立年月	1993年7月
	主な活動	F1カーの開発、F1レースへの参加

士別試験場

東富士研究所

トヨタヨーロッパ
デザインディベロップメント（有）（ED²）

トヨタモータースポーツ（有）
（TMG）

トヨタテクニカルセンター
（本社内）

豊田中央研究所

■日本

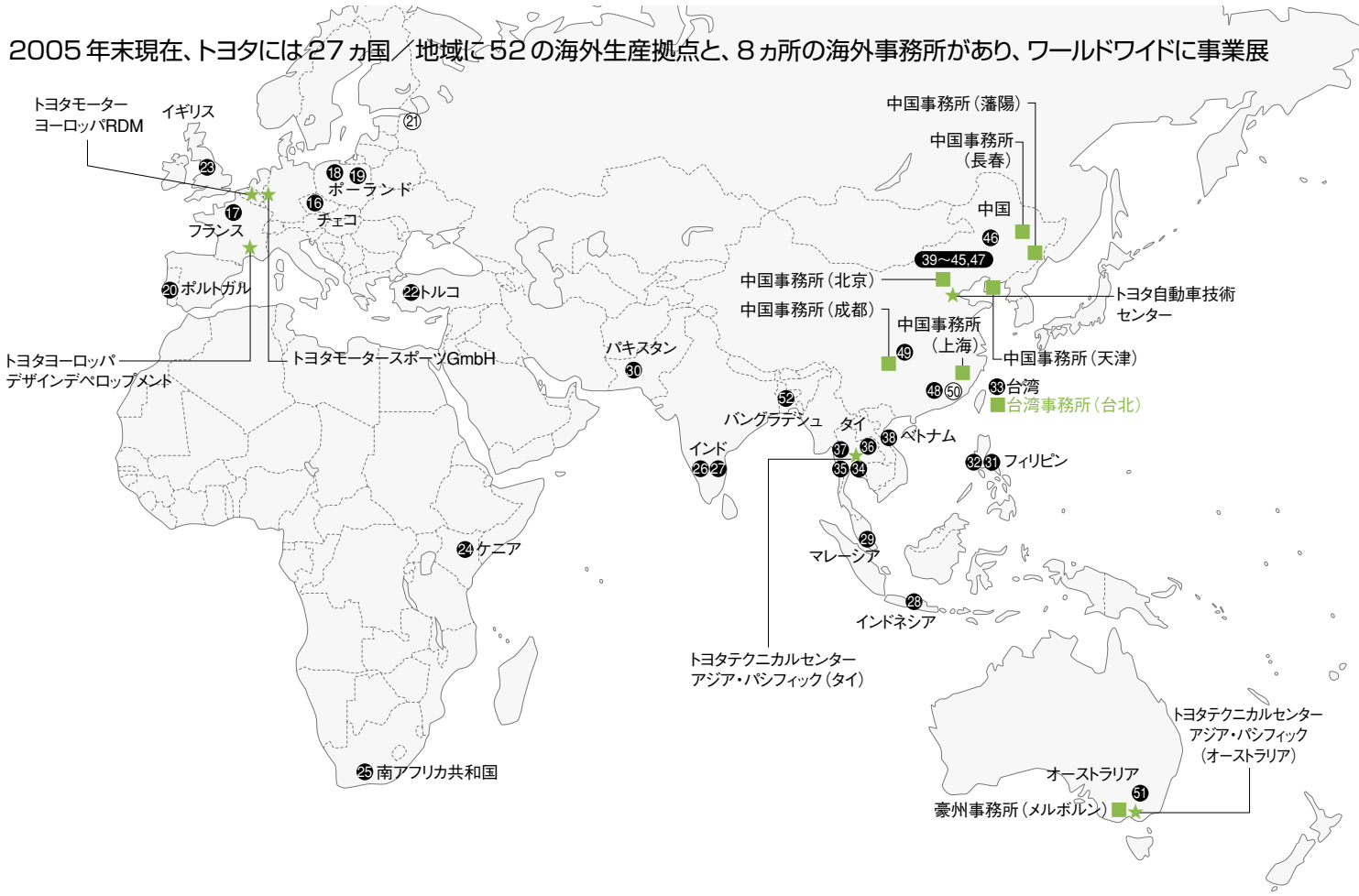
トヨタテクニカルセンター（本社内）	所在地	愛知県豊田市トヨタ町
	主な活動	デザイン、プロトタイプの研究開発とその企画、車両の評価等
（株）豊田中央研究所	所在地	愛知県愛知郡長久手町
	設立年月	1960年11月
	主な活動	総合技術の開発、利用に関する各種の研究試験・調査
東富士研究所	所在地	静岡県裾野市御宿
	設立年月	1966年11月
	主な活動	車両の新技術開発及びエンジンの新技術研究
士別試験場	所在地	北海道士別市温根別町
	設立年月	1984年10月
	主な活動	車両の高速総合性能、各種寒冷地試験及び評価

■アジア・太平洋

トヨタテクニカルセンターアジア・パシフィック タイ（株）（TTCAP-TH）	所在地	タイ　サムットプラカン県
	設立年月	2003年9月
	主な活動	デザインの研究開発とその評価、アジア太平洋地域の技術情報の提供
トヨタテクニカルセンターアジア・パシフィック オーストラリア（株）（TTCAP-AU）	所在地	オーストラリア　ビクトリア州メルボルン
	設立年月	2003年6月
	主な活動	デザインの研究開発

海外生産拠点等一覧

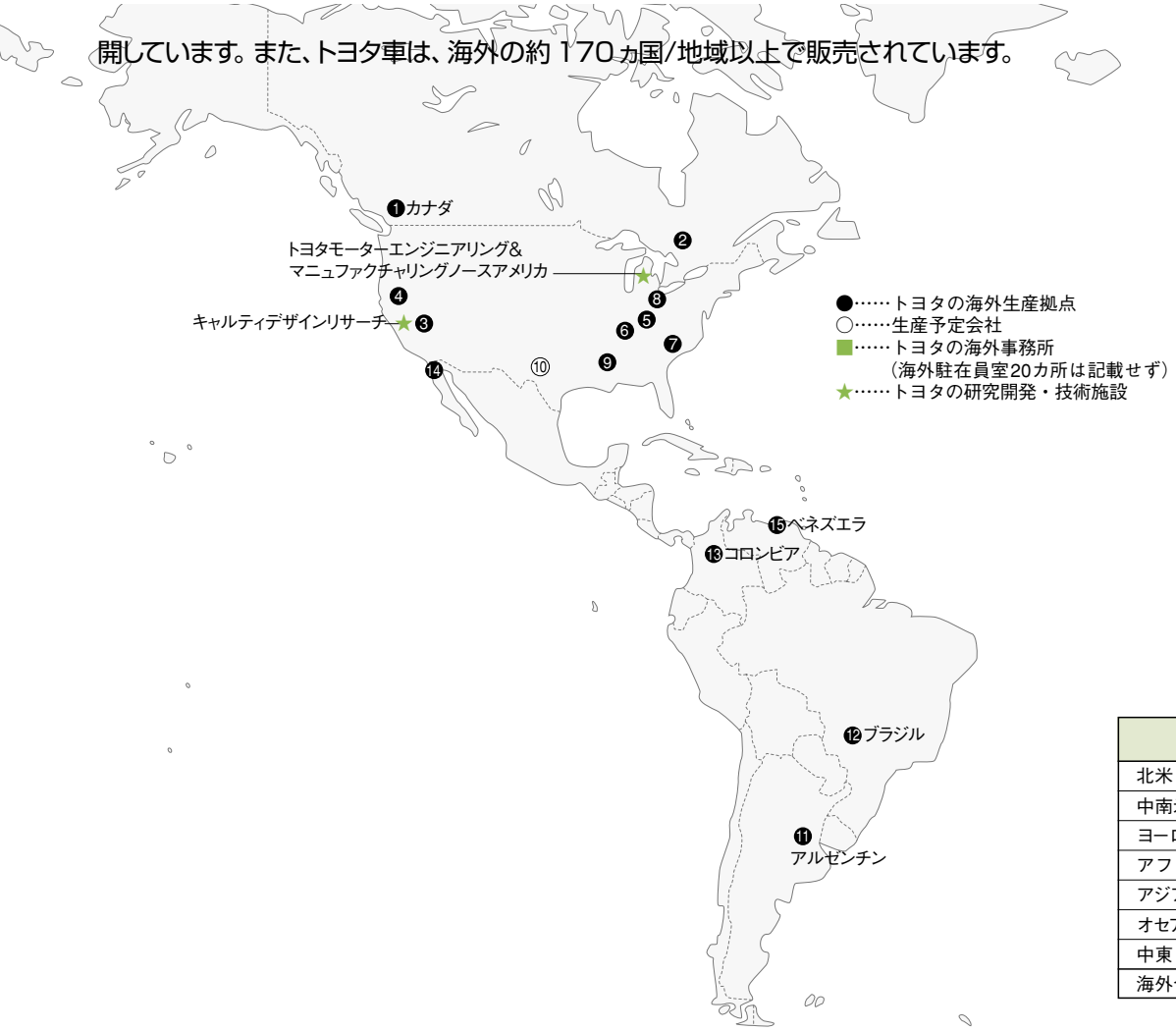
2005年末現在、トヨタには27ヵ国／地域に52の海外生産拠点と、8ヵ所の海外事務所があり、ワールドワイドに事業展



■トヨタの海外生産拠点一覧（生産会社52社、27カ国/地域）

国／地域		会社名	
北米	カナダ	❶	Canadian Autoparts Toyota Inc. (CAPTIN)
		❷	Toyota Motor Manufacturing Canada Inc. (TMMC)
	アメリカ	❸	TABC, Inc.
		❹	New United Motor Manufacturing, Inc. (NUMMI)
		❺	Toyota Motor Manufacturing, Kentucky, Inc. (TMMK)
		❻	Bodine Aluminum, Inc.
		❼	Toyota Motor Manufacturing, West Virginia, Inc. (TMMWV)
		❽	Toyota Motor Manufacturing, Indiana, Inc. (TMMI)
		❾	Toyota Motor Manufacturing, Alabama, Inc.（TMMAL）
		⑩	Toyota Motor Manufacturing, Texas, Inc. (TMMTX) (2006年予定)
中南米	アルゼンチン	⓫	Toyota Argentina S.A.
	ブラジル	⓬	Toyota do Brasil LTDA.
	コロンビア	⓭	Sociedad de Fabricacion de Automotores S.A.
	メキシコ	⓮	Toyota Motor Manufacturing de Baja California S.de R.L.de C.V. (TMMBC)
	ベネズエラ	⓯	Toyota de Venezuela Compania Anonima（TDV）
欧州	チェコ	⓰	Toyota Peugeot Citroën Automobile Czech,s.r.o.（TPCA）
	フランス	⓱	Toyota Motor Manufacturing France S.A.S.（TMMF）
	ポーランド	⓲	Toyota Motor Manufacturing Poland SP.zo.o（TMMP）
		⓳	Toyota Motor Industries Poland SP.zo.o（TMIP）
	ポルトガル	⓴	Salvador Caetano I.M.V.T., S.A.
	ロシア	㉑	Toyota Motor Manufacturing Russia Ltd.（TMMR）(2007年予定)
	トルコ	㉒	Toyota Motor Manufacturing Turkey Inc.（TMMT）
	イギリス	㉓	Toyota Motor Manufacturing (UK) Ltd.（TMUK）
アフリカ	ケニア	㉔	Associated Vehicle Assemblers Ltd.
	南アフリカ共和国	㉕	Toyota South Africa Motors (Pty) Ltd.
アジア	インド	㉖	Toyota Kirloskar Motor Private Ltd.（TKM）
		㉗	Toyota Kirloskar Auto Parts Private Ltd.（TKAP）

開しています。また、トヨタ車は、海外の約170ヵ国/地域以上で販売されています。



地域	生産拠点
北米	10
中南米	5
ヨーロッパ	8
アフリカ	2
アジア（日本を除く）	25
オセアニア	1
中東	1
海外合計	52

国／地域		会社名	
アジア	インドネシア	㉘	PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia
	マレーシア	㉙	Assembly Services Sdn. Bhd.（ASSB）
	パキスタン	㉚	Indus Motor Company Ltd.
	フィリピン	㉛	Toyota Motor Philippines Corp.（TMP）
		㉜	Toyota Autoparts Philippines Inc.
	台湾	㉝	國瑞汽車股份有限公司（Kuozui Motors,Ltd.）
	タイ	㉞	Toyota Motor Thailand Co., Ltd.（TMT）
		㉟	Toyota Auto Body Thailand Co., Ltd
		㊱	Thai Auto Work Co., Ltd.（TAW）
		㊲	Siam Toyota Manufacturing Co., Ltd.
	ベトナム	㊳	Toyota Motor Vietnam Co., Ltd.
	中国	㊴	天津津豊汽車底盤部件有限公司 （Tianjin Jinfeng Auto Parts Co.,Ltd.（TJAC））
		㊵	天津豊津汽車伝動部件有限公司 （Tianjin Fengjin Auto Parts Co.,Ltd.（TFAP））
		㊶	天津豊田汽車発動機有限公司 （Tianjin Toyota Motor Engine Co.,Ltd.（TTME））
		㊷	天津豊田汽車鍛造部件有限公司 （Tianjin Toyota Forging Co.,Ltd.（TTFC））
		㊸	天津豊田冲压部件有限公司 （Tianjin Toyota Press Co.,Ltd.）
		㊹	天津豊田樹脂部件有限公司 （Tianjin Toyota Resin Co.,Ltd.）
		㊺	天津一汽豊田汽車有限公司 （Tianjin FAW Toyota Motor Co.,Ltd.（TFTM））
		㊻	一汽豊田（長春）発動機有限公司 （FAW Toyota（Changchun）Engine Co.,Ltd.（FTCE））
		㊼	豊田一汽（天津）模具有限公司 （Toyota FAW（Tianjin）Dies Co.,Ltd.）（TFTD）
		㊽	広汽豊田汽車発動機有限公司 （Guangqi Toyota Engine Co.,Ltd.（GTE））
		㊾	四川一汽豊田汽車有限公司 （Sichuan FAW Toyota Motor Co.,Ltd.（SFTM））
		㊿	広州豊田汽車有限公司 （Guangzhou Toyota Motor Co.,Ltd.（GTMC））（2006年予定）
オセアニア	オーストラリア	㊶	Toyota Motor Corporation Australia Ltd.（TMCA）
中東	バングラデッシュ	㊷	Aftab Automobiles Ltd.

地域別生産・販売台数／地域別・車名別輸出台数

■トヨタの地域別海外生産台数の推移

（単位：千台）

地域	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
北米	782.9	838.3	962.8	1,061.9	1,104.0	1,088.5	1,205.3	1,278.4	1,444.0	1,535.1
中南米	3.2	3.8	15.3	16.8	19.6	17.5	27.8	58.1	80.4	138.5
ヨーロッパ	150.3	132.5	190.0	190.5	188.1	219.5	383.6	466.1	582.5	638.2
アフリカ	85.0	91.2	74.1	68.4	77.5	77.5	75.5	93.3	108.8	121.1
アジア	257.0	244.4	125.5	182.8	269.8	282.7	371.8	548.4	717.0	1,029.2
オセアニア	67.6	77.6	100.4	91.0	92.4	94.6	86.6	113.6	109.9	109.2
海外生産合計	1,346.1	1,387.9	1,468.1	1,611.5	1,751.3	1,780.3	2,150.5	2,558.0	3,042.7	3,571.3
国内生産合計	3,410.1	3,502.0	3,165.8	3,118.2	3,429.2	3,354.4	3,485.2	3,520.3	3,680.9	3,789.6
全世界合計	4,756.1	4,890.0	4,634.0	4,729.7	5,180.5	5,134.7	5,635.7	6,078.3	6,723.7	7,360.9

注）地域区分は日本自動車工業会区分。台数はトヨタとレクサスブランド。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。　資料：トヨタ自動車

■トヨタの地域別海外販売台数の推移

（単位：千台）

地域	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
北米	1,233.3	1,336.4	1,489.4	1,605.3	1,742.8	1,869.0	1,908.9	2,031.3	2,230.3	2,436.1
中南米	100.4	135.4	151.6	125.9	129.1	132.0	128.8	162.1	214.9	270.5
ヨーロッパ	438.8	501.8	560.5	606.8	671.9	672.3	764.8	851.5	946.9	995.2
アフリカ	135.5	143.6	129.7	123.2	121.8	126.5	139.8	160.6	206.7	227.2
アジア	455.3	425.7	240.1	263.6	371.7	380.3	493.4	682.4	846.3	1,062.9
オセアニア	144.2	148.2	176.5	171.8	176.7	162.2	182.2	215.1	232.8	236.9
中近東	114.4	146.7	182.3	161.4	168.7	204.3	220.3	251.4	270.9	325.3
海外販売合計	2,621.8	2,837.6	2,930.0	3,058.1	3,382.6	3,546.7	3,838.3	4,354.5	4,948.8	5,554.1
国内販売合計	2,135.3	2,005.9	1,711.0	1,664.4	1,771.7	1,715.2	1,680.5	1,715.9	1,758.8	1,713.1
全世界合計	4,757.0	4,843.6	4,641.0	4,722.5	5,154.3	5,261.9	5,518.8	6,070.4	6,707.6	7,267.3

注）地域区分は日本自動車工業会区分。台数はトヨタとレクサスブランド。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。　資料：トヨタ自動車

■トヨタ車の地域別輸出台数

（単位：千台）

地域	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
北米	456.3	510.8	569.5	650.1	717.7	720.8	852.1	782.8	813.5	939.6
中南米	86.2	135.3	125.1	89.0	93.9	97.4	75.2	71.5	95.6	120.2
ヨーロッパ	303.6	404.1	372.5	447.9	491.1	433.1	392.7	424.6	419.0	360.5
アフリカ	44.2	47.3	49.2	42.3	37.4	38.2	53.6	58.2	92.0	100.1
アジア	184.3	161.6	79.3	93.4	117.5	99.0	147.2	154.7	156.2	129.8
オセアニア	82.1	93.6	104.2	102.3	115.0	113.1	128.1	154.1	164.6	159.2
中近東	112.1	133.7	155.7	114.5	126.3	158.5	160.4	182.6	202.1	226.5
合計	1,276.7	1,494.3	1,462.8	1,548.0	1,706.2	1,665.7	1,816.8	1,836.0	1,951.7	2,043.2

注）地域区分は日本自動車工業会区分。台数はトヨタとレクサスブランド。「KDセット」（「KDセット」とは、1台当りの構成部品価格が60％未満のもので、部品扱い）を除く。
合計にはその他の地域を含む。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。　資料：トヨタ自動車

■トヨタ車の車名別輸出台数（車名イタリック体はレクサスブランド）

（単位：台）

車　名	輸出開始年	2005年輸出台数	2005年までの輸出累計
ランドクルーザー	1952	244,000	4,064,783
RAV4	1994	220,166	1,713,162
カローラ	1966	209,540	11,567,566
ハイラックス	1968	193,813	9,386,311
ヤリス(エコー/ヤリス・バーソ(ヴィッツ/プラッツ/ファンカーゴ)	1998	172,473	1,576,206
プリウス	2000	135,860	284,632
ハイランダー(クルーガーV)	2000	124,459	655,506
(内ハイランダーハイブリッド(クルーガーVハイブリッド)	2005	27,240	27,240)
Scion tC	2004	76,969	111,685
ハイエース	1967	75,884	2,119,807
カムリ/カムリCNG	1982	60,320	3,113,079
Scion xB	2003	52,996	117,752
Scion xA/xA	2003	30,978	68,687
ダイナ/トヨエース	1957	28,282	912,966
プレビア(エスティマ)	1990	16,175	468,688
ピクニック(イプサム)	1996	9,363	172,080

車　名	輸出開始年	2005年輸出台数	2005年までの輸出累計
コースター	1969	7,917	195,446
クラウン	1954	7,477	757,609
セリカ	1970	7,104	3,304,989
ウィッシュ	2003	4,820	22,490
MR-S	1984	2,564	246,408
ES(ウィンダム)	1989	77,291	831,063
GS	1993	56,195	312,704
RX(ハリアー)	1997	41,755	621,377
(内RXハイブリッド(ハリアーハイブリッド)	2005	33,472	33,472)
IS	1998	35,703	208,279
GX(ランドクルーザー)	2002	35,176	109,026
LS(セルシオ)	1989	31,421	518,877
LX(ランドクルーザーシグナス)	1995	13,167	130,818
SC	1991	9,945	154,818

資料：トヨタ自動車

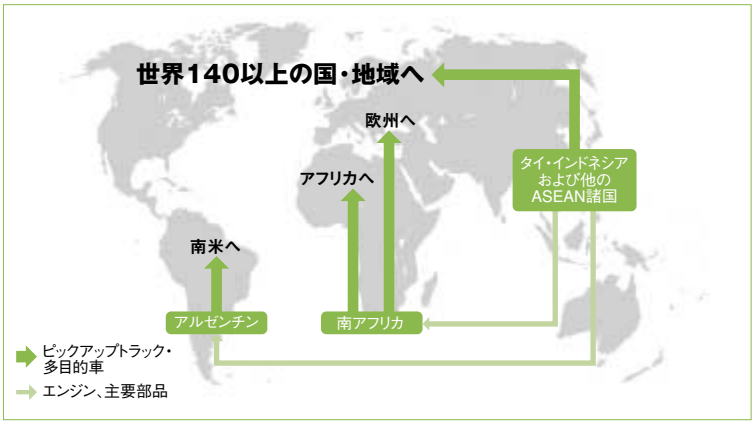
注）1. ハイラックスは4ランナーを含む。
2. カローラはカローラスパシオを含む。
3. RAV4はEVを含む。
4. ハイエースはハイエースセミボンを含む。
5. MR-Sの累計台数はMR2を含む。
6. （ ）内は日本名。
7. 「KDセット」（「KDセット」とは、1台当りの構成部品価格が60％未満のもので、部品扱い）を除く。

世界最適生産・供給体制（IMVプロジェクト）

トヨタは2004年8月、IMV※1シリーズの生産をまずタイから開始。これは世界140カ国以上の市場に導入することを前提に、ピックアップトラックなどを海外向け専用に新たに開発し、世界規模の最適生産・供給体制を構築しようとするものです。タイ、インドネシア、南アフリカ、アルゼンチンの4カ国で生産した同車両をアジア、欧州、アフリカ、オセアニア、中南米、中近東の各国に供給するほか、インド、フィリピン、マレーシアなどでは自国市場向けの車両を生産します。また、エンジンなどの主要部品も、タイ、インドネシア、フィリピン、インドの各工場で役割を分担して生産し、車両生産国に供給します。

注）※1　IMV：Innovative International Multi-purpose Vehicle

■IMVプロジェクトの概要（イメージ）図



■IMVシリーズの「FORTUNER」

■IMVプロジェクトの主な生産拠点

国名	生産車種	生産開始	年間生産能力	輸入先
タイ	ピックアップトラック SUV	2004年　8月 2004年11月	計35万台：2007年 （うち輸出15.2万台程度）	アジア、欧州 オセアニア等
インドネシア	ミニバン	2004年　9月	10万台：2006年 （うち輸出1.2万台程度）	アジア、中近東
南アフリカ	ピックアップトラック/SUV	2005年　4月	12万台：2007年 （うち輸出6万台程度）	欧州、アフリカ等
アルゼンチン	ピックアップトラック/SUV	2005年　2月	6.5万台：2006年 （うち輸出4.5万台程度）	中南米

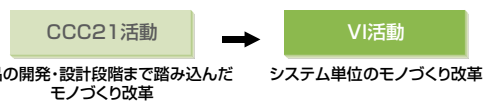
各国の生産拠点名は次の通り。
タイ：Toyota Motor Thailand Co.,Ltd.　インドネシア：PT.Toyota Motor Manufacturing Indonesia
南アフリカ：Toyota South Africa Motors（Pty.）Ltd.　アルゼンチン：Toyota Argentina S.A.

原価低減活動（VIプロジェクト）

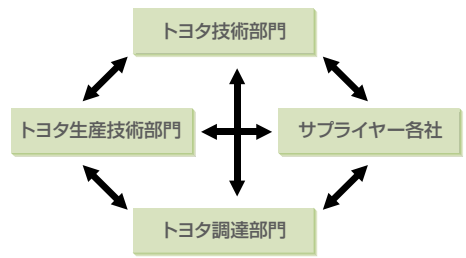
トヨタは、世界のお客様に「より良いクルマをより安く」提供するために、新たな発想で原価低減活動を推進しています。2000年からは、部品メーカーなどサプライヤーと一体となって総原価低減活動CCC21※2を展開、さらにこの実績を踏まえ、2005年4月からは新たな取り組みとしてVI※3活動を立ち上げ、設計思想の変革にまで踏み込んだ新たな発想の下、複数の部品をシステム単位で見直すことにより、トータルでの画期的な原価低減を目指しています。

注）※2　CCC21：Construction of Cost Competitiveness for the 21st Century
※3　VI：Value Innovation

■原価低減プロジェクトの推移

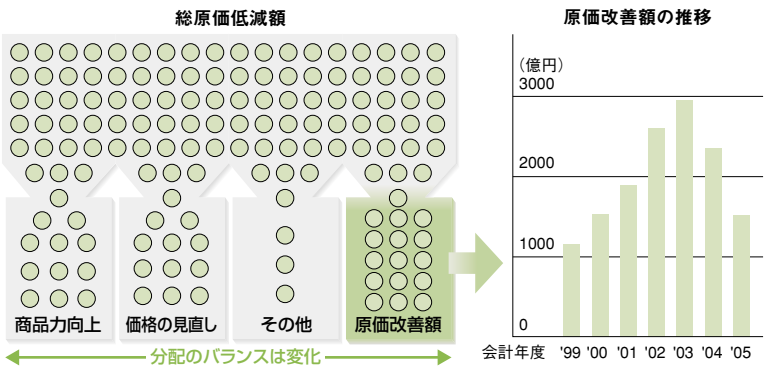


■四位一体改革



■トヨタの原価低減成果の配分

トヨタの原価低減活動の成果は、原価改善額だけでとらえるものではありません。その成果原資は商品力向上や価格の見直しなどにも配分され、お客様にも還元されています。



北米での活動

■生産体制

（単位：千台）

国／地域		会社名	生産開始	従業員数	生産品目	生産台数(2005)
カナダ	❶	Canadian Autoparts Toyota Inc.(CAPTIN)	1985.2	242	アルミホイール	—
	❷	Toyota Motor Manufacturing Canada Inc.(TMMC)	1988.11	4,518	カローラ、マトリックス、RX330	306.0
					エンジン	217.8
アメリカ	❸	TABC, Inc.	1971.11	662	荷台、触媒コンバータ、プレス部品、ステアリングコラム、エンジン	—
	❹	New United Motor Manufacturing, Inc.（NUMMI）	1984.12	5,402	カローラ、タコマ、ヴォルツ	355.1※
	❺	Toyota Motor Manufacturing, Kentucky, Inc.（TMMK）	1988.5	6,820	アバロン、カムリ、ソラーラ	509.1
					エンジン	444.2
	❻	Bodine Aluminum, Inc.	1993.1	980	アルミ鋳物	—
	❼	Toyota Motor Manufacturing, West Virginia, Inc.（TMMWV）	1998.11	926	エンジン	464.4
					トランスミッション	394.5
	❽	Toyota Motor Manufacturing, Indiana, Inc.(TMMI)	1999.2	4,634	タンドラ、セコイア、シエナ	364.9
	❾	Toyota Motor Manufacturing, Alabama, Inc.(TMMAL)	2003.4	480	エンジン	168.8
	❿	Toyota Motor Manufacturing, Texas, Inc.(TMMTX)	2006（予定）	447	タンドラ	—

注）※ NUMMIの生産台数はGMのVibe（62,000台）を含まない。

■地域本部

国／地域	会社名	設立	主な活動
アメリカ	Toyota Motor North America, Inc.(TMA)	1996.3	北米全体の渉外・広報・調査活動
	Toyota Motor Engineering & Manufacturing North America, Inc.(TEMA)※	2006.4	北米での研究開発と製造支援

注）※TMMNAとTTCの持つ研究開発機能を2006年4月に統合し、社名をTEMAと変更。

■販売拠点

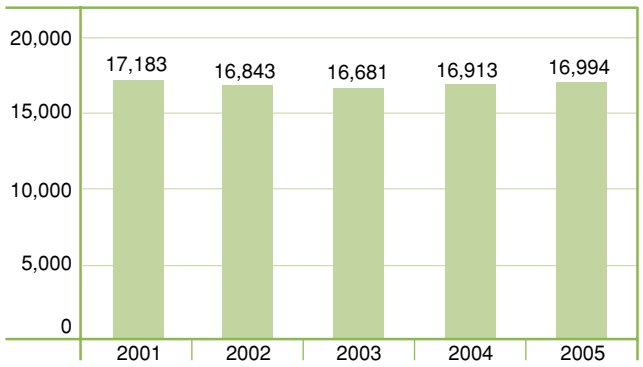
販売店数※	北米での販売台数（単位：千台）
3	2,436.1

注）※ 2005年5月現在。

■アメリカ

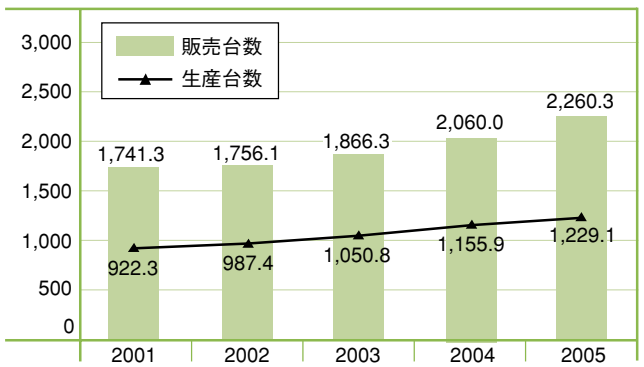
●自動車市場の推移

（単位：千台）



●トヨタの生産・販売台数の推移

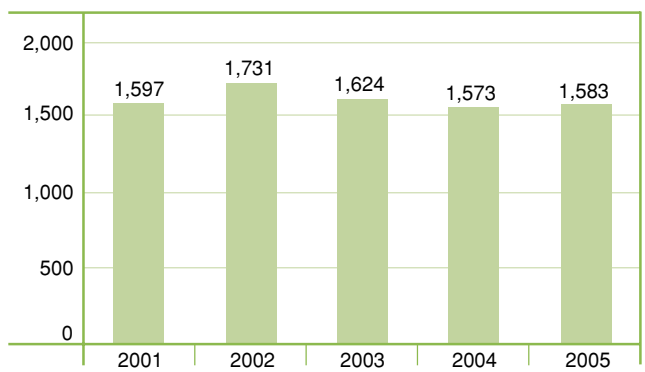
（単位：千台）



■カナダ

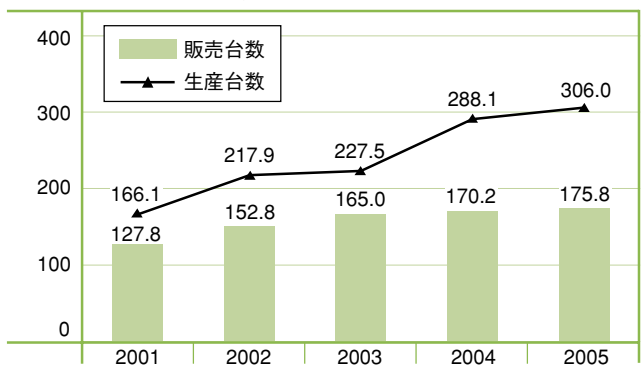
●自動車市場の推移

（単位：千台）



●トヨタの生産・販売台数の推移

（単位：千台）



中南米での活動

■生産体制

（単位：千台）

国／地域	会社名	生産開始	従業員数	生産品目	生産台数(2005)
アルゼンチン ❶	Toyota Argentina S.A.（TASA）	1997.3	2,432	ハイラックス	46.2
ブラジル ❷	Toyota do Brasil LTDA.	1959.5	2,487	カローラフィールダー	57.8
コロンビア ❸	Sociedad de Fabricacion de Automotores S.A.	1992.3	1,316	ハイラックス、ランドクルーザープラド	12.6
メキシコ ❹	Toyota Motor Manufacturing de Baja California, S.de R. L. de C.V.（TMMBC）	2004.9	794	荷台	—
				タコマ	23.7
ベネズエラ ❺	Toyota de Venezuela Compania Anonima（TDV）	1981.11	1,289	カローラ、ダイナ、ランドクルーザーテリオス※、ハイラックス	16.5

注）※ ダイハツブランドで生産台数に含まず。

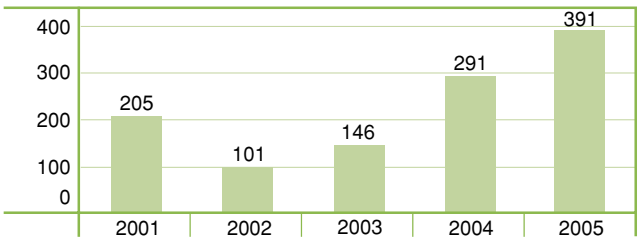
■販売拠点

販売店数※	中南米での販売台数（単位：千台）
44	270.5

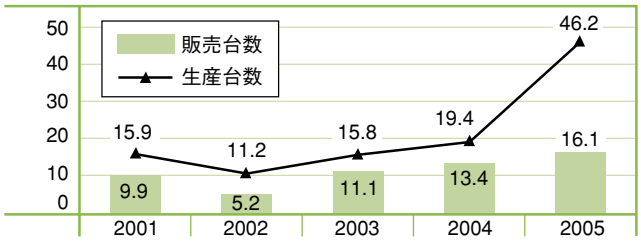
注）※ 2005年5月現在。

■アルゼンチン

●自動車市場の推移

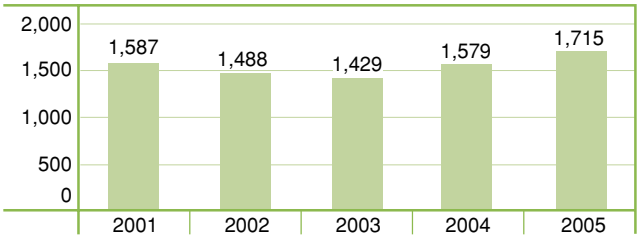


●トヨタの生産・販売台数の推移

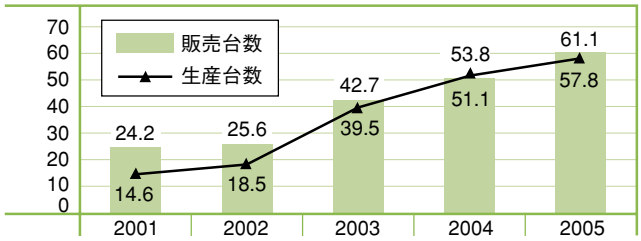


■ブラジル

●自動車市場の推移

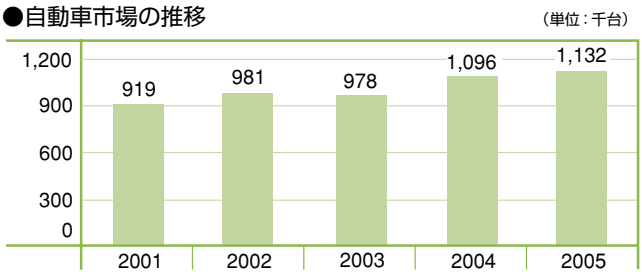


●トヨタの生産・販売台数の推移

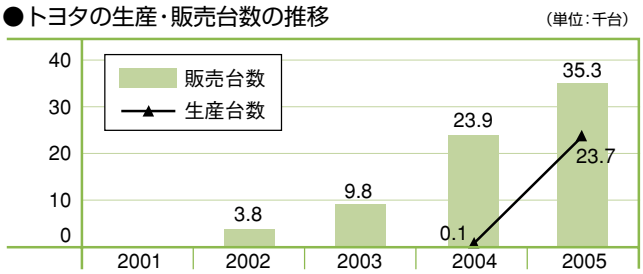


■メキシコ

●自動車市場の推移



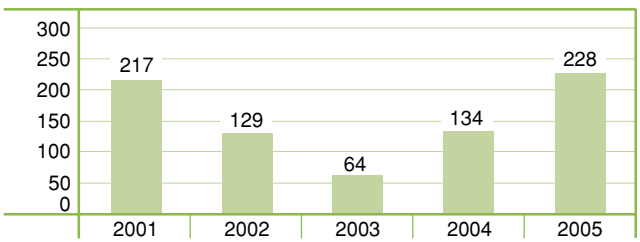
●トヨタの生産・販売台数の推移



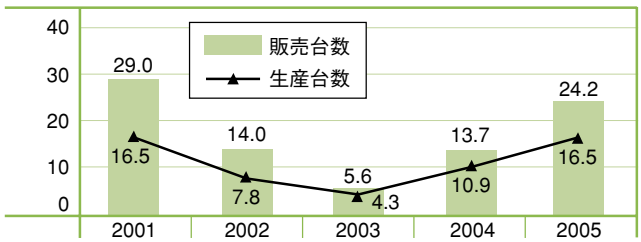
注）トヨタのメキシコでの販売は2002年から、生産は2004年から開始。

■ベネズエラ

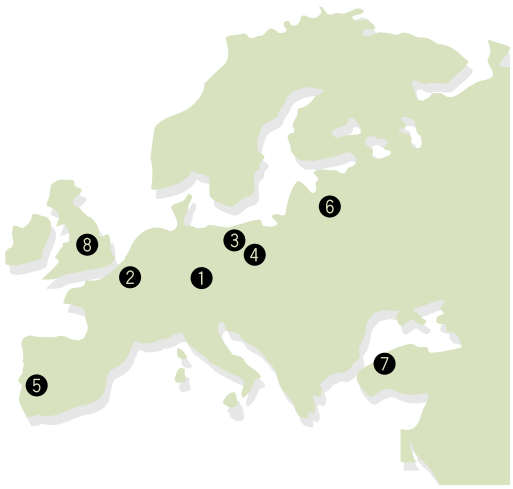
●自動車市場の推移



●トヨタの生産・販売台数の推移



ヨーロッパでの活動



生産体制

（単位：千台）

国／地域	会社名	生産開始	従業員数	生産品目	生産台数（2005）
チェコ ❶	Toyota Peugeot Citröen Automobile Czech, s.r.o. (TPCA)	2005.2	3,225	アイゴ	34.6※
フランス ❷	Toyota Motor Manufacturing France S.A.S.(TMMF)	2001.1	3,829	ヤリス(ヴィッツ)	180.6
				エンジン	191.6
ポーランド ❸	Toyota Motor Manufacturing Poland SP.zo.o.(TMMP)	2002.4	1,967	トランスミッション	331.4
				エンジン	101.5
❹	Toyota Motor Industries Poland SP.zo.o.(TMIP)	2005.3	834	エンジン	45.0
ポルトガル ❺	Salvador Caetano I.M.V.T., S.A.	1968.8	950	ダイナ、ハイエース、オプティモ	3.9
ロシア ❻	Toyota Motor Manufacturing Russia Ltd. (TMMR)	2007（予定）	500	カムリ	―
トルコ ❼	Toyota Motor Manufacturing Turkey Inc.(TMMT)	1994.9	3,421	カローラ	158.6
イギリス ❽	Toyota Motor Manufacturing (UK) Ltd. (TMUK)	1992.9	4,897	アベンシス、カローラ	264.3
				エンジン	174.7

注）※ TPCAの生産台数はPSAの生産台数を含まない。

地域本部

会社名	設立	主な活動
Toyota Motor Europe NV/SA	2005.10	トヨタの欧州事業の統括

販売拠点

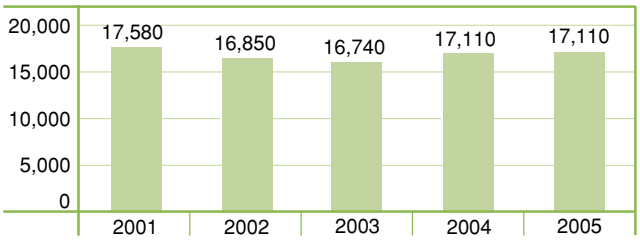
販売店数※	ヨーロッパでの販売台数（単位：千台）
28	995.2

注）※ 2005年5月現在。

ヨーロッパ

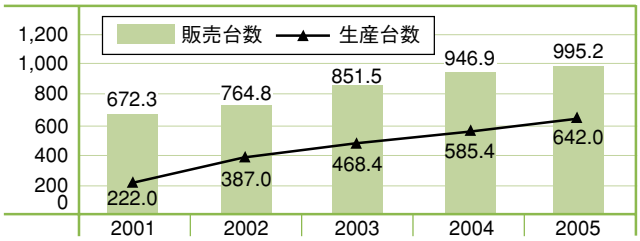
●自動車市場の推移

（単位：千台）



●トヨタの生産・販売台数の推移

（単位：千台）



アフリカでの活動

生産体制

（単位：千台）

国／地域	会社名	生産開始	従業員数	生産品目	生産台数（2005）
ケニヤ ❶	Associated Vehicle Assemblers Ltd.	1977.8	360	ハイエース、ランドクルーザー	1.7
南アフリカ共和国 ❷	Toyota South Africa Motors (Pty) Ltd.	1962.6	8,690	カローラ、ダイナ、ハイエース、ハイラックス、	123.8
				エンジン	96.1

販売拠点

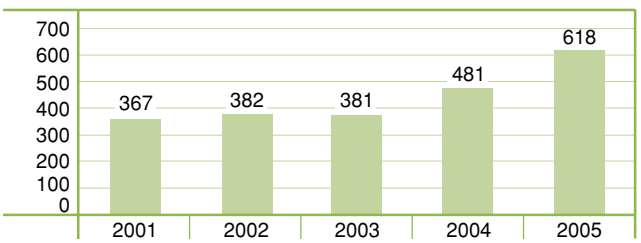
販売店数※	アフリカでの販売台数（単位：千台）
48	227.2

注）※ 2005年5月現在。

南アフリカ共和国

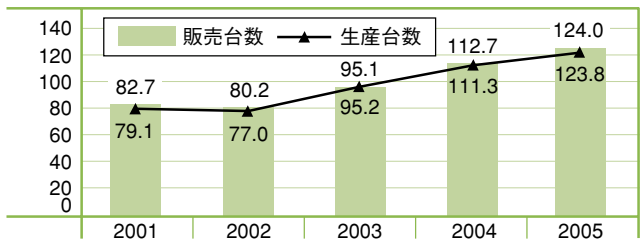
●自動車市場の推移

（単位：千台）

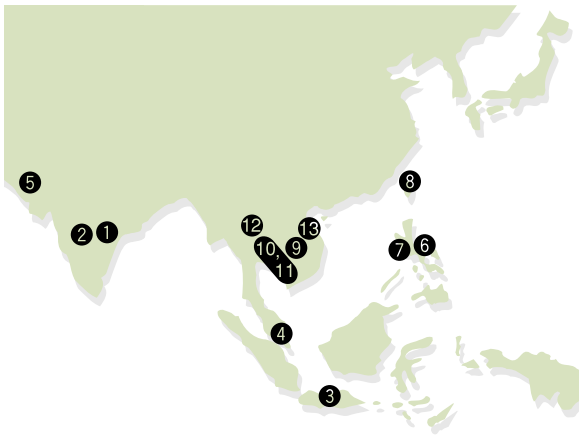


●トヨタの生産・販売台数の推移

（単位：千台）



アジアでの活動



地域本部

国／地域	会社名	設立	主な活動
シンガポール	Toyota Motor Asia Pacific Pte Ltd.	1990.7	アセアン各国への部品供給とアジアでのマーケティング販売サポート

生産体制

（単位：千台）

国／地域		会社名	生産開始	従業員数	生産品目	生産台数（2005）
インド	❶	Toyota Kirloskar Motor Private Ltd.（TKM）	1999.12	2,378	イノーバ、カローラ	44.5
	❷	Toyota Kirloskar Auto Parts Private Ltd.（TKAP）	2002.7	800	アクセル、トランスミッション、プロペラシャフト	—
インドネシア	❸	PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia	1970.5	3,895	キジャンイノーバ、キジャンP/U	113.2
					エンジン	232.8
マレーシア	❹	Assembly Services Sdn. Bhd.（ASSB）	1968.2	3,236	カムリ、カローラ、ハイエース、ハイラックス、ヴィオス、イノーバ、フォーチュナー	54.5
					エンジン	10.5※1
パキスタン	❺	Indus Motor Company Ltd.	1993.3	1,634	カローラ、ハイラックス、クオーレ※2	28.5
フィリピン	❻	Toyota Motor Philippines Corp.（TMP）	1989.2	1,287	カムリ、カローラ、イノーバ	17.8
	❼	Toyota Autoparts Philippines Inc.（TAP）	1992.9	581	トランスミッション、等速ジョイント	220.7
台湾	❽	國瑞汽車股份有限公司	1986.1	2,502	カムリ、カローラ、ヴィオス、ウィッシュ、ハイエース、ゼイス、ダイナ、エンジン、プレス部品	139.7
タイ	❾	Toyota Motor Thailand Co., Ltd.（TMT）	1964.12	5,909	カムリ、カローラ、ハイラックスVIGO、ヴィオス、ウィッシュ	366.9
	❿	Toyota Auto Body Thailand Co., Ltd.	1979.5	134	プレス部品	—
	⓫	Thai Auto Work Co., Ltd.（TAW）	1988.5	464	フォーチュナー	49.4
	⓬	Siam Toyota Manufacturing Co., Ltd.	1989.7	2,256	エンジン	403.9
					プロペラシャフト、鋳物（ブロック、ヘッド）	—
ベトナム	⓭	Toyota Motor Vietnam Co., Ltd.	1996.8	559	カムリ、カローラ、ハイエース、ランドクルーザー、ヴィオス、イノーバ	13.3

注）※1 エンジン組立　※2 ダイハツブランドで生産台数に含まず。

販売拠点

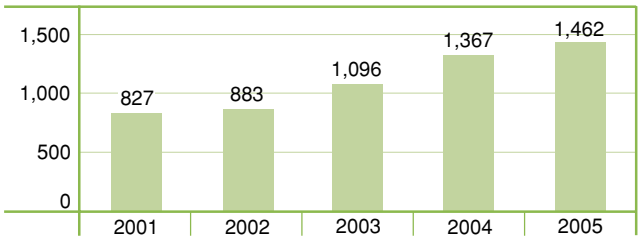
販売店数※1	アジアでの販売台数（単位：千台）
11	879.4※2

注）※1 2005年5月現在。　※2 中国の販売台数を除く。

インド

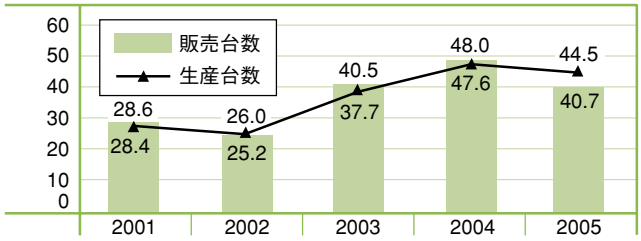
●自動車市場の推移

（単位：千台）



●トヨタの生産・販売台数の推移

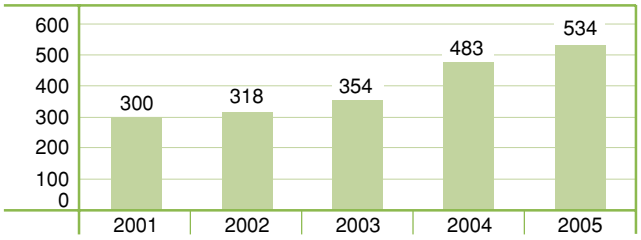
（単位：千台）



インドネシア

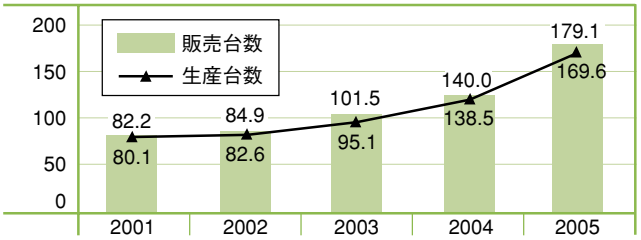
●自動車市場の推移

（単位：千台）



●トヨタの生産・販売台数の推移

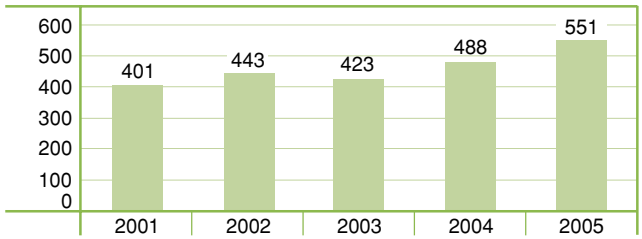
（単位：千台）



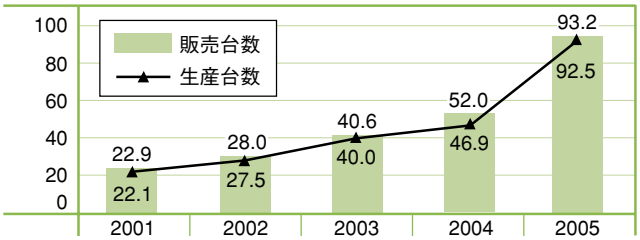
アジアでの活動

■マレーシア

●自動車市場の推移 (単位：千台)

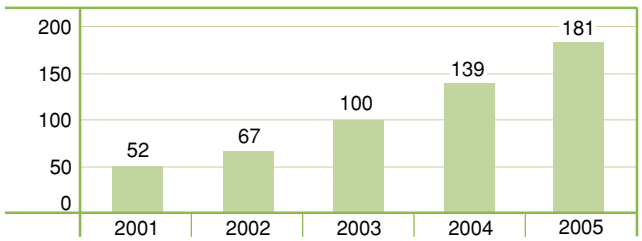


●トヨタの生産・販売台数の推移 (単位：千台)

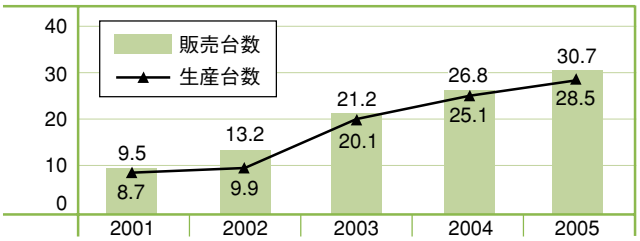


■パキスタン

●自動車市場の推移 (単位：千台)

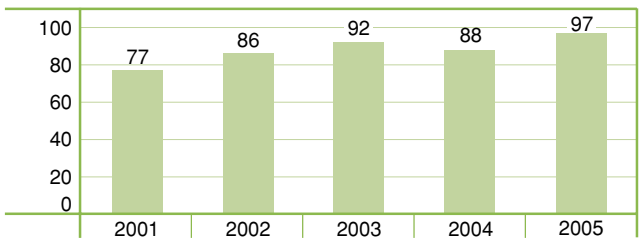


●トヨタの生産・販売台数の推移 (単位：千台)

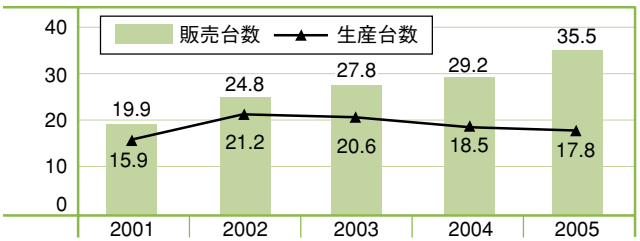


■フィリピン

●自動車市場の推移 (単位：千台)

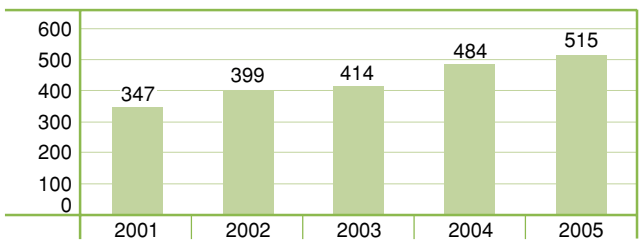


●トヨタの生産・販売台数の推移 (単位：千台)

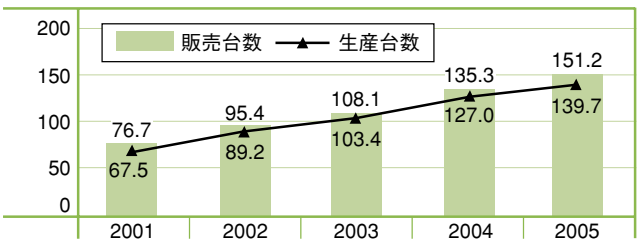


■台湾

●自動車市場の推移 (単位：千台)

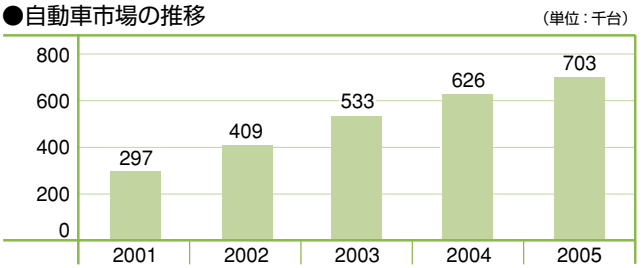


●トヨタの生産・販売台数の推移 (単位：千台)

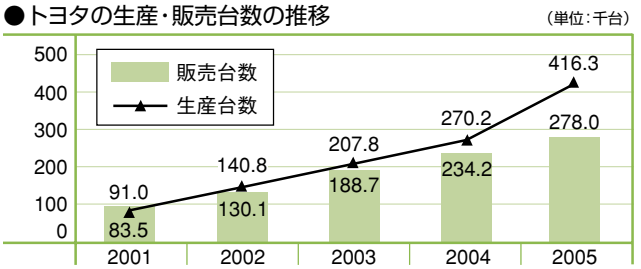


■タイ

●自動車市場の推移 (単位：千台)



●トヨタの生産・販売台数の推移 (単位：千台)



アジアでの活動（中国）

■生産体制

（単位：千台）

国／地域		会社名	生産開始	従業員数	生産品目	生産台数（2005）
中国	❶	天津津豊汽車底盤部件有限公司（TJAC）	1997.10	410	ステアリング、プロペラシャフト	—
	❷	天津豊津汽車伝動部件有限公司（TFAP）	1998.5	350	等速ジョイント、アクセル	—
	❸	天津豊田汽車発動機有限公司（TTME）	1998.7	800	エンジン	133.8
	❹	天津豊田汽車鍛造部件有限公司（TTFC）	1999.1	100	鍛造部品	—
	❺	天津豊田冲圧部件有限公司	2002.5	260	プレス部品	—
	❻	天津豊田樹脂部件有限公司	2002.5	190	プラスチック部品	—
	❼	天津一汽豊田汽車有限公司（TFTM）	2002.10	2,310	ヴィオス、カローラ、クラウン、Reiz	131.1
	❽	一汽豊田（長春）発動機有限公司（FTCE）	2004.12	250	エンジン	—
	❾	豊田一汽（天津）模具有限公司（TFTD）	2004.12	160	大物プレス金型	—
	❿	広汽豊田汽車発動機有限公司（GTE）	2005.1	50	エンジン部品（カムシャフト、クランクシャフト）、エンジン	—
	⓫	四川豊田汽車有限公司（SFTM）	2005.12	1,500	コースター、ランドクルーザープラド、ランドクルーザー、プリウス	13.4
	⓬	広州豊田汽車有限公司（GTMC）	2006（予定）	1,400	カムリ	—

■販売拠点

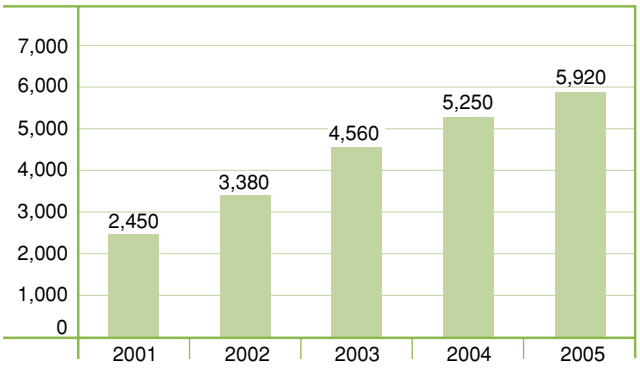
販売店数※	中国での販売台数（単位：千台）
3	183.5

注）※ 2005年5月現在。

■中国

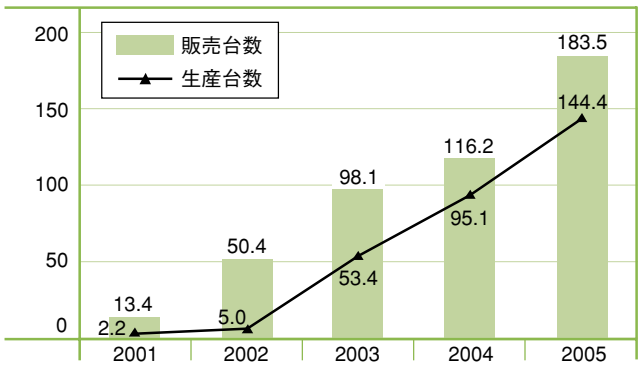
●自動車市場の推移

（単位：千台）



●トヨタの生産・販売台数の推移

（単位：千台）



オセアニア・中東での活動

■生産体制

（単位：千台）

国／地域	会社名	生産開始	従業員数	生産品目	生産台数（2005）
オーストラリア ❶	Toyota Motor Corporation Australia Ltd.（TMCA）	1963.4	4,497	アバロン、カムリ	109.2
				エンジン	87.3
バングラデッシュ ❷	Aftab Automobiles Ltd.	1982.6	110	ランドクルーザープラド、日野バス※	0.1

注）※ 日野ブランドで生産台数には含まず。

■販売拠点

販売店数※	オセアニアでの販売台数（単位：千台）
15	236.9

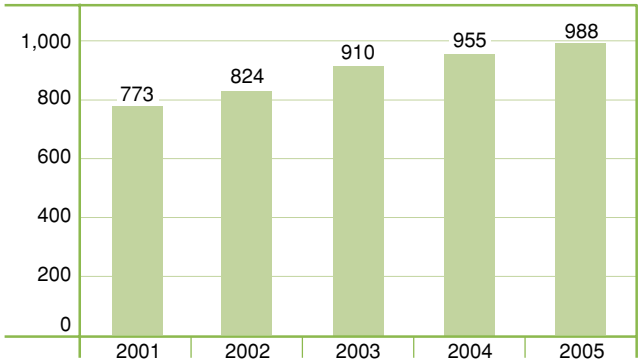
販売店数※	中東での販売台数（単位：千台）
15	325.3

注）※ 2005年5月現在。

■オーストラリア

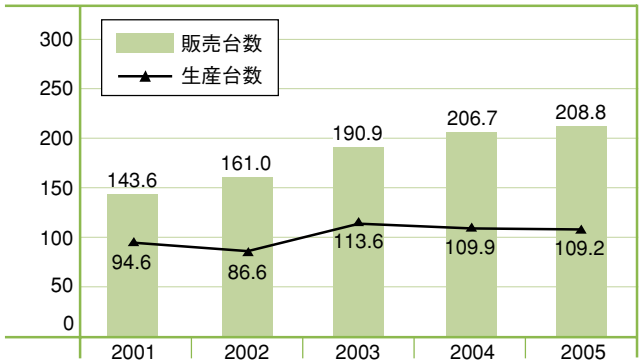
●自動車市場の推移

（単位：千台）



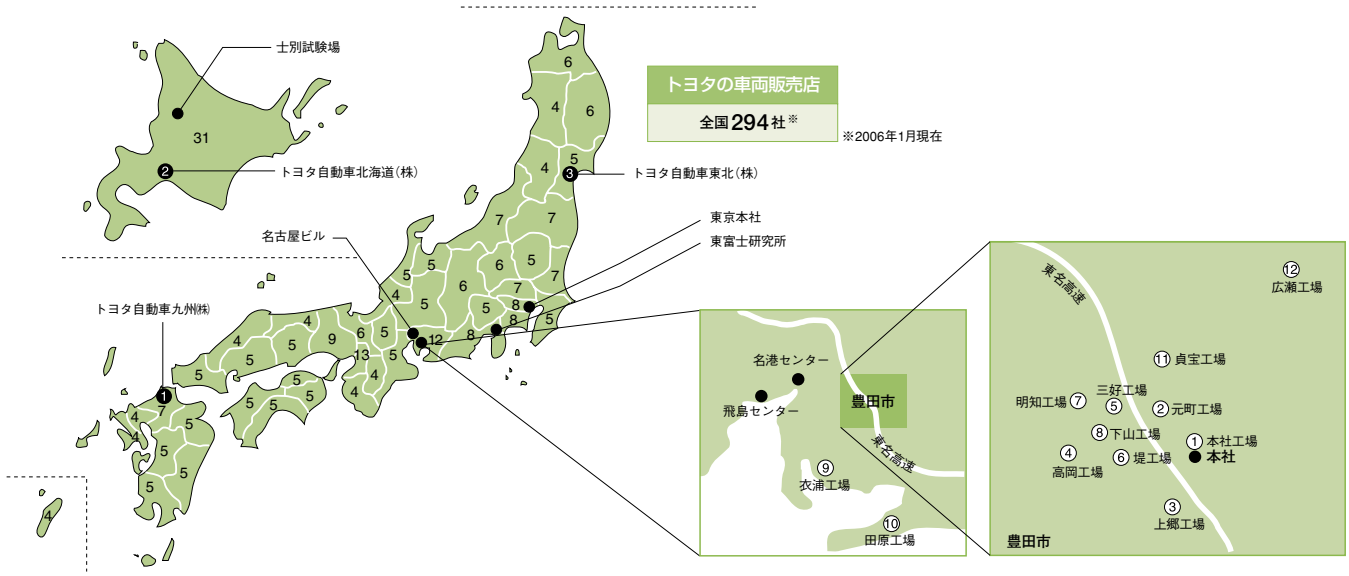
●トヨタの生産・販売台数の推移

（単位：千台）



国内の生産・販売体制

■国内の主要事業所・販売・サービスの体制



■国内の生産拠点

名　称	事業内容・生産品目	完成年月	土地面積	建物面積	従業員数
①本社工場	ランドクルーザー100・ランドクルーザー70のシャシー、鍛造部品、足廻り機械部品	1938.11	55万m²	52万m²	3,646人
②元町工場	クラウン、ブレビス、プログレ、マークX、マークⅡブリット	1959. 8	160	85	6,273
③上郷工場	エンジン	1965.11	87	55	3,243
④高岡工場	カローラ、アレックス、プラッツ、ヴィッツ、イスト、シエンタ、ポルテ、ラクティス	1966. 9	136	72	5,352
⑤三好工場	足廻り、小物部品	1968. 7	33	18	1,565
⑥堤工場	プリウス、カムリ、プレミオ、アリオン、カルディナ、ウィッシュ、サイオンtC	1970.12	94	61	5,070
⑦明知工場	エンジン・足廻り鋳物部品、足廻り機械部品	1973. 6	56	28	1,692
⑧下山工場	エンジン、排出ガス対策部品	1975. 3	42	23	1,446
⑨衣浦工場	駆動関係部品	1978. 8	84	38	3,259
⑩田原工場	セルシオ、GS、IS、ランドクルーザープラド、4ランナー、RAV4	1979. 1	403	116	6,989
⑪貞宝工場	機械設備、鋳鍛造型及び樹脂成形型	1986. 2	29	11	1,466
⑫広瀬工場	電子部品、半導体等の研究開発及び生産	1989. 3	25	9	1,376
❶トヨタ自動車九州(株)	ハリアー、クルーガー、IS	1992.12	163	35	2,453
❷トヨタ自動車北海道(株)	オートマチックトランスミッション、トランスファー、アルミホイールなど自動車部品	1992.10	99	19	2,396
❸トヨタ自動車東北(株)	メカトロ部品の生産	1998.10	29	3	200

注）1. 2005年3月現在、但し事業内容・生産品目は2005年11月現在。
2. トヨタ自動車九州(株)、トヨタ自動車北海道(株)、トヨタ自動車東北(株)はトヨタ自動車の100%出資会社。
3. 土地面積は貸借中の土地面積を含む。

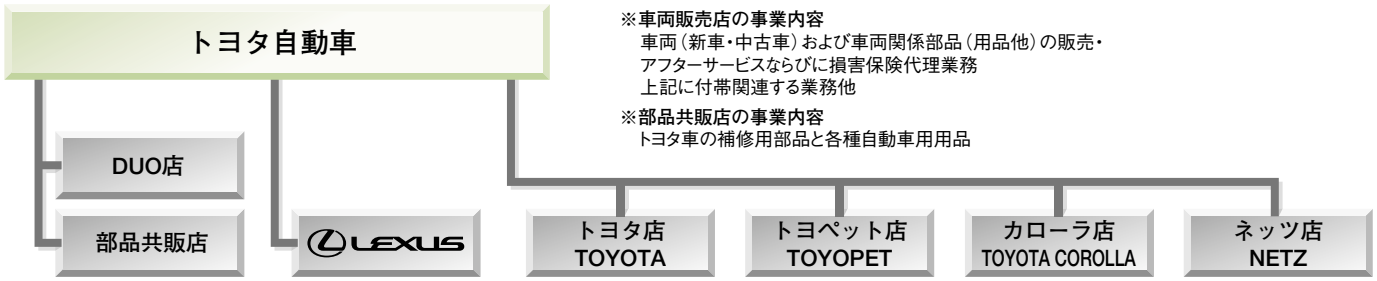
■その他の拠点

名　称	事業内容	完成年月	土地面積	建物面積	社員数
名港センター	車両船積	1964. 5	66	2	30
飛島センター	海外向け部品の船積	1985. 6	28	0.3	—
春日部品センター	補給部品各センターの統括	1961. 9	10	5	69
稲沢部品センター	大物補給部品の入出荷	1978.10	11	6	72
大口部品センター	中・小物補給部品の入出荷	1978. 1	10	6	190
上郷物流センター	海外及び国内遠隔地生産用部品・内外装補給部品の入出荷、車両中継地	1968. 8	36	14	199
飛島物流センター	海外向けの生産用部品・補給部品の入出荷	1988.11	24	8	140

注）2005年3月現在。

国内の生産・販売体制

■販売・サービス網と事業内容



※車両販売店の事業内容
車両（新車・中古車）および車両関係部品（用品他）の販売・
アフターサービスならびに損害保険代理業務
上記に付帯関連する業務他

※部品共販店の事業内容
トヨタ車の補修用部品と各種自動車用用品

■取扱車（2006年3月現在）

取扱車種＼店名	トヨタ店	東京トヨタ	大阪トヨタ	トヨペット店	東京トヨペット	大阪トヨペット	トヨタカローラ店	ネッツ店
●セダン								
センチュリー	●	●			●	●		
セルシオ	●	●	●	●	●	●		
クラウン マジェスタ	●	●			●	●		
クラウン（"ロイヤル"シリーズ、アスリート）	●	●			●	●		
クラウンセダン	●	●			●	●		
ブレビス	●	●				●		
プログレ			●	●	●			
マークX		●	●	●	●			
カムリ							●	
プレミオ			●	●	●			
アリオン	●	●				●		
アベンシス								●
プリウス	●	●	●	●	●	●		
カローラ							●	
ベルタ			●	●	●		●	
●スポーツ&スペシャルティ								
セリカ							●	
MR-S								●
●2BOX系								
カローラ スパシオ							●	
カローラ ランクス							●	
アレックス								●
ラウム								●
ポルテ	●	●	●	●	●	●		
ラクティス			●	●	●		●	
bB								●
イスト								●
ヴィッツ								●
パッソ							●	
●ステーションワゴン								
クラウンエステート	●	●			●	●		
マークIIブリット		●	●	●	●			
アベンシスワゴン								●
カルディナ	●	●	●	●	●	●		
サクシード	●	●	●	●	●	●		
カローラ フィールダー							●	
プロボックス							●	

取扱車種＼店名	トヨタ店	東京トヨタ	大阪トヨタ	トヨペット店	東京トヨペット	大阪トヨペット	トヨタカローラ店	ネッツ店
●ミニバン・キャブワゴン								
エスティマ	●	●				●	●	
アイシス	●	●				●		
イプサム			●	●	●			●
ウィッシュ								●
シエンタ							●	●
アルファードG			●	●	●			
アルファードV								●
アルファードハイブリッド			●	●	●			●
ハイエース		●		●	●	●		
ノア							●	
ヴォクシー								●
●スポーツユーティリティ系								
ランドクルーザー	●	●	●					
ランドクルーザープラド	●	●	●					
ハイラックスサーフ	●	●				●		
ハリアー			●	●	●			
ハリアーハイブリッド			●	●	●			
クルーガーL							●	
クルーガーハイブリッド							●	
RAV4								●
ラッシュ			●	●	●			
●バン・トラック・バス								
サクシード	●	●	●	●	●	●		
プロボックス							●	
ハイエース		●		●	●	●		
レジアスエース								●
タウンエース							●	
ライトエース								●
ダイナ（2t系／1t系）	●	●	●					
トヨエース（2t系／1t系）				●	●	●		
コースター	●	●	●					

LEXUS	GS, IS, SC
DUO店	＜VW＞　Lupo, Polo, Golf, Golf Wagon, New Beetle, Passat, Passat Wagon

※トヨタ特装車は、ベース車と同じ販売店で扱っています。

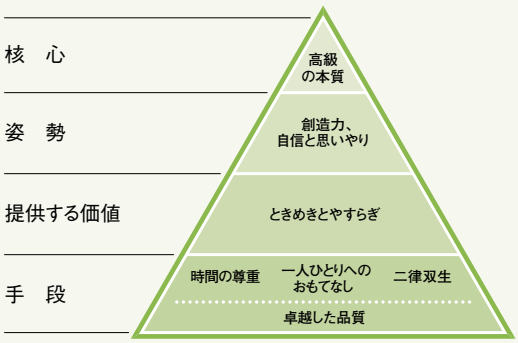
生産・販売・輸出

■ブランド

1989年に北米で創設、その後、欧州やアジアなど世界に展開してきたレクサスブランドが2005年8月、日本に導入されました。レクサスは、「高級の本質の追求」をブランドの理念として掲げ、「最高の商品」を「最高の販売・サービス」で提供、お客様がレクサスとともに過ごすいかなる瞬間も、「“ときめき”と“やすらぎ”に満ちた最高の時間」とするために開発・生産・販売の全ての面で妥協のない取り組みを続けています。

●レクサスピラミッド

レクサスピラミッドは、レクサスの思想を51文字で表現したものです。そして、その思想はグローバルに統一されています。



●レクサスブランドステートメント

レクサスブランドステートメントは、レクサスピラミッドの51文字を分かりやすい言葉で明文化し、お客さまとの約束として宣言したものです。

【レクサスブランドステートメント】

◎私たちは、最高の商品を最高の販売、サービスでお届けし「高級の本質」を追求し続けます。

◎私たちは、「時間の尊重」「一人ひとりへのおもてなし」「二律双生」「卓越した品質」の4つの手段で最高を実現します。

◎私たちは、お客さまがレクサスとともに過ごすいかなる瞬間も、「ときめき」と「やすらぎ」で心満たされることを約束します。

◎私たちは、常に「創造力」を発揮し、「自信」と「思いやり」をもって行動します。

■販売・サービスの体制

●レクサス販売店

全国156店（2006年7月までの開業予定店を含む）

●主なサービス

オーナーズデスク	オーナーのご要望に、24時間365日対応。 レクサスオーナー専用のコールセンターが、 いつでも、どこでも、レクサスライフをサポート。
G-LINK［3年間無料］	いつでも、どこでも、オーナーの車をネットワークで サポートする最新のテレマティクスサービス。
●レクサス緊急サポート24	事故や故障など万一のトラブルにも、 24時間365日体制でサポート。
● G-Security	大切な愛車を24時間見守る最先端の セキュリティサービス。
●リモートメンテナンスサービス	販売店からの定期点検・メンテナンス・イベント情報などを 直接お車にメールでお知らせ。 車両の異常を検知した場合にもその内容をお知らせ。
オーナーズカード	全国のレクサス販売店でのご提示により、 最適なメンテナンスで対応。
新車保証 ［5年間/10万km］	万一の不具合が生じた場合、 新車登録日から5年間（ただし走行距離10万kmまで）、 保証書の内容に基づき無料で修理。

■取り扱い車種（2006年3月現在）

GS450h
GS430
GS350

SC430

IS350
IS250

車名別国内生産台数

■トヨタ車の車名別国内生産台数（完成車輸出・CKD分含む）

車　名	生産開始年	2005年生産台数	2005年までの累計
カローラ	1966	361,881	22,933,821
ランドクルーザー	1951	315,056	4,974,840
ヴィッツ	1999	241,152	1,753,803
RAV4	1994	237,936	2,076,045
ハイラックス	1967	201,376	10,643,163
プリウス	1997	179,407	471,736
クルーガー	2000	163,333	756,623
（内クルーガーハイブリッド	2005	30,556	30,556）
ハイエース	1967・97	137,430	4,796,888
ハリアー	1997	107,930	881,519
（内ハリアーハイブリッド	2005	40,153	40,153）
bB	2000	94,828	443,959
パッソ	2004	92,732	167,507
ウィッシュ	2003	90,242	407,489
アルファード	2002	86,630	315,636
（内アルファードハイブリッド	2003	4,604	13,827）
クラウン	1954	86,114	5,616,737
イスト	2002	83,234	422,451
ウィンダム	1991	79,422	1,032,348
ヴォクシー	2001	79,371	292,953
ノア	2001	74,673	342,392
アイシス	2004	68,146	91,154
カムリ	1980	64,877	3,785,249
マークX	2004	64,116	79,928
GS	2005	63,616	63,616
プラッツ	1999	61,425	667,246
トヨエース・ダイナ	1954・56	57,934	3,466,260
シエンタ	2003	51,477	148,618
プロボックス	2002	49,418	179,647
エスティマ	1990	48,121	1,754,027
（内エスティマハイブリッド	2001	2,125	27,349）

車　名	生産開始年	2005年生産台数	2005年までの累計
ポルテ	2004	44,184	83,433
ラクティス	2005	38,915	38,915
プレミオ	2001	38,382	182,237
セルシオ	1989	37,926	879,685
IS	2005	34,477	34,477
アリオン	2001	32,599	167,728
ファンカーゴ	1999	25,908	530,679
サクシード	2002	24,608	98,387
ラウム	1997	23,700	268,184
イプサム	1996	20,855	679,836
グランビア	1995	17,127	376,289
タウンエース	1976	16,934	2,434,251
カルディナ	1992	15,091	821,554
アレックス	2001	11,541	94,567
ベルタ	2005	11,439	11,439
コースター	1963	11,409	332,681
ライトエース	1970	11,086	2,180,653
コンフォート	1995	10,006	133,811
アルテッツァ	1998	9,712	292,411
セリカ	1970	8,594	4,129,362
ソアラ	1981	6,294	479,519
SC	2005	4,778	4,778
MR-S	1999	3,883	75,356
マークⅡ	1968	3,400	6,526,065
プログレ	1998	2,287	75,258
ブレビス	2001	1,622	31,462
WiLL　サイファ	2002	1,361	31,825
オーパ	2000	942	78,869
センチュリー	1967	595	39,306

資料：トヨタ自動車

注）1. バンを含む。
2. カローラにはカローラスパシオ、カローラランクス、カローラフィールダーを含む。
3. ハイラックスの累計生産台数にはT100を含む。
4. カムリにはアルティスを含む。累計にはカムリグラシアも含む。
5. RAV4はEVを除く。
6. クラウンにはクラウンコンフォート、クラウンエステートを含む。
7. コンフォートには教習車を含む。
8. マークⅡにはマークⅡブリットを含む。
9. bBにはbBオープンデッキを含む。
10. アルテッツァにはアルテッツァジータを含む。
11. タウンエースの累計生産台数にはマスターエースを含む。
12. コースターの累計生産台数は1965年以降の台数。それ以前はダイナに含まれる。
13. 1986年以前の輸出用スープラはセリカに含む。
14. トヨエース・ダイナにはクイックデリバリー、アーバンサポーターを含む。
15. グランビアにはグランドハイエース、ハイメディック、救急車を含む。
16. ハイエースにはレジアスを含む。

■海外生産台数（主なもの）

車　名	生産開始年	2005年生産台数	2005年までの累計
カローラ	1979	1,002,241	7,920,778
IMV	2004	528,278	616,180
カムリ	1987	506,645	6,443,281
シエナ	1997	192,644	1,056,569
タコマ	1995	192,633	1,698,386
ヤリス（ヴィッツ）	2001	180,595	765,300
コロナ/アベンシス	1979	156,137	2,066,745
タンドラ	1999	127,417	734,759
アバロン	1994	110,770	944,833
ヴィオス	2002	79,468	389,744
RX（ハリアー）	2003	73,104	151,789
セコイア	2000	44,864	337,430
TUV	1976	31,786	1,631,170
ウィッシュ	2004	31,376	42,298
ハイエース	1989	9,973	126,147
ハイラックス※1	1981	5,975	1,834,876

注）1. 海外生産台数は現地調達率40％以上（F.O.B.価格ベース）の台数。
2. カローラにはマトリックス、ヴォルツを含む。
3. カムリにはカムリソラーラを含む。
4. ※1 タイでの生産のオーストラリア向けCKDは含まず。

車名別国内登録台数

■トヨタ車の車名別国内登録台数

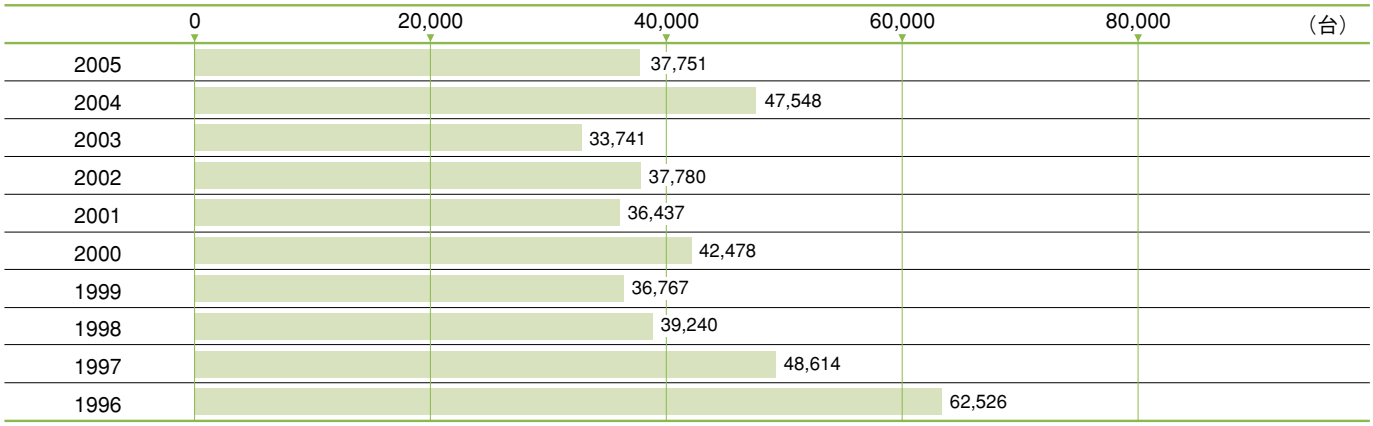
車　名	販売開始年	2005年登録台数	2005年までの累計
カローラ	1966	149,810	11,421,495
ヴィッツ	1999	131,937	824,540
ウィッシュ	2003	92,014	377,229
パッソ	2004	87,958	156,942
アルファード	2002	81,660	304,586
クラウン	1955	75,534	4,870,738
ヴォクシー	2001	73,899	286,113
ノア	2001	71,962	337,525
アイシス	2004	66,521	87,788
マークX	2004	63,742	76,829
ハイエース	1967	53,186	2,595,348
イスト	2002	51,914	347,381
シエンタ	2003	51,145	145,304
プロボックス	2002	49,897	197,310
ポルテ	2004	45,477	80,348
プリウス	1997	43,673	183,912
bB	2000	39,048	321,496
プレミオ	2001	38,067	177,155
エスティマ	1990	35,112	1,278,050
アリオン	2001	33,276	165,163
ハリアー	1997	30,843	219,057
ラクティス	2005	30,251	30,251
サクシード	2002	24,535	96,853
ラウム	1997	23,631	266,328
レジアス	1997	20,626	188,656
ランドクルーザー	1951	19,487	642,458
ダイナ	1956	18,092	1,141,644
カルディナ	1992	14,717	783,680
RAV4	1994	13,618	355,815
トヨエース	1954	12,383	1,305,309
イプサム	1996	12,312	506,599
アベンシス	2003	11,961	36,762
アレックス	2001	11,324	97,014
クルーガー	2000	11,067	70,830

車　名	販売開始年	2005年登録台数	2005年までの累計
ファンカーゴ	1999	9,950	359,602
ハイラックス	1968	8,552	1,142,637
プラッツ	1999	8,432	181,530
コンフォート	1995	8,150	112,945
セルシオ	1989	6,682	359,406
タウンエース	1976	5,987	2,100,668
GS	2005	5,843	5,843
ベルタ	2005	5,485	5,485
カムリ	1980	4,868	1,193,177
ライトエース	1970	4,819	1,720,435
IS	2005	3,911	3,911
マークⅡ	1968	3,466	4,809,447
アルテッツァ	1998	2,359	111,470
コースター	1963	2,357	135,154
プログレ	1998	2,269	75,087
ウィンダム	1991	2,174	228,553
ブレビス	2001	1,746	31,358
セリカ	1970	1,600	864,125
WiLL　サイファ	2002	1,568	31,833
MR-S	1999	1,368	18,511
キャミ	1999	1,329	40,187
オーパ	2000	1,187	78,880
クイックデリバリー	1995	703	17,302
センチュリー	1967	591	39,247
SC	2005	539	539
ハイメディック	1997	396	2,284
アリスト	1991	364	144,285
ソアラ	1981	243	343,059
ガイア	1998	21	154,440
ヴォルツ	2002	18	9,941
ヴェロッサ	2001	17	25,985
デュエット	1998	16	125,547
ビスタ	1982	2	734,032

資料：トヨタ自動車

注）1. バンを含む。
2. クラウンにはクラウンマジェスタ、クラウンコンフォート、クラウンエステートを含む。
3. マークⅡにはマークⅡブリット、マークⅡ教習車を含む。
4. カムリの累計登録台数にはカムリグラシアを含む。
5. アルテッツァにはアルテッツァジータを含む。
6. ビスタにはビスタアルデオを含む。
7. カローラにはカローラスパシオ、カローラランクス、カローラフィールダーを含む。
8. bBにはbBオープンデッキを含む。
9. コンフォートには教習車を含む。
10. ハイエースにはグランドハイエース、グランビア、トヨタ救急車、ハイエース救急車を含む。
11. ダイナ、トヨエースにはアーバンサポーターを含む。
12. ランドクルーザーにはプラドを含む。
13. ハイラックスにはサーフを含む。
14. トヨタ教習車、TOYOTA-FCHV、大型バス、コミューターを除く。
（但し、レジアスにはレジアスエースコミューターを含む）

■トヨタ取り扱い輸入車登録台数の推移



注）2005年の対象車種はVW、アベンシス、ヴォルツ他。
（対象車種は年度により変動あり）

資料：トヨタ自動車

国内販売車両一覧

■国内販売車両一覧（2006年2月現在）

	車　名	車名の由来	初代モデル発表時期	最終組立工場												
				トヨタ					TMUK	ボディメーカー						
				本社工場	元町工場	高岡工場	堤工場	田原工場		トヨタ車体	関東自動車工業	セントラル自動車	岐阜車体工業	ダイハツ工業	日野自動車	豊田自動織機	トヨタ自動車九州
1	ランドクルーザー[1]	Land（陸）と Cruiser（巡洋艦）を合成した名前で、「陸の巡洋艦」という意味	1951. 8	△				◎		◎							
2	ダイナ トヨエース	ダイナは Dynamic（活力ある、機動力ある）の短縮、トヨエースは TOYOTA と Ace（第一人者、最も優れた者、切り札）からの合成語	1956.5（ダイナ） 1954.9（トヨエース）							◎ （宅配のみ）					◎		
3	クラウン[2]	英語で「王冠」という意味	1955. 1		◎						◎						
4	コースター	「沿岸貿易船」「巡航船」という意味	1963. 3							○							
5	カローラ[3]	英語で「花の冠」という意味	1966.10			◎					◎	◎					
6	センチュリー	英語で「1世紀＝100年」という意味	1967. 9								○						
7	ハイエース （含レジアスエース）	High（高級な、より優れた）と Ace の合成語	1967.10							◎			◎				
8	ハイラックス[4]	High（高級な、より優れた）と Luxury（ぜいたくな、豪華な）の合成語	1968. 3					◎							◎		
9	セリカ	スペイン語で「天の」「天空の」「神の」「天国のような」の意味	1970.10								○						
10	ライトエース	Light（軽い、軽快な）と Ace の合成語	1970.10							○ （VN）					○ （TR）		
11	タウンエース	Town（町、都会）と Ace の合成語	1976.10							○ （VN）					○ （TR）		
12	カムリ	カムリは日本語の「冠」をもとにつくった言葉	1980. 1				○										
13	セルシオ	ラテン語で「至上、最高」という意味	1989.10					○									
14	エスティマ[5]	英語で「尊敬すべき」という意味のエスティマブル（estimable）からの造語	1990. 5							○							
15	ウィンダム	英語の win（～に勝つ）と dom（～の状態）を合成。 勝っている状態、常勝の意をこめた造語	1991. 9								○						
16	ハイメディック	「高規格な医療設備を備えた車」という意味	1992. 5										○				
17	カルディナ	イタリア語の CARDINALE（「中心的な、主要な」の意）からの造語	1992.11				○										
18	RAV4	Recreational Active Vehicle 4 wheel drive の略	1994. 5					◎								◎	
19	コンフォート[6]	「安らぎ、快適」という意味	1995.12								○						
20	イプサム	ラテン語 IPSUM「本来の」の意味	1996. 5							○							
21	レジアス	ラテン語で「華麗な」「すばらしい」の意味	1997. 4							○							
22	ラウム	英語の「ROOM」に相当するドイツ語	1997. 5									○					
23	プリウス	ラテン語で「～に先立って」の意味	1997.10				◎			◎							
24	ハリアー[7]	英語で「小さな鷹の一種“チュウヒ”」の意味	1997.12														○
25	プログレ	フランス語で「進歩」「進取」の意味	1998. 5		○												
26	ヴィッツ	ドイツ語の WITZ（「才気、機知」の意）からの造語	1999. 1			◎										◎	

注）1）ランドクルーザープラドを含む。　2）クラウンコンフォート、エステートを含む。　3）カローラスパシオ、カローラランクス、カローラフィールダーを含む。　4）ハイラックスサーフを含む。

(注)◎:併産　○:単独(※1 輸出のみ単独　※2 国内のみ単独)　△:シャシーのみ生産

	車　名	車名の由来	初代モデル発表時期	最終組立工場													
				トヨタ					TMUK	ボディメーカー							
				本社工場	元町工場	高岡工場	堤工場	田原工場		トヨタ車体	関東自動車工業	セントラル自動車	岐阜車体工業	ダイハツ工業	日野自動車	豊田自動織機	トヨタ自動車九州
27	MR-S	Midship Runabout-Sportsの頭文字	1999.10									○					
28	bB(国内)/xB(輸出)	未知の可能性を秘めた箱、「ブラックボックス」のイニシャル	2000. 2									○(※1)		○(※2)			
29	クルーガー[8]	ドイツ語KLÜGER(賢い、聡明な)の意	2000.11														○
30	アレックス	フランス語のALLEZ(行く)とXをくみあわせ、「いろいろな場所に行く」という意味を持たせた造語	2001. 1			◎						◎					
31	ブレビス	英語のbrave(勇敢な)に由来する造語	2001. 6		○												
32	ヴォクシー	英語のVOX(言葉・声)からの造語	2001.11							○							
33	ノア	優しい語感の人名(英語)から命名	2001.11							○							
34	プレミオ	英語の「PREMIER(第1位の)」からの造語	2001.12				○										
35	アリオン	英語の「ALL IN ONE(すべてをひとつに)」からの造語	2001.12				○										
36	イスト	stylist、artistなど、～の演出家、創作家といった「～をする人」を表す接尾語	2002. 5			○											
37	アルファードG[9] アルファードV	星座の中で最も明るい星を意味するギリシア語のα(alpha)に由来する造語	2002. 5							○							
38	プロボックス	英語の「professional(プロの)」と「box(箱)」を合わせた造語	2002. 7											○			
39	サクシード	英語で「成功する」の意味	2002. 7											○			
40	ウィッシュ	英語で「希望」、「願い」の意味	2003. 1				○										
41	シエンタ	スペイン語の「siete(7)」と英語の「entertain(楽しませる)」からの造語	2003. 9			○											
42	アベンシス[10]	フランス語で「前に進む」という意味のAvancerからの造語	2003.10						○								
43	パッソ	イタリア語で「ステップ、足音」の意味	2004. 6											○			
44	ポルテ	フランス語で「扉、ドア」の意味	2004. 7			○											
45	アイシス	英語で「古代エジプト豊穣の神」の意味	2004. 9								○						
46	マークX	Mark(目標、成功)とX(次世代の)の造語	2004.11		◎						◎						
47	ラクティス	「Runner with Activities」からの造語	2005. 9			○											
48	ベルタ	イタリア語の「美」の意味	2005.11								○						
49	ラッシュ	英語で「勢いよく進む」の意味	2006. 1											○(OEM)			
50	<LEXUS> GS	「Grand Sedan」の略	2005. 8					○									
51	<LEXUS> IS	「Intelligent Sports Sedan」の略	2005. 8					◎									◎
52	<LEXUS> SC	「Sports Coupe」の略	2005. 8								○						

5)エスティマハイブリッドを含む。　6)教習車を含む。　7)ハリアーハイブリッドを含む。　8)クルーガーハイブリッドを含む。　9)アルファードハイブリッドを含む。　10)アベンシスワゴンを含む。

取り組み姿勢

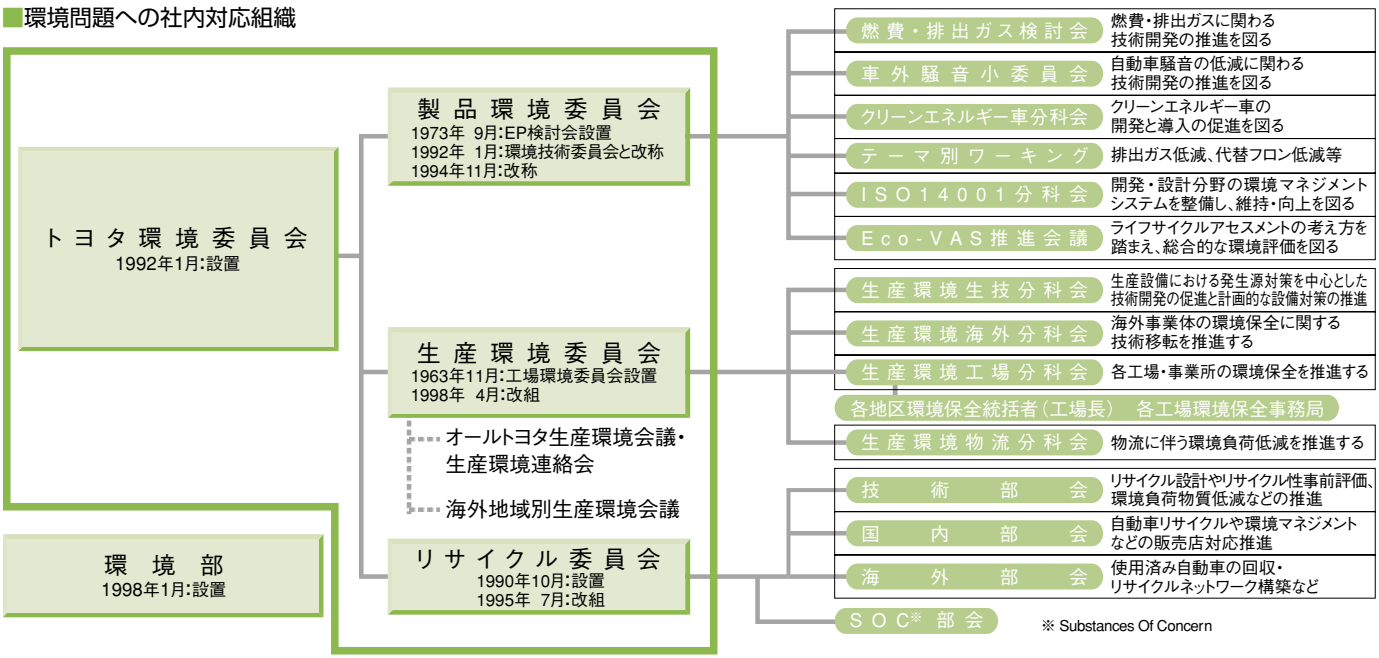
トヨタは1992年1月に「地球環境に関するトヨタの取り組み方針（通称：トヨタ地球環境憲章）」を制定し、1993年2月にはこれをより具体的に企業活動へ反映させるため「トヨタ環境取り組みプラン」を策定しました。2006年より2010年度目標を定めた第4次取り組みプランに基づく活動を開始し、目標達成に向け取り組みを進めています。

■第4次「トヨタ環境取り組みプラン」（2006～2010年度）

取り組み項目			具体的な実施事項・目標等（抜粋）
エネルギー・温暖化	マネジメント	❶グローバルな事業活動における一層のCO_2低減	●グローバルなCO_2削減の中長期シナリオ策定と確実な推進
	開発・設計	❷各国・各地域でトップクラスの燃費性能を目指す技術開発の推進	●2010年基準を上回るさらなる燃費向上を継続的に推進（日本） ●燃費改善に資する関連技術の開発実用化
		❸クリーンエネルギー車の開発推進と効果的な導入・普及促進	●ハイブリッドシステムの一層の性能向上および車種と導入地域拡大 ●将来の水素社会の実現を目指し、次世代燃料電池車の開発と早期導入等
		❹エネルギー・燃料多様化に向けた技術開発	●CO_2低減、エネルギーセキュリティに資する、各種バイオ燃料、合成燃料の評価と対応技術開発
		❺各種ネットワーク技術等を活用した交通流改善への取り組み	●車・交通インフラ・人、三位一体の協調など、ITSを活用した社会システム導入を目指し、関係団体等と連携した交通流改善への取り組み推進
	生産・物流	❻各国・各地域の生産・物流活動における、CO_2低減	●生産技術の革新等、画期的な生産性向上によるCO_2低減の推進 ●新エネルギー利用技術の開発と導入検討
資源循環	生産・物流	❼循環型社会に向けた資源有効利用の一層の推進	●生産：歩留まり向上等の発生源対策による排出物低減 ●物流：梱包のミニマム化および容器のリターナブル化拡大等による梱包資材使用量の低減
		❽水使用量低減	●各国・各地域で個別に目標を設定し継続的に水使用量低減
	自動車リサイクル	❾日欧のリサイクルシステムの定着	●ASR※1リサイクル技術の高度化に向けた一層の取り組み ●新規開発部品（FC、HV等）のリサイクル技術開発、回収ネットワークの構築
		❿リサイクル設計の一層の推進と展開	●解体、リサイクルが容易な車両の開発推進と展開
環境負荷物質	開発・設計	⓫環境負荷物質の管理、低減の一層の推進	●2006年より4物質※2全廃車の日欧導入（2007年完、適用除外部品あり） ●環境負荷物質の管理対象拡充
	生産・物流	⓬PRTR※3対象物質の排出量低減	●塗装工程を中心としたPRTR対象物質の排出量低減
大気環境	開発・設計	⓭各国・各地域の都市大気環境改善に資する排出ガス低減	●超低エミッション技術開発の推進と各国の状況に応じた最高レベルの低排出ガス車の導入 ●高効率クリーンディーゼル車の開発とさらなる普及促進
	生産・物流	⓮VOC※4排出量低減対策	●塗装工程における洗浄シンナーの一層の使用量低減と水性塗料採用拡大等の実施
環境経営	マネジメント	⓯連結環境マネジメント強化	●企画段階から環境対策を確実に織り込むエコファクトリー活動のグローバルな展開
		⓰ビジネスパートナーにおける環境マネジメントの一層の推進	●仕入先と連携した活動の一層の充実 ●トヨタ販売店ガイドラインの見直しによる、中期的な環境課題への対応支援
		⓱環境教育の充実	●従業員の環境意識向上に加え、実務改善に資する環境教育の継続的実施
		⓲環境改善に寄与する新規事業の推進	●バイオ・緑化事業の拡大、確立
		⓳Eco-VAS※5の本格運用と定着化により、ライフサイクル環境負荷の着実な低減	●国内モデルチェンジ、新型車より順次運用、欧州・米国生産車等を含め全車に展開
	社会との連携	⓴循環型社会構築への寄与貢献	●CO_2低減対策技術等環境基礎研究の推進・支援と提言 ●環境技術開発・環境教育および生物多様性保全に資する社会貢献プログラムの実施
		㉑環境情報開示と双方向コミュニケーションの充実	●各国・各地域での環境商品技術情報提供の一層の充実
		㉒持続可能な発展を踏まえた環境政策への積極的な貢献と提言	●国内外の環境政策議論・枠組みづくりへの参画

※1）Automobile Shredder Residue
※2）環境負荷物質4物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム）
※3）環境汚染物質排出・移動登録
※4）塗装溶剤排出量
※5）Eco-Vehicle Assessment System

■環境問題への社内対応組織

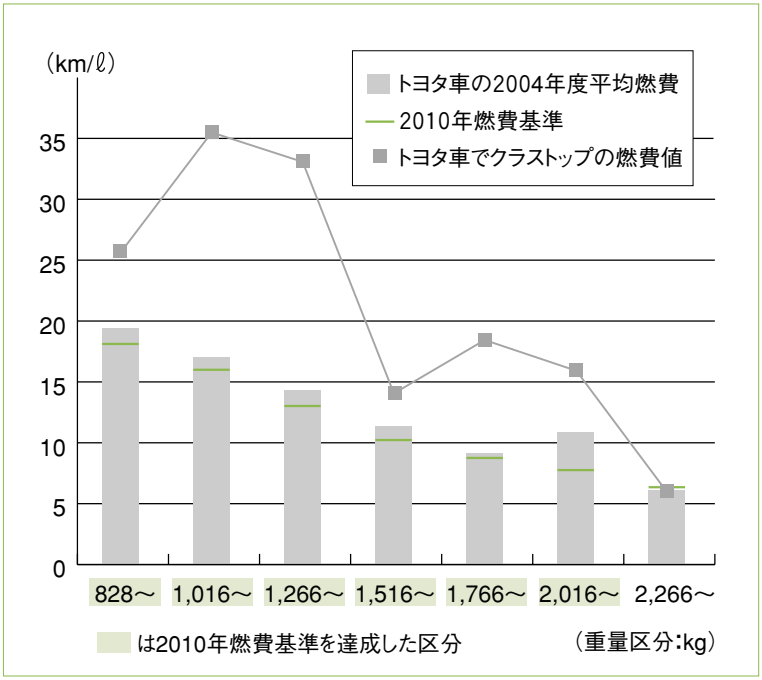


燃費・排出ガス対策とクリーンエネルギー車の開発

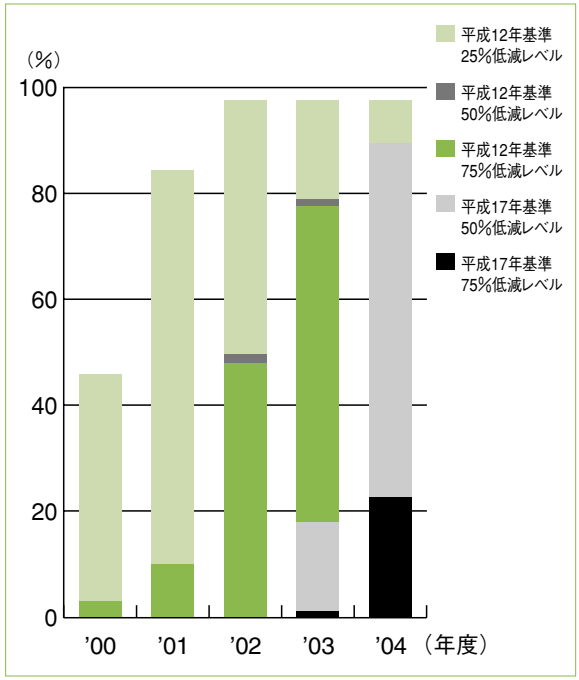
持続可能なモビリティ社会を実現するため、自動車は燃費向上と排出ガス低減に最大限に取り組むことが重要です。トヨタでは、新世代エンジンや新しい排出ガス低減システムの開発・導入などにより、2010年燃費基準の早期達成と超一低排出ガスレベル達成車の拡大を進めています。

2004年度には、重量クラス別7区分のうち6区分の平均燃費で2010年燃費基準を上回り、総生産台数の87%を達成しました。また、同基準をクリアし、かつ超一低排出ガスレベル以上を達成した生産台数の比率は81%に拡大しました。

■2004年度のトヨタ車の燃費実績と2010年燃費基準

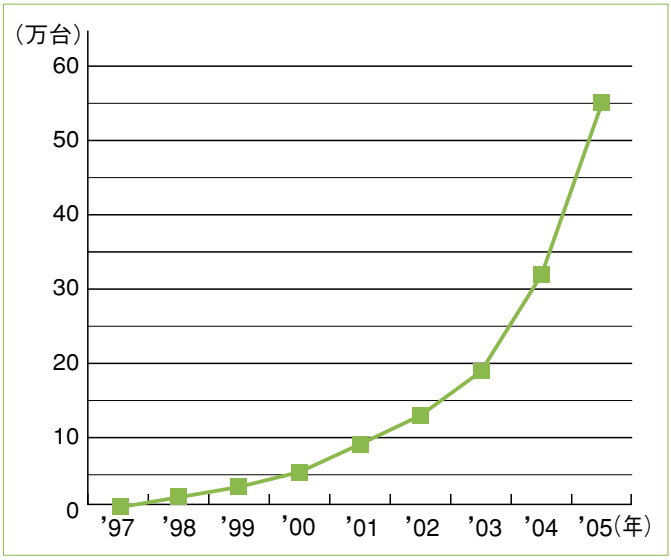


■低排出ガス車の生産台数比率の推移



1997年に世界初の量産ハイブリッド車プリウスを発売して以来、エスティマハイブリッド、クラウンマイルドハイブリッドなどを国内市場に導入し、2005年12月末でハイブリッド車の累計販売台数は国内外合わせ55万台を突破しました。また、2002年12月に燃料電池ハイブリッド車「トヨタFCHV」の限定発売を開始してから、日米で16台の車両を販売しました。さらに、2005年7月から改良型のリース販売(限定)を開始しました。また、FCバスは、東京都にて2003年8月～2004年12月に営業運転を実施し、2005年3月～9月には、愛・地球博の会場間の移動手段として運行しました。

■ハイブリッド車の累計販売台数(全世界)



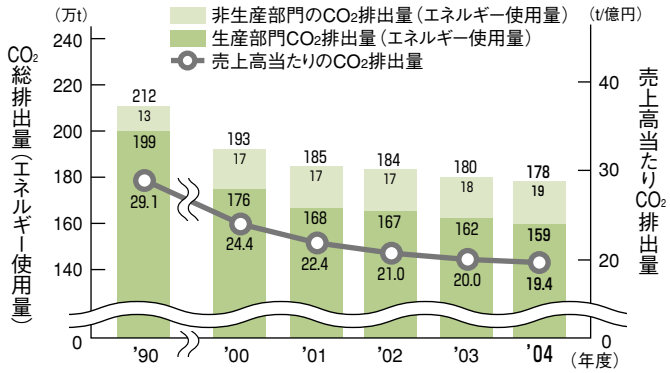
■燃料電池ハイブリッド車「トヨタ FCHV」

自社開発の高性能燃料電池「トヨタFCスタック」を搭載しているほか、プリウスで培ったハイブリッド技術を応用した高効率でクリーンなエコカーです。ルーフ・フェンダー等のアルミ化による軽量化、優れた空力性能、フロンフリーエアコンの採用など、多面的にエコを追求しています。

自動車生産工程の環境取り組みとリサイクルの取り組み

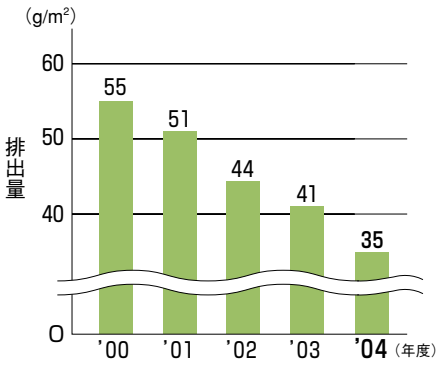
「トヨタ生産システムの追求」と「ゼロエミッションへの挑戦」をリンクして進め、徹底したムダ排除による環境負荷の低減を目指すことが生産工程における環境取り組みの基本的考えです。この考えを基に2005年を目標とした低減シナリオに従い活動した結果、2004年度のCO_2排出量は、前年度比1%減、売上高当たりでは3%低減しました。またVOC（揮発性有機化合物）についても、水溶性塗料を用いた新型塗装システムの採用、シンナーの使用量の削減等により全ライン平均で前年度比15%の低減を実現しました。

■全社におけるCO_2排出量（エネルギー使用量）と売上高当たりのCO_2排出量の推移



（注1）従来の自動車生産工程に住宅事業を含めるとともに、オフィス等の非生産部門を加えました。
（注2）非生産部門で1990年度、2000年度の排出量を把握できない拠点は、それ以降で把握できた最も古いデータを使用しました。

■ボディ塗装のVOC排出量（全ライン平均）推移

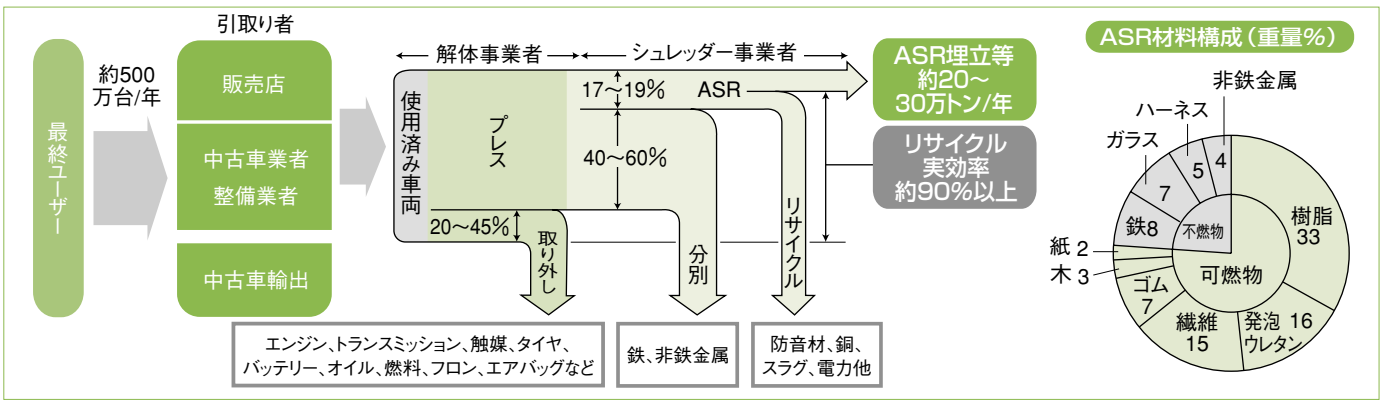


※VOC＝Volatile Organic Compounds

使用済み自動車リサイクルへの取り組みは1970年シュレッダー会社の豊田メタル（株）を設立し、リサイクル技術開発を開始したことに始まります。1993年からはそれまでリサイクルが困難とされていたシュレッダーダストのリサイクルに取り組み、1998年には世界初の本格的な量産プラントを建設し、自動車部品などへの再利用を実践してきました。2002年からはサーマルリサイクル技術の実証に取り組み、幅広くリサイクル技術の蓄積を進めました。2003年にはトヨタリサイクルビジョンを公表するとともに、取り外し性を画期的に向上させた新たなリサイクル設計を開発し、新型プリウスなどへの採用を積極的に進めています。2005年には、日本の自動車リサイクル法施行に対応して、関係業界等と協力の上、自動車リサイクルシステムを構築し、循環型社会の実現に貢献しています。

■使用済み自動車の処理ルート（日本）

ASR:Automobile Shredder Residue



資料：トヨタ自動車

■シュレッダーダストリサイクルへの取り組み

本格的リサイクルプラント（愛知県半田市）

サーマル実証プラント（愛知県半田市）

■新たなリサイクル設計を採用した新型プリウス

取り外し性に配慮した画期的なリサイクル設計や植物を原料としたトヨタエコプラスチックを採用。

安全対策　取り組み姿勢

交通安全の実現のためには、車の安全性のみならず、それを利用する人々や、交通環境についても考慮する必要があります。これらのことを踏まえ、トヨタは総合的な視点で、積極的な取り組みを続けています。

■交通安全に取り組む際の３つの視点

1 安全な車づくり

安全な車は、「アクティブセーフティ（予防安全）」（事故を起こりにくくすること）と「パッシブセーフティ（衝突安全）」（事故が起こってしまった時に、いかに乗員の被害を軽減するか）のどちらの観点においても十分な性能を確保している必要があります。さらに、事前に衝突を予知することにより、傷害を軽減するプリクラッシュセーフティの思想を取り入れた車づくりも推進していきます。

2 人に対する交通安全活動

自動車乗車中の死亡事故を低減すべく、ドライバーに対する再教育の重要性が高まっています。同時に、正しい交通モラルを身につけた交通社会人の育成のためには、幼児期からの継続的な教育が必要です。

3 交通環境整備への協力

良好な交通環境は、円滑な交通に寄与し、交通事故発生の可能性を減少させると考えられます。最近は、こうした課題を技術革新によって解決すべく、「ITS」（Intelligent Transport Systems）という次世代の道路交通システムの研究が産官学共同で進められています。

■安全な車づくりの具体的な取り組み

アクティブセーフティ（予防安全）

車両運動性能の確保 ◆基本性能 ◆事故回避性能 ◆事故回避性能向上技術	VDIM
	EBD付 ABS
	ブレーキアシスト
	VSC
	TRC
	ARS
	タイヤ空気圧警報システム
使用性の確保	人間工学的運転ポジション
	操作機器配置への配慮
	カーナビゲーションシステム
運転視界・視認性の確保	直接視界の確保
	間接視界の確保
	メーターの視認性
	分かりやすい自車の大きさ
	被視認性の向上
	高齢者への配慮

パッシブセーフティ（衝突安全）

客室空間の確保	衝撃吸収ボディ
	高強度キャビン
乗員拘束（保護）	シートベルト
	SRSエアバッグ
	シート
	室内衝撃吸収機構
突起物の排除・可倒化	内部突起
	外部突起
脱出・救出の容易性	ドア
	シートベルトの解除
	火災防止
様々な性能確保	衝突実験と性能確認
	傷害メカニズムの解明（ダミー、人体FEMモデル）

プリクラッシュセーフティ

衝突不可避判断	ミリ波レーダー
	プリクラッシュセーフティコンピューター
	ドライバーモニターカメラ
乗員拘束	プリクラッシュシートベルト
衝突速度低減	プリクラッシュブレーキアシスト
	プリクラッシュブレーキ

ITS関連先進安全技術

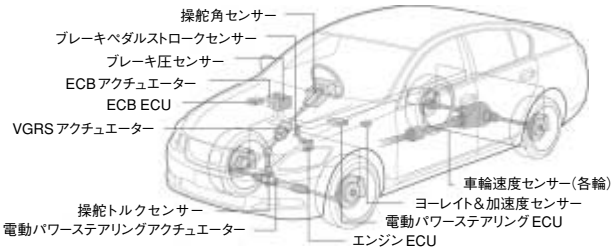
車のインテリジェント化（カーインテリジェンス）	レーンキーピングアシスト
	レーダークルーズコントロール
	AHS（Advanced Cruise-Assist Highway System：走行支援道路システム）
	バックガイドモニター
	ブラインドコーナーモニター
	ナビ協調シフト制御
	フロント＆サイドモニター
車と社会のコミュニケーション（カーマルチメディア）	カーナビゲーションシステム
	道路交通情報通信システム
	緊急通報システム

安全対策

アクティブセーフティ(予防安全)・パッシブセーフティ(衝突安全)・プリクラッシュセーフティ

アクティブセーフティの基本は、車の本来の機能（安全の重要度からいえば「止まる」「曲がる」「走る」）がドライバーの意図通りに発揮できることです。トヨタは、最新の技術を駆使して常にこの３性能の向上に努めています。
また内外から多くの事故データを入手し、コンピューターによる衝突シミュレーション、年間 1,000 台を超える実車衝突実験を繰り返しながら、安全なボディ構造の追及、乗員保護装置の開発などを実施し、人の傷害をできるだけ少なくする車づくりを推進しています。

■アクティブセーフティ関連技術の例： VDIM（Vehicle Dynamics Integrated Management）



（2005/6 発表時）

VDIMは、アクセル、ステアリング、ブレーキの操作量から求めたドライバーのイメージする車両挙動と、各種センサーから求めた情報による車両挙動とのギャップを算出。そのギャップを埋めるように、ABS※1、TRC※2、VSC※3、電動パワーステアリングなどを統合・マネジメントし、車両限界前から車両の前後左右方向の運動状態をシームレスに制御することにより高い予防安全性を実現する世界最先端の技術です。

※1 ABS ： Anti-lock Brake System
※2 TRC ： Traction Control
※3 VSC ： Vehicle Stability Control

■パッシブセーフティ関連技術の例：「GOA」ボディ（GOA: Global Outstanding Assessment 世界トップレベルの安全性能）

カーツーカー前面衝突試験

GOAは、「衝撃吸収ボディ」と「高強度キャビン」があいまって乗員の生存空間を確保し、同一排気量クラスで世界トップレベルの乗員保護性能を追求した衝突安全ボディです。
このGOAは1995年12月、当時トヨタのラインアップでは最も小さなスターレットから採用を開始し、現在までにほぼ全ての乗用車（含むSUV）に展開を済ませました。そして、クラス世界トップレベルを維持するために試験条件・性能目標を常に進化させています。
現在は、車対車の衝突速度を55km/hに設定した、車両全方位のカーツーカー衝突試験に対応したボディを展開しています。

■主要安全装備の充実（2006年３月現在、SUVを含む乗用車系。順次装着車を拡大）

	アクティブセーフティ				プリクラッシュセーフティ	パッシブセーフティ		
	事故回避性能向上				衝突被害軽減	乗員拘束（保護）		
	EBD付ABS※	ブレーキアシスト	VSC	VDIM	プリクラッシュセーフティシステム	デュアルステージSRSエアバッグ	SRSサイドエアバッグ	SRSカーテンシールドエアバッグ
●レクサス								
GS450h	○	○	○	○	△	○	○	○
GS430	○	○	○	○	△	○	○	○
GS350	○	○	○		△	○	○	○
IS350	○	○	○	○	△	○	○	○
IS250	○	○	○		△	○	○	○
SC430	○	○	○				○	
●セダン								
センチュリー	○	○	○				○	○
セルシオ	○	○	○		▲	○	○	○
クラウン マジェスタ	○	○	○	●	▲	○	○	○
クラウン（ロイヤル、アスリート）	○	○	○			○	□	□
クラウン セダン		○						
プレビス	○	○	○				■	■
プログレ	○	○	○				○	□
マークX	○	○	■			○	□	□
カムリ	○	○	□			○	○	○
プレミオ	○	○					▲	▲
アリオン	○	○					▲	▲
アベンシス セダン	○	●	●			○	○	●
プリウス	○	○	●			○	■	■
カローラ セダン	○	○	▲				△	△
ベルタ	○	○	▲				△	△
●スポーツ＆スペシャルティ								
MR-S								
●2BOX系								
カローラ スパシオ	○	○					△	
カローラ ランクス	○	○					△	△
アレックス	○	○					△	△
ラウム	○	○	▲					
ポルテ	○	○	▲					
ラクティス	○	○	▲				△	△
bB	○	○	▲				△	△
イスト	○	○	▲				△	△
ヴィッツ	○	○	▲				▲	▲
パッソ	○	○					▲	▲

	アクティブセーフティ				プリクラッシュセーフティ	パッシブセーフティ		
	事故回避性能向上				衝突被害軽減	乗員拘束（保護）		
	EBD付ABS※	ブレーキアシスト	VSC	VDIM	プリクラッシュセーフティシステム	デュアルステージSRSエアバッグ	SRSサイドエアバッグ	SRSカーテンシールドエアバッグ
●ステーションワゴン								
クラウン エステート	○	○	●				□	□
マークⅡブリット	○	○	▲				△	△
アベンシス ワゴン	○	●	●			○	○	●
カルディナ	○	○	●					
サクシード ワゴン	○	○						
カローラ フィールダー	○	○					△	△
プロボックス ワゴン	○	○						
●ミニバン・キャブワゴン								
エスティマ	○	○	▲		▲		△	△
アイシス	○	○	▲				△	△
イプサム	○	○	△				□	□
ウィッシュ	○	○	●				△	△
シエンタ	○	○					▲	
アルファード G/V	○	○	■				□	□
アルファードHV	○	○	○				△	△
ハイエース ワゴン		○						
ノア	○	○	▲				△	△
ヴォクシー	○	○	▲				△	△
●スポーツユーティリティ系								
ランドクルーザー シグナス	○	○	○			○	△	△
ランドクルーザー 100	▲	▲	▲			○	△	△
ランドクルーザー プラド	○	○	■			○	△	△
ハイラックス サーフ	○	○				○	△	△
ハリアー	○	○	■		▲	○	△	△
ハリアーHV	○	○	○	○		○	△	△
クルーガーL	○	○	▲				△	△
クルーガーHV	○	○	○	○			□	□
RAV4	○	○	■				▲	▲
Rush	○	○	▲				△	△

※ABSは全車標準装備完了

○：全車標準装備　●：標準装備（一部グレードを除く）
△：全車オプション設定　▲：オプション設定（一部グレードを除く）
□：標準またはオプション設定　■：標準またはオプション設定（一部グレードを除く）

交通安全啓発活動

トヨタは、1960年代から交通安全啓発活動を実施してきました。ドライバー向けの安全運転講習会や幼児向けの交通安全教室など、幅広い層に向けた啓発活動を継続的に実施しています。1969年に配布を開始した全国の幼稚園児・保育園児に向けた交通安全絵本は、累計で1億冊を超えています。
また、トヨタの海外事業体を通じて世界各地で交通安全啓発活動を展開しています。

①トヨタ ドライバーコミュニケーション

1987年に開始したトヨタ独自の安全運転プログラムで、2005年度までに累計約13,400人が受講しています。このプログラムは、運転テクニックの向上を狙うのではなく、「安全運転のレベルアップ」を念頭に、実技形式で車の基本操作や車両の挙動、安全装備の正しい使い方を学んでいただく内容となっており、自分のみならず周囲の安全にも気を配って運転できるドライバー啓発を通じて、交通事故の低減に寄与することを目的としています。2005年4月には、講習会を定常的に開催する「トヨタ交通安全センターモビリタ」を富士スピードウェイ内にオープンし、1年で約4,000人が受講しました。

②幼児向け交通安全教材の贈呈

幼児向け啓発活動の一環として、全国の幼稚園・保育園の新入園児、幼稚園・保育所及び主要な図書館・児童館を対象に、交通安全教材を配布しています。教材は、道路への急な飛び出しの危険、道路の正しいわたり方について、(株)トヨタ名古屋教育センター(中部日本自動車学校)が開発した、ひよこをモチーフとしたキャラクター「クック・ドゥードゥルドゥー」を用い、分かり易く説明しています。また、絵本では、保護者向けに幼児の事故実態やチャイルドシートの必要性について解説をしています。

＜贈呈する教材・贈呈先＞
(1) 交通安全絵本：全国の幼稚園・保育所の新入園児を対象に約267万部
(2) 交通安全紙芝居：全国の幼稚園・保育所及び主要な図書館・児童館を対象に約4万4千部

③トヨタ・チャイルドセーフティコミュニケーション

チャイルドシートの一層の普及と誤使用による事故防止を目指し、2000年より、子供の安全を守る団体「子供の安全ネットワーク・ジャパン※」等と連携し、妊産婦・保護者を対象に開催している体験型講習会です。医師の説明やチャイルドシート指導員の実演指導から、チャイルドシートの“必要性と正しい使用方法”をご理解いただき、確実な装着を呼びかけています。2005年度までに累計約1,600人が受講しています。また、この活動は、内閣府よりチャイルドシート利用推進のためのモデル事業に選定(2000年度)されました。

※ 1997年より全国の産婦人科医・小児科医を中心に小児の事故防護啓発活動を進める団体。

④「トヨタセーフティスクール」

地域交通安全活動の一環として愛知県内の子供達を本社に招き、社員自ら実地指導する交通安全教室で1969年より小学生向けの「トヨタサマースクール」を、また1975年より幼児向けの「トヨタセーフティスクール」を毎年開催しています。
この「トヨタセーフティスクール」は、2004年度に30周年を迎え、現在までの参加者数累計はのべ約2,400園・20万人を超えています。
2005年度は初めて「保護者・先生向け」の教育も開催。「幼児の行動特性とは」「チャイルドシートの使い方」など大人の立場で子供を守る為の安全教育を実施しました。

⑤トヨタ交通安全キャンペーン

全国交通安全運動に呼応し、全国の車両販売店、L＆F店、部品共販店、レンタリース店と共同で「トヨタ交通安全キャンペーン」を毎年春と秋に実施しています。1969年に開始したこのキャンペーンは、各地域に根ざした活動として、37年間継続されています。

＜主な活動＞
(1) 幼児向け交通安全教材の贈呈
(2) 啓発チラシの配布・ポスターの掲出

⑥海外での交通安全への取り組み

トヨタの海外事業体では、社会貢献の一環として交通安全啓発活動に積極的に取り組んでいます。取り組みの内容は、各地域の抱える課題によってさまざまです。
例えば、米国では若年層による交通事故が多発していることから15歳から19歳のドライバーを対象とした安全運転講習会を検討しています。欧州では道路状況の違いによる事故リスクの調査分析を通じた道路の安全基準作りや子どものための交通安全と救急看護の教本制作と配布をしています。アジアでは交通安全キャンペーンや交通安全絵画コンテストを通じた交通安全教育などを、各種団体と連携して実施しています。

ITS

トヨタはクルマ自体の魅力と、クルマを利用することのうれしさを高める「クルマの高機能化」と、人・モノの移動の円滑化・効率化や安全な交通環境を総合的に実現していく「交通システムの高度化」に幅広く取り組んでいます。

■トヨタのITSへの取り組み

クルマの高機能化　情報サービス機能

カーナビゲーション

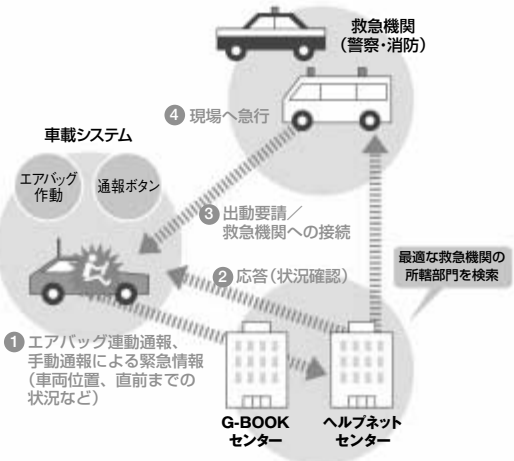
トヨタは、従来よりカーナビゲーションの高度化を進めており、VICSが1996年にサービス開始された当初から対応車載器を提供しています。2005年からはこれらVICSによる最新の交通情報に加え、過去の統計データから総合的に今後の道路状況を予測し、渋滞を回避したルートを案内したり、予測渋滞情報を画面上に表示する機能を実用化しました。

渋滞予測

所要時間予測

緊急通報サービス（ヘルプネット）

交通事故や急病発生時に、自動またはボタン操作でヘルプネットセンターを通じ、車の位置や車両の情報等、救急救助活動に必要な情報を迅速に110番／119番等に伝達するシステムです。このサービスに対応する車載器を2000年に他社に先駆けて商品化し、設定車種を順次拡大してきました。さらに2005年には次世代テレマティクスサービス「G-BOOK ALPHA」を商品化し、基本サービスの一つとして、手動通報タイプのほか、一部の車両には、エアバック連動の自動通報タイプが標準装備されています。



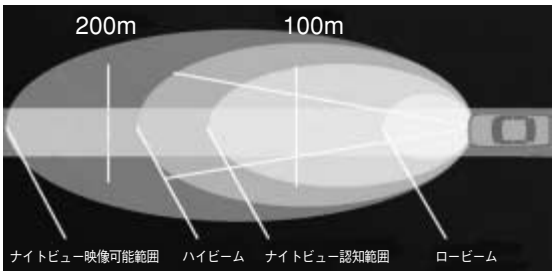
クルマの高機能化

運転支援機能

ナイトビュー

夜間走行時のドライバーの視覚をサポートするシステムです。ヘッドランプの照射範囲内外の見えにくい歩行者や道路状況などをよりクリアーに表示し、広範囲の視界が得られます。

ナイトビュー映像

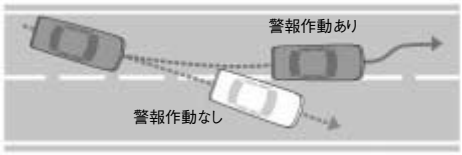


レーンキーピングアシスト

高速道路等の運転時に前方道路の白線（黄線）をカメラで認識し、電動パワーステアリングを制御することで、車線に沿った走行をしやすいようにドライバーのステアリング操作を支援します。

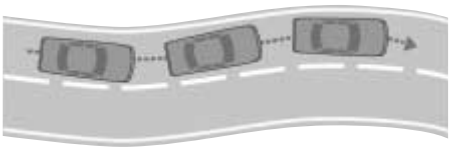
●車線逸脱警報機能

逸脱を予想した場合、ブザーとディスプレイ表示、短時間の小さい操舵力により、ドライバーに注意を喚起するとともに、車線逸脱をしにくくします。



●車線維持支援機能

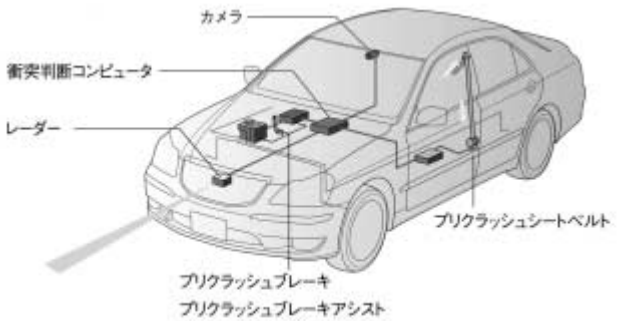
車線の中央付近を走行しやすいように常に小さい操舵力で支援します。
（レーダークルーズコントロール作動中）



注）レーンキーピングアシストは、車線内自動走行を実現したものではありません。
必ずドライバー自らがステアリング操作を行ってください。

プリクラッシュセーフティシステム

衝突が避けられない状況を事前に判断し、安全装備を早期に作動させることにより、衝突の被害を軽減するシステムです。



インテリジェントパーキングアシスト

車庫入れや縦列駐車において、車両が操舵操作を行う世界初の後退駐車支援システムです。ドライバーは、ディスプレイ上で駐車位置を設定し、周囲の安全を確認しながら後退するだけで、難しい駐車を簡単に行うことができます。

交通システムの高度化

ETC（Electronic Toll Collection System）

有料道路の料金所を通過する際、ゲートと車載器の間で通信を行い、ETCカードで自動的に料金決済を行い、一旦停止の必要をなくしたシステムです。料金所付近の交通渋滞が緩和され、排出ガス低減や省燃費の効果も期待されます。また、お客様のニーズに合わせた車載器の提供を行うとともに、インフラ側のシステムについても構想段階から参画し、実用化に貢献してきました。

汎用3ピースタイプETC車載器

インパネ収納型ビルトインタイプETCユニット

IMTS（Intelligent Multimode Transit System）

専用道路を隊列を組んで無人で自動走行し、一般道では手動単独で運転できる、鉄道とバスの長所を結合させた新しい公共交通システムです。2005年日本国際博覧会「愛・地球博」では場内の移動手段として運行されました。

愛・地球博用IMTS隊列走行

ウェルキャブ

トヨタは「すべての方に快適な移動の自由をご提供する」ことを目指し、自立や介護をサポートする車両の開発・普及に積極的に取り組んでいます。

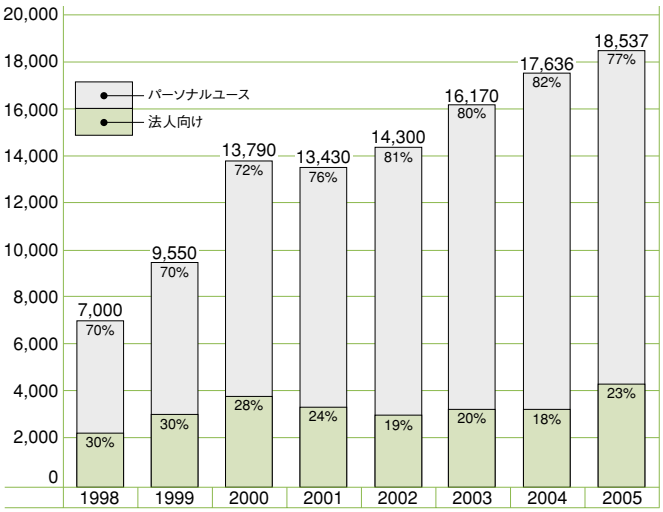
■ラインアップ（33車種66タイプ）

フレンドマチック車／ フレンドマチック 取付用専用車	プリウスⓉⓅ プレミオⓅ アリオンⓉ カルディナⓉⓅ	カローラⒸ カローラ フィールダーⒸ ラウムⓃ イストⓃ	ヴィッツⓃ シエンタⒸⓃ ポルテⓉⓅ ラクティスⓅⒸ
助手席回転 スライドシート車	プリウスⓉⓅ プレミオⓅ アリオンⓉ カローラⒸ	カローラスパシオⒸ カローラ フィールダーⒸ イストⓃ ヴィッツⓃ	シエンタⒸⓃ ラウムⓃ ラクティスⓅⒸ
全自動助手席回転 スライドシート車	プログレⓅ クラウン ロイヤルⓉ プレビスⓉ		
後席回転スライドシート車	ラウムⓃ		
サイドアクセス車	ポルテⓉⓅ		
助手席リフト アップシート車	カローラ スパシオⒸ ラウムⓃ イストⓃ ヴィッツⓃ アルファードGⓅ/VⓃ エスティマⓉ/Ⓒ	イプサムⓅⓃ ウィッシュⓃ ヴォクシーⓃ ノアⒸ シエンタⒸⓃ アイシスⓉ	ポルテⓉⓅ パッソⒸ ラクティスⓅⒸ
サイドリフト アップシート車	アルファードGⓅ/VⓃ エスティマⓉ/Ⓒ ヴォクシーⓃ	アルファードハイブリッドⓅⓃ ノアⒸ アイシスⓉ	
車いす仕様車	アルファードGⓅ/VⓃ ハイエースⓅ レジアスエースⓃ ヴォクシーⓃ	ノアⒸ タウンエースバンⒸ ライトエースバンⓃ コースターⓉ	シエンタⒸⓃ ラクティスⓅⒸ
後席回転シート仕様	クラウン コンフォートⓉ コンフォートⓅ		

注）2006年3月末現在　　取り扱い店　Ⓣ：トヨタ店　Ⓟ：トヨペット店　Ⓒ：カローラ店　Ⓝ：ネッツ店　（一部地区で取り扱いが異なる場合がある）

■ウェルキャブ販売台数の推移

（単位：台）



■ウェルキャブ総合展示場「トヨタハートフルプラザ」来場者数

「トヨタハートフルプラザ」では、常時8台～10台のウェルキャブ車を展示し、「実車を見たい」「使い勝手を確かめたい」といったお客様の要望にお応えするとともに、専任スタッフが一人ひとりのニーズに合わせたカスタマイズなどを含めたコンサルティングを行い、お体の不自由な方、ご高齢の方のモビリティライフ向上に向けた取り組みを進めています。

	来場者数（オープン～2005年12月）	2005年来場者数	オープン
札　幌	約 5,320人	2,210人	2003年 9月
仙　台	約 1,046人	1,046人	2005年10月
千　葉	約17,150人	1,810人	2001年 7月
千葉中央	約 3,070人	1,240人	2003年 6月
東　京	約46,790人	4,430人	1998年 7月
名古屋	約18,290人	4,901人	2002年 9月
神　戸	約30,710人	3,937人	1998年10月
広　島	約 6,090人	1,858人	2000年10月
福　岡	約16,580人	2,196人	1999年11月

トヨタ ハートフルプラザ

■札　幌　〒063-0801　北海道札幌市西区二十四軒1条7-2-19 ……☎011-611-8739
■仙　台　〒981-3125　仙台市泉区みずほ台3-5 ……☎022-776-8739
■千　葉　〒261-8585　千葉市美浜区稲毛海岸4-5-1 ……☎043-241-1488
■千葉中央　〒260-0032　千葉市中央区登戸2-2-7 ……☎043-302-8111
■東　京　〒168-0081　東京都杉並区宮前1-20-22　モデリスタ東京2階 ……☎03-3332-3811
■名古屋　〒452-0932　愛知県清須市朝日弥生1 ……☎052-400-8739
■神　戸　〒650-0023　神戸市中央区栄町通7-1-3 ……☎078-366-1616
■広　島　〒733-0841　広島市西区井口明神1-16-1　アルパーク西棟4階トヨタモータリア内 ……☎082-501-1222
■福　岡　〒816-0092　福岡市博多区東那珂2-1-55　モデリスタ福岡内 ……☎092-477-6187

その他の常設展示場および詳しい情報についてはホームページをご覧ください。　URL）http://toyota.jp/welcab/ の「常設展示場」へ。

モータースポーツ

トヨタはモータースポーツ活動を通して、クルマの持つ「楽しさ、夢」を追求し、クルマの限りない可能性を世界中の人々に感じていただきたいと考えています。その活動の柱は、F1、米国のNASCAR、そして日本のSUPER GT、フォーミュラ・ニッポンというトップカテゴリーへの参戦です。またトップドライバーの育成、ワンメイクレースの開催、富士スピードウェイの活用などモータースポーツの基盤を支える活動を行っています。

■フォーミュラ・ワン世界選手権（F1）

・2002年シーズンより「パナソニック・トヨタ・レーシング」として参戦。
・2006年シーズンは、新型F1カー「トヨタTF106」を投入。ドライバーはヤルノ・トゥルーリ、ラルフ・シューマッハーの布陣で臨む。

■NASCAR

・2004年より、クラフツマン・トラック・シリーズにタンドラで参戦。2005年シーズンまでに通算13勝。
・2006年もタンドラの参戦を推進。更に2007年からはカムリでネクステル・カップ・シリーズ、ブッシュ・シリーズに参戦。

■SUPER GT

・日本のモータースポーツのトップカテゴリーに、トヨタテクノクラフト（株）を通じて、参戦チームを支援（写真は2005年）。

■Netz Cup

・モータースポーツの裾野を広げるエントリーカテゴリーとなるNetz Cupなどワンメイクレースを開催。有望ドライバーの参加を支援。

■富士スピードウェイ

・トヨタは2000年11月に富士スピードウェイ（株）の経営権を取得。
・「モータースポーツの振興」「若者への情報発信」「安全運転教育の推進」を3つの柱とした改修を実施し、2005年4月にリニューアルオープン。

GAZOO

GAZOO（ガズー）は、1998年クルマのビジュアル情報ネットワークとして、インターネットを使った情報提供サービスを開始しました。
1999年にはインターネットショッピングモール「ガズー商店街」を開設しEコマースへ進出。
2000年にはマルチメディアキオスク端末「E-TOWER」を開発し、コンビニ等への提供を開始、同年GAZOO事業を強力に推進するために、デジタルメディアサービス（株）を設立しました。
2002年には、車向け情報サービス「G-BOOK」を開始し、テレマティクス分野に事業を拡大し、2005年にはそれを進化させた「新世紀テレマティクス G-BOOK ALPHA」、さらにレクサス向け「G-Link」のサービスをスタートしました。
2004年には、最先端のCRMシステム「e-CRB」※1をタイで発表し、現在では、タイ、豪州、中国でe-CRBの導入がスタートしています。
今後も、これまで培った技術・情報・ノウハウやインフラを活かし、世界中のお客様とより密接で長期的な信頼関係を構築すべく、グローバルに取り組んでいきます。

※1：evolutionally Customer Relationship Building

インターネットサイト「GAZOO.com」

マルチメディアキオスク端末「E－TOWER」

クルマ向け情報サービス「G－BOOK」

自動車部品

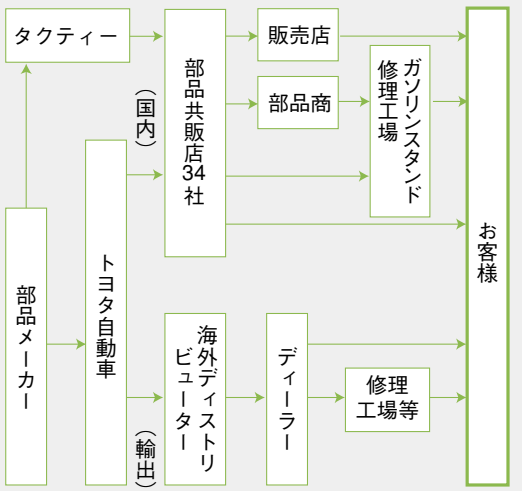
トヨタの部品・用品販売は、修理、整備に必要な補修部品、カーアクセサリー用品、オイル類を中心に販売。また、国内だけでなく海外においてもサービス体制を整え、お客様のニーズに迅速に対応できるようにしています。

■事業内容

ナビゲーション、オーディオ2005年モデル

商品分類	商品
補修部品	・プラグ、オイルフィルター、エアエレメント、クラッチディスクなどの部品 ・バンパー、フェンダーなどの外装部品 ・その他の一般補修部品
用品	・カーオーディオ、カーナビゲーションシステム、ETC車載器 ・フロアマット、サイドバイザー、ナンバーフレーム、エアロパーツ、フェンダーランプなどの車種専用用品 ・チャイルドシートなどの汎用用品
鑛油	・エンジンオイル、ギヤオイルなどのオイル類 ・シャシー塗装剤、ロングライフクーラントなどのケミカル類

販売ルート



注）2006年2月現在。

■トヨタ部品・用品販売の推移　（単位：億円）

	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
国　内	4,147	3,989	3,711	3,630	3,697	3,741	3,623	3,783	4,132	4,305
海　外※	1,764	1,867	1,900	1,676	1,577	1,749	1,983	1,882	2,000	2,220

※日本からの輸出分のみ

■トヨタ部品・用品の売上の構成（2005年）　（単位：億円）

	補修部品	用　品	鑛　油	合　計
国　内	2,225(51.6)	1,798(41.8)	282(6.6)	4,305(100.0)
海　外※	2,197(99.0)	23　(1.0)	ー	2,220(100.0)

注）（　）内は構成比率（%）。　※日本からの輸出分のみ

トヨタレンタリース

トヨタ自動車をフランチャイザーとしたトヨタレンタリース店63社を国内に展開し、2005年（9月末時点）のトヨタレンタリースのレンタカー保有台数は、8.7万台(前年比109％)、カーリース保有台数は39.8万台（同109％）と、年々着実に拡大しています。

■国内のレンタカー、カーリースの保有台数推移（各年9月末時点）

●レンタカー

（単位：台）

	総数	トヨタレンタリース
2005	342,129	87,173
2004	314,666	79,675
2003	299,956	75,812
2002	288,075	68,759
2001	287,503	67,952
2000	271,332	62,335
1999	261,100	57,949
1998	255,149	55,393
1997	255,023	54,233
1996	244,951	52,254

●カーリース

（単位：台）

	総数	トヨタレンタリース
2005	2,778,993	398,212
2004	2,635,874	366,401
2003	2,499,004	338,989
2002	2,399,571	320,865
2001	2,315,271	307,356
2000	2,229,053	287,509
1999	2,130,293	276,107
1998	2,056,274	266,638
1997	1,930,882	256,957
1996	1,816,205	241,523

■レンタカー予約の窓口

トヨタレンタカー予約センター 0070-8000-10000（ゼロゼロナナゼロ ハッセン イチマン）無料
オープン時間8：00～20：00(年末年始休)　※一部つながらない電話・回線があります。

ホームページ トヨタレンタ楽ティブ www.toyota.co.jp/rent/
[EZweb・i-mode・vodafone live! からの予約はhttp://rent.toyota.co.jp]

U-Car（中古車）

2005年のU-Car（中古車）市場〈除軽〉は520万台、前年比100％でした。新車市場と比較すると、U-Car市場は13年連続で新車台数を上回りました。2005年のトヨタ車のU-Car登録は190万台でした。

■2005年のU-Car市場（新車と比較）

	台数（除軽）	前年比
U-Car登録	5,203,010	99.6%
新車登録	3,929,374	99.1%

■2005年のトヨタ車のU-Car登録

（単位：台）

	トヨタ車	他メーカー車	合計
乗用車	1,709,037(38.0)	2,792,669	4,501,706
商用車	189,475(27.0)	511,829	701,304
合　計	1,898,512(36.5)	3,304,498	5,203,010

注）（　）内は中古車市場に占めるトヨタ車比率(%)。

■トピックス

1）仕入れ

●トヨタ買取りネットワーク「T-UP」の展開

2000年4月より、お客様のニーズにお応えして幅広いサービスを提供するトヨタ買取りネットワーク「T-UP」を営業しております。
電話やインターネットからも無料お試し査定がご利用いただけます。　※2005年12月末現在468店舗営業。

2）流通

●トヨタ・オートオークション「TAA」

現在、関東・横浜・中部・近畿・東北・九州の現車6会場と、オフィスに居ながら、セリに参加可能なパソコンオークションにより、全国規模でU-Carビジネスをバックアップしています。2006年4月に南九州会場を開設。
2005年はTAA6会場計で56.7万台（前年比123％）の出品台数でした。（業界第3位）

3）小売

●U-Car検索システムGazooUVIS

店舗やインターネットから毎日更新される約5.5万台の在庫を検索でき、欲しい車を選べるGazooUVIS導入店舗が拡大中。

●大規模小売店舗「カーロッツ」の展開

最大400台展示、サービス工場も併設した大規模小売店舗「カーロッツ」。2005年末現在、12店舗で併せて毎月約20,000人のお客様に来場していただいています。（2006年1月に2店舗オープンし14店舗）

住宅事業

トヨタは1975年から本格的に住宅事業への取り組みを開始。以来、「日本の住まいを本気でよくしたい」を企業理念に、安心、快適な住まいづくりに取り組んでいます。現在、戸建住宅では鉄骨ユニット工法、鉄骨軸組工法、スチールハウス工法（SW）の３工法を手がけ、様々なライフスタイル、敷地形状、気候に対応した、高品質で耐久性・耐震性に優れた商品を豊富にとりそろえています。2004年１月、営業機能を担うトヨタホーム株式会社が営業を開始しました。

■事業内容

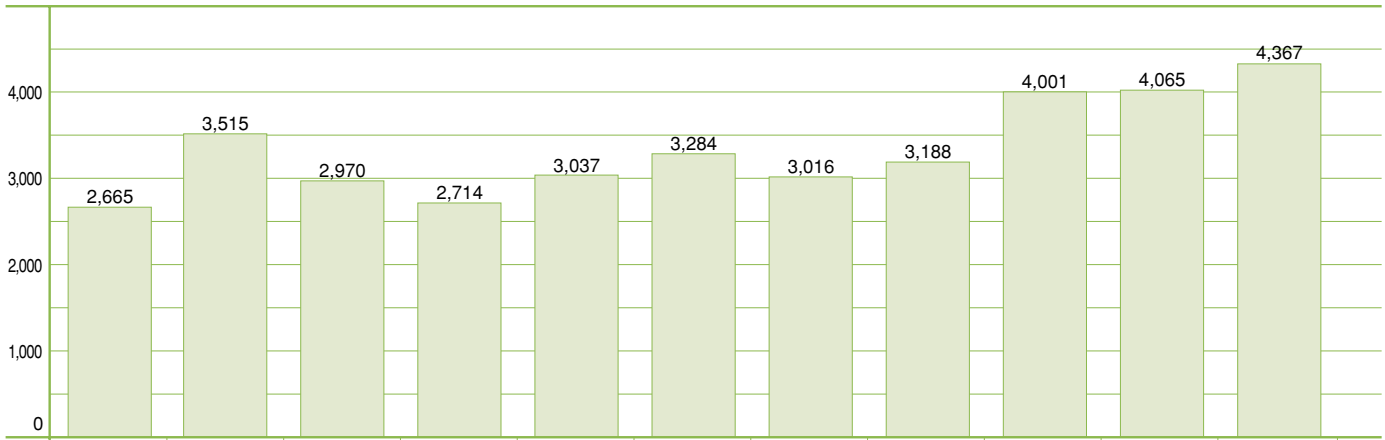
商品分類	商品
鉄骨ユニット工法	●シンセ・アヴェンティーノ ●シンセ・カーダ ●シンセ ＡⅡ　●シンセ ＡⅢ ●シンセ・レゾン Ｇ　●シンセ ＢⅢ ●シンセ・レゾン Ｓ　●シンセ・スマートステージ ●シンセ・レゾン Ｊ　●シンセ・スマートステージモア
鉄骨軸組工法	●エスパシオ Mezzo　●エスパシオ EFトラデージ ●エスパシオ EF　●エスパシオ EFアーバンウィンド ●エスパシオ EF3　●エスパシオ EF フィッツ ●エスパシオ GR　●エスパシオ GX
トヨタSW工法	・Vie α　・Vie α K2

販売ルート：トヨタ自動車（開発・生産）→（部材供給）→トヨタホーム（営業）→（部材供給）→販売店（トヨタホーム店21社）→（施工／サービス窓口／定期点検）→お客様

注）2006年１月現在。写真はシンセ・アヴェンティーノ。

■トヨタホームの販売戸数の推移（戸建）

（単位:戸）



	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
トピックス	・「メレーゼC20」発売（4月）	・「メレーゼ・プレミア」発売（10月） ・「シェーヌ」発売（6月）	・「メレーゼ・プレミア」全面改良し、発売（11月） ・「シェーヌ」改良し発売（4月）	・「エスパシオEF」全面改良し、発売（10月） ・ユニット系4商品改良し、発売（10月） ・「シェーヌ」を改良し、発売（4月）	・「シンセAⅡ」発売（7月） ・「シンセAⅢ」発売（4月）	・「シンセノイエ」発売（10月） ・「シンセオーク21」発売（8月） ・「Vie α」（スチールハウス）発売（6月） ・「エスパシオGR」発売（4月） ・「シンセレゾン」発売（4月）	・「Vie αK2」発売（7月） ・「エスパシオGX」発売（7月） ・「シンセSS」発売（7月） ・「シンセオーク21W」発売（4月） ・「シンセレゾンG」発売（4月）	・「Vie αトラデージ」発売（10月） ・「シンセスマートステージ」発売（4月） ・「Vie αミアカーサ」発売（4月） ・「シンセスマートステージf」発売（9月） ・「エスパシオEFトラデージ」発売（1月）	・「エスパシオ EFアーバンウィンド」発売（7月） ・「シンセシリーズ」大幅に充実し販売（4月） ・「トヨタホーム株式会社」設立（4月） ・「トヨタホームローン」の商品内容強化（1月）	・「シンセカーダ」などグッドデザイン賞受賞（10月） ・「シンセカーダ」発売（4月） ・「MEZZO」発売（3月） ・「トヨタホーム株式会社」営業開始（1月）	・「トヨタ夢の住宅 PAPI」完成（12月） ・「リバーサイドヒルズさくら台」分譲開始（4月） ・「シンセ・スマートステージ モア」発売（4月） ・「ゼルクシティ安城」第1期即日販売（7月） ・ミサワホームと共同分譲開発（7月） ・「エスパシオ Mezzo」発売（11月）	・「シンセ・アヴェンティーノ」発売（1月）

注）2006年１月現在。

■主要事業所

名　称	事業内容・生産品目	完成年月	土地面積	建物面積	従業員数
春日井（かすがい）事業所	トヨタホームの研究開発及び生産	1987. 4	14万m²	3万m²	300人
栃木（とちぎ）事業所	トヨタホームの生産	1989. 8	5	2	72
山梨（やまなし）事業所	トヨタホームの生産	1991.10	17	5	56

注）2006年１月現在。

■トピックス

実大実験で強さを証明したトヨタホーム

2003年２月４日、実際に暮らしている状態の建物で大規模な耐震実験を公開で実施。阪神・淡路大震災や予測東海地震の地震波と様々な地盤条件を想定し、繰り返し実験。延べ49回の実験後でも構造体にゆがみや変形はなく、トヨタホームの高い耐震性が実証されました。

金融事業

トヨタは、金融事業の競争力強化と意思決定の迅速化を図るため、内外の金融子会社を傘下におく統括会社トヨタファイナンシャルサービス株式会社（以下TFS）を2000年7月に設立。TFSグループは個人のお客様を中心に総合的な金融サービスの提供を目指しています。

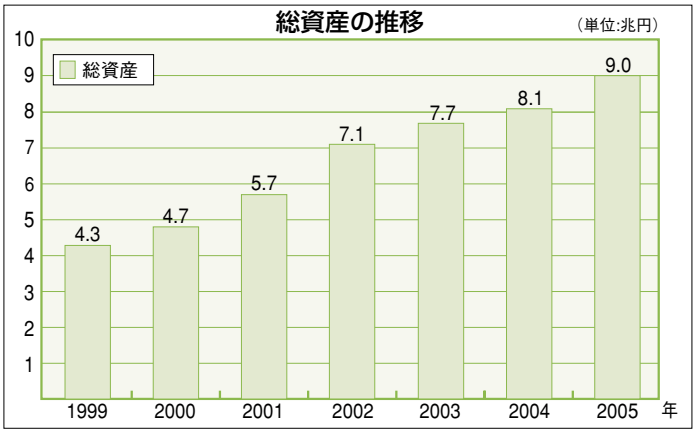
■特徴

●TFSグループのミッション
トヨタのお客様に健全な金融サービスを提供し、豊かな生活に貢献し、トヨタファンの拡大を目指しています。

●日本企業で最高の財務信用力
スタンダード＆プアーズ社、ムーディーズ社より最高ランク格付「AAA」「Aaa」を取得。

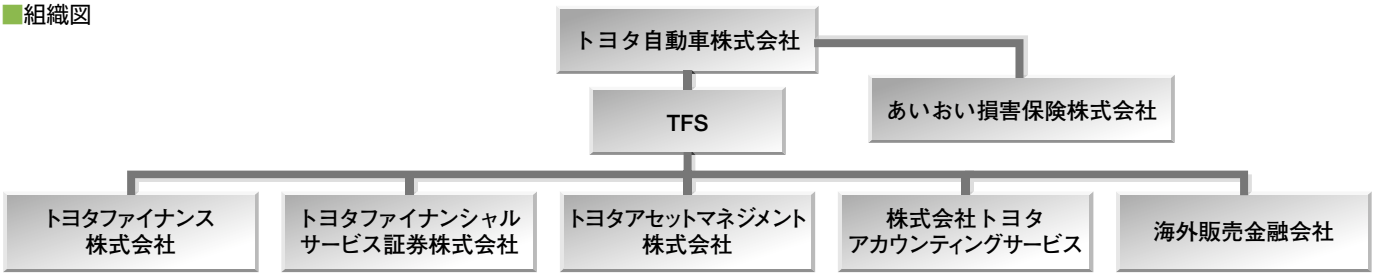
●グローバルな販売金融ネットワーク
トヨタ車市場の90％をカバー。世界30ヶ国におよぶグローバルな販売金融ネットワークを展開し、500万人以上のお客さまにサービスをご提供しています。

●お客様の生活に密着した総合金融サービス
年齢とともに変化するお客さまのニーズに対応し、結婚、出産、進学、自動車や住宅の購入などのあらゆるライフ・イベントをサポートするための商品・サービスをご提供し続けます。



注）2004年からは米国会計基準。

■組織図



■グループ会社案内

会社名	設立	資本金（単位：億円）	従業員数
トヨタファイナンシャルサービス株式会社	2000年 7 月	785.2	69（2005年3月末時点）
トヨタファイナンス株式会社	1988年11月	165	1,461（〃）
トヨタファイナンシャルサービス証券株式会社	2000年 7 月	75	99（〃）
トヨタアセットマネジメント株式会社	1990年 2 月	6	45（〃）
株式会社トヨタアカウンティングサービス	1999年 7 月	1	54（〃）
あいおい損害保険株式会社	1918年 6 月	1,000	8,578（〃）

■主なグローバルネットワーク

国／地域		会社名	設立※2	従業員数
アメリカ	U.S.A.	Toyota Motor Credit Corporation（TMCC）	1982年10月	2,965※1
	カナダ	Toyota Credit Canada Inc.（TCCI）	1990年 2月	110
	ブラジル	Banco Toyota do Brasil S.A.（BTB）	1999年 1月	74
	アルゼンチン	Toyota Credit Argentina S.A.（TCA）	1998年 9月	24
	メキシコ	Toyota Services de Mexico, S.A. de C.V.（TSM）	2001年10月	38
	ベネズエラ	Toyota Service de Venezuela, C.A.（TSV）	2001年10月	35
ヨーロッパ／アフリカ	イギリス	Toyota Financial Services（U.K.）Plc（TFSUK）	1988年11月	153
	ドイツ	Toyota Kreditbank GmbH/Toyota Leasing GmbH（TKG）	1988年 4月	186
	フランス	Toyota France Financement（TFSF）	1997年12月	68
	スウェーデン	Toyota Financial Services Sweden（TFSSW）	2000年 3月	19
	ノルウェー	Toyota Finans Service Norge（TFSN）	1997年 7月	22
	イタリア	Toyota Financial Services Italy（TFSI）	1997年 7月	63
	チェコ共和国	Toyota Financial Services Czech s.r.o（TFSCZ）	2000年 5月	24
	南アフリカ	Toyota Financial Services South Africa（Pty）Ltd.（TFSSA）	2000年 4月	62
	フィンランド	Toyota Finance Finland Oy（TFF）	1995年 8月	24
	ポーランド	Toyota Bank Polska S. A.（TBP）	2000年 3月	34
	デンマーク	Toyota Financial Services Denmark a/s（TFSDK）	2002年 3月	6
	ハンガリー	Toyota Financial Services Hungary Rt.（TFSH）	2002年 7月	8
	スペイン	Toyota Financial Services Espana（TFSES）	2003年 4月	26
アジア／オセアニア	オーストラリア	Toyota Finance Australia Ltd.（TFA）	1982年 6月	335
	ニュージーランド	Toyota Finance New Zealand Ltd.（TFNZ）	1989年 7月	48
	タイ	Toyota Leasing（Thailand）Co., Ltd.（TLT）	1993年10月	588
	マレーシア	UMW Toyota Capital Sdn. Bhd.（UMWTC）	2001年12月	120
	フィリピン	Toyota Financial Services Philippines Corporation（TFSPH）	2002年 8月	56
	中国	Toyota Motor Finance（China）Company Limited（TMFCN）	2005年 2月	44

注）2005年3月現在。　※1 プエルトリコを含む。　※2 一部会社については出資時期。

主な出資会社　国内出資会社

■トヨタグループ

会社名	設立	事業内容	資本金	従業員数	売上高	出資比率
			（百万円）	（人）	（百万円）	（%）
(株)豊田自動織機 Toyota Industries Corporation	1926.11 （大正15年）	繊維機械、産業車両の製造・販売、乗用車のボディー及び部品の製造	80,462	10,158	784,399	23.51
愛知製鋼(株) Aichi Steel Corporation	1940.3 （昭和15年）	特殊鋼、鍛鋼品の製造・販売	25,016	2,359	149,478	24.22
(株)ジェイテクト※1 JTEKT Corporation	1921.1 （大正10年）	工作機械、自動車用部品、住宅設備品の製造・販売	※2 35,185	※3 9,926	※4 930,000	※2 22.77
トヨタ車体(株) Toyota Auto Body Co.,Ltd.	1945.8 （昭和20年）	乗用車、商用車、特殊車のボディー及び部品の製造	10,371	10,421	965,866	56.03
豊田通商(株) Toyota Tsusho Corporation	1948.7 （昭和23年）	各種原材料、製品の売買・輸出入	26,748	1,963	2,638,392	22.99
アイシン精機(株) Aisin Seiki Co.,Ltd.	1949.6 （昭和24年）	自動車部品、住生活関連機器の製造・販売	45,049	10,456	649,282	22.25
(株)デンソー DENSO CORPORATION	1949.12 （昭和24年）	各種自動車用及びその他電装用品、空調設備並びに一般機械器具、電気機械器具の製造・販売	187,456	33,310	1,862,055	22.98
トヨタ紡織(株) Toyota Boshoku Corporation	1950.5 （昭和25年）	自動車用内装製品、フィルター及びパワートレイン機器部品、繊維製品等の製造・販売	8,400	6,476	323,855	46.82
東和不動産(株) Towa Real Estate Co.,Ltd.	1953.8 （昭和28年）	不動産の所有・管理・売買・貸借	23,750	77	5,424	45.00
(株)豊田中央研究所 Toyota Central Research and Development Laboratories, Incorporated	1960.11 （昭和35年）	総合技術の開発、利用に関する各種の研究試験・調査	3,000	923	18,392	54.00
関東自動車工業(株) Kanto Auto Works,Ltd.	1946.4 （昭和21年）	乗用車、商用車のボディー及び部品、住宅関連機器及び建築用部材の製造	6,850	5,377	640,072	50.08
豊田合成(株) Toyoda Gosei Co.,Ltd.	1949.6 （昭和24年）	ゴム・合成樹脂・ウレタン製品、半導体関連製品、電気・電子製品、接着剤等の製造・販売	28,027	5,348	298,293	42.66
日野自動車(株) Hino Motors,Ltd.	1942.5 （昭和17年）	トラック、バス、乗用車、商用車、特殊車及び部品の製造・販売	72,717	9,030	893,819	50.11
ダイハツ工業(株) Daihatsu Motor Co.,Ltd.	1907.3 （明治40年）	乗用車、商用車、特装車及び部品の製造・販売	28,404	10,476	929,854	51.19

注）1. 資本金、従業員数は各社決算期末。売上高は2004年4月～2005年3月。出資比率は2005年3月現在。
※1：2006年1月に豊田工機(株)は光洋精工(株)と合併し、社名変更。　※2：2006年1月1日の合併時点。　※3：2006年1月末現在。　※4：2005年11月時点予想(2006年3月期)。

■主な国内出資会社の概要

会社名		事業内容	設立年	トヨタ出資比率(%)	資本金（億円）	従業員数（人）
自動車製造	トヨタ自動車九州(株)	自動車および部品の製造	1991	100.0	450.0	2,453
	トヨタ自動車北海道(株)	自動車部品の製造	1991	100.0	275.0	2,396
	トヨタ自動車東北(株)	自動車部品の製造	1997	100.0	33.0	200
自動車販売	トヨタアドミニスタ(株)※1	東京におけるトヨタ自動車の直轄販売会社の持株会社	2000	100.0	143.9	230
	大阪トヨペット(株)※2	自動車および同部品・用品の販売	1927	100.0	50.3	1,548
住宅	トヨタホーム(株)	住宅用建築部材の販売ほか	2003	100.0	30.0	146
	トヨタすまいるライフ(株)	不動産の売買、寮・社宅サービス業ほか	1969	91.0	10.0	285
	トヨタウッドユーホーム(株)	住宅の設計、施工、販売ほか	1969	100.0	63.5	271

注）2005年3月現在。　※1：2005年9月現在　※2：2005年7月現在

■主な国内出資会社の概要

会社名		事業内容	設立年	トヨタ出資比率(%)	資本金(億円)	従業員数(人)
金融	トヨタファイナンシャルサービス(株)	販売金融を中心とする金融事業の統括会社	2000	100.0	785.2	69
	あいおい損害保険(株)	損害保険事業	1918	33.4	1000.0	8,578
IT	KDDI(株)※1	固定電話サービス(国内・国際)、携帯電話サービス、インターネットサービス、データセンターサービス	1984※2	11.24	1,418.5	10,000
	(株)トヨタデジタルクルーズ	VAN事業、イントラネットサービス、SI(システムインテグレーション)	1996	60.8	8.0	258
	(株)トヨタコミュニケーションシステム	設計～調達～生産～販売、管理のグローバル基幹システムの開発、保守、運用サービス、コンサルティング	2001	100.0	14.2	1,280
	(株)トヨタIT開発センター	IT関連の技術開発、ビジネスモデルの発掘・開発	2001	65.0	30.0	30
	デジタルメディアサービス(株)	G-BOOKを中心としたテレマティクス事業、GAZOOシステム機器販売・保守、システムインテグレーション	2000	75.0	1.5	152
	(株)タス	インターネットによる不動産の価格算定・情報提供サービス	2000	22.2	1.8	5
メディア	名古屋テレビ放送(株)	テレビ放送事業	1961	34.6	4.0	232
	ひまわりネットワーク(株)	有線テレビ放送事業、インターネットサービス	1989	21.5	23.1	69
	(株)ZIP-FM※1	一般放送事業、音楽関係事業	1992	10.0	12.0	28
ITS	(株)衛星測位情報センター	カーナビへのGPSの誤差補正情報提供	1996	20.8	4.8	2
	(株)トヨタマップマスター	カーナビ用地図データベースの企画、調査、製作、販売	1998	51.1	4.8	120
	(株)日本緊急通報サービス	警察・消防などへの緊急通報接続サービス	1999	22.3	11.5	15
物流	トヨタ輸送(株)	自動車及びその部品輸送業務	1952	90.5	12.5	1,062
	TASエクスプレス(株)	国際航空貨物運送代理店業	1966	54.6	1.2	158
	トヨフジ海運(株)	自動車及びその部品輸送業務	1964	50.0	1.2	250
自動車周辺	(株)アムラックストヨタ	自動車ショールームの運営	1990	100.0	0.5	42
	(株)トヨタオートモールクリエイト	自動車販売施設、ショッピングセンターの企画・運営	1999	100.0	4.9	4
	富士スピードウェイ(株)	自動車レースのサーキット場経営	1963	93.4	100.9	79
	ライフクリエイション(株)	オフロードコース(さなげアドベンチャーフィールド)の運営	1993	40.0	0.8	5
	(株)タクティー	自動車部品・用品の販売およびカーショップフランチャイズ事業	1996	80.0	4.5	396
	パナソニックEVエナジー(株)※3	EV/HEV用バッテリーおよび周辺機器の開発・製造・販売	1996	60.0	30.0	299
	(株)トヨタモデリスタインターナショナル	車両開発、情報システムの開発・管理・運用、技術情報収集・解析、車両技術者教育	1997	85.0	1.0	77
	(株)トヨタテクノサービス	車両開発、情報システムの開発・管理・運用、技術情報収集・解析、車両技術者教育	1982	100.0	1.0	1,846
	トヨタテクノクラフト(株)	各種自動車の点検整備修理、特装車の架装ならびに改造、モータースポーツ車両の改造および同付属部品・用品の販売	1954	100.0	17.0	706
	(株)デルフィス	広告、マーケティングサービス、店舗・教育・IT等ソリューションビジネス、福祉関連サイト運営	1949	100.0	0.5	437

注)2005年3月現在。　※1：2006年1月現在。　※2：日本高速通信(株)設立年。　※3：2006年10月現在

主な出資会社　国内出資会社

■主な国内出資会社の概要

会社名		事業内容	設立年	トヨタ出資比率(%)	資本金(億円)	従業員数(人)
バイオ	(株)トヨタフローリテック	花卉の生産・販売	1999	50.0	1.0	40
	トヨタルーフガーデン(株)	屋上緑化の設計・施工、花卉・園芸資材の販売	2001	70.0	0.55	11
エネルギー	(株)トヨタタービンアンドシステム	小型ガスタービンを利用したコージェネシステムの開発・製造・販売	1998	100.0	16.0	73
環境	(株)エコ・リサーチ	環境コンサルティング及び環境情報システムサービス	2001	51.0	1.0	6
生活・シニア	(株)ウエルネス・フロンティア・センター	少子高齢・成熟社会での生活の質の向上に資する各種事業のプロデュース	2000	14.2	1.51	15※2
	(株)グッドライフデザイン	地域医療機関のサポートと健康・シニア生活サービスを提供	2002	51.0	2.6	74
マリン	蒲郡海洋開発(株)	海洋レジャーを主体とした複合レクリエーション施設「ラグーナ蒲郡」の経営および土地の分譲	1991	15.8	1.0	130
	長崎サンセットマリーナ(株)	マリーナ事業	1993	76.9	1.4	5
エアロ	エアフライトジャパン(株)	パイロット養成・飛行場管理運営	1992	75.0	4.0	27
	朝日航洋(株)	航空機運航、測量・地図情報事業	1955	97.4	31.93	930
新素材	(株)アドマテックス	酸化物セラミックス粉(シリカ・アルミナ・複合酸化物)の製造・販売	1990	53.4	3.5	59
エンジニアリング	サンリツオートメイション(株)	組込み型ボードコンピュータとITSの開発・販売	1971	30.0	1.33	100※3
	(株)BPA	車両生産技術に関する設計エンジニアリング	1991	100.0	4.0	138
	(株)MTA	デジタルエンジニアリングによる生産設備等の設計	1991	100.0	2.5	82
	ラティス・テクノロジー(株)	3Dデータを超軽量化する技術の開発・販売	1997	28.8	4.33	37※2
	(株)トヨタケーラム	CAD/CAM/ソフトウェアの開発	1993	77.9	7.0	172
起業家による設立会社※1	(株)カーテックフジ	ブレーキ認証試験、車検整備・板金塗装	1996	24.5	0.2	55
	(株)メディア・クリック	マスメディア連動のオンデマンド音楽生活情報サービス事業	2001	40.0	1.0	4
社会貢献・従業員福利厚生・コンサルティング他	トヨタ瑞浪開発(株)	ゴルフ場の経営	1989	38.1	2.50	48
	(株)トヨタツーリストインターナショナル	海外渡航の相談、斡旋および渡航手続きの代理、渡航書の作成	1973	52.0	1.2	207
	(株)名古屋グランパスエイト	プロサッカー試合の興行・運営	1991	22.5	4.0	30
	(株)トヨタアメニティ	ホテル・結婚式場、レストラン及びスポーツ施設の経営・管理・運営	1992	100.0	1.0	69※4
	(株)オージェイティー・ソリューションズ	生産現場の診断、改善計画・人材育成プログラムの提案・実施	2002	51.0	2.5	84
	トヨタパーソナルサポート(株)	給与計算代行、福利厚生制度・施設・施策の企画・運営・管理およびそれに関するコンサルティング	2002	100.0	0.6	301※4
	(株)現代文化研究所	自動車産業全般に関する各種調査・研究	1968	92.0	0.25	53

注)※1：社員自らが社長となって設立したベンチャー企業(起業家制度開始1995年～)。　※2：2005年6月現在。　※3：2005年8月現在。　※4：2006年1月現在。他は2005年3月現在。

社会貢献活動　取り組み姿勢

トヨタは「国際社会から信頼されるよき企業市民」を目指し、国内はもとより、海外でも、様々な分野において社会貢献活動を展開してきました。2006年1月には「社会貢献推進部」を設置し、推進体制を強化。豊かな社会づくりとその持続的な発展のため、今後も積極的に社会貢献活動に取り組んでいきます。

■社会貢献活動の基本的な考え方

トヨタ基本理念

（抜粋、1992年1月制定,1997年4月改定）

各国・各地域の文化・慣習を尊重し、地域に根ざした企業活動を通じて経済・社会の発展に貢献する。

＜社会・地球の持続可能な発展への貢献＞

私たちは事業活動を行うあらゆる地域において、独自にまたはパートナーと協力して、コミュニティの成長と豊かな社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します。

2010年グローバルビジョンテーマ
（2002年4月策定）

Innovation into the Future
～豊かな社会創りに情熱をかけて～

創業以来の精神である「モノづくり、車づくりを通して社会に貢献する」ということの意味を今一度かみしめ、強い情熱と高い志を持って、『豊かな新世紀社会を実現する』ために邁進する。

社会貢献基本方針

目的	トヨタ自動車株式会社と関連子会社（以下トヨタ）は、豊かな社会の実現と、その持続的な発展のため、積極的に社会貢献活動を推進します。
取り組み姿勢	トヨタは、社会の幅広い層と力を合わせ、持てる資源を有効に活用しながら、次の世代を担う人材の育成と社会的課題の解決に向けた社会貢献活動に取り組みます。
社員のインボルブメント	トヨタは、社員が一市民として主体的に行う社会貢献活動を支援します。
情報開示	トヨタは、社会貢献活動の成果を開示し、広く社会と共有し、社会の発展に寄与することを目指します。
グローバル展開	トヨタは、社会貢献活動基本方針をグローバルに共有し、各国・各地域の実状に合わせた社会貢献活動を展開します。

社会貢献活動委員会
（社長を委員長とし、関連役員で構成）

＜社会貢献推進部＞

■グローバル活動の総括　■社会貢献自主プログラム（環境、メセナ他）　■交通安全自主プログラム
■トヨタ ボランティアセンター　■トヨタ博物館　■産業技術記念館

〔関連推進部署〕

企業PR部	総務部	東京総務部	環境部
＜地域交流・国際交流＞	＜地域渉外対応＞	＜自動車工業会関係＞	＜地球環境の保全＞

〔関連法人／文化施設／財団〕

【国内】

グループ会社　販売店

＜文化施設＞
■トヨタ会館　■豊田佐吉記念館
■アムラックス　■メガウェブ
■トヨタ鞍ヶ池記念館

＜関連施設＞
■モビリタ　■白川郷自然学校

＜財団他＞
■(財)トヨタ財団　■豊田工業大学

【海外】

米国 TMA　欧州 TME　アジア TMAP　中国 TMCI

その他各国の現地法人

＜トヨタ系財団（世界9カ国）＞
■アメリカトヨタ財団　■カナダトヨタ財団　■ドイツトヨタ財団
■タイトヨタ財団　■トヨタモーターフィリピン財団　■トヨタアストラ財団
■トヨタベトナム財団　■南アフリカトヨタ財団　■ケニアトヨタ財団

＜その他＞
■豊田工大シカゴ校

国内文化施設等

■トヨタ財団

設立	昭和49年10月15日	基金規模	297億円
活動内容	国内及び海外諸国における、生活・自然環境、社会福祉、教育文化等に関する研究並びに事業を助成。		
所在地	〒163-0437　東京都新宿区西新宿2-1-1　新宿三井ビル37階（TEL 03-3344-1701）		
会長	豊田達郎	理事長	木村尚三郎

（注）平成17年3月現在

■豊田工業大学

開学	昭和56年4月	大学院設置	昭和59年4月
設置法人	学校法人　トヨタ学園		
理事長	豊田達郎	学長	生嶋　明
建学の精神等	建学の理念は「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」（豊田佐吉遺訓）。広く産業界から実務を経験した社会人を、1993年（平成5年）からは一般学生も受け入れ、設立当初から徹底した少人数の「塾的大学」として、21世紀社会が求める豊かな人間性と創造性あふれる技術者・開発者の育成を目指す。		
所在地	〒468-0034　名古屋市天白区久方2丁目12-1（TEL 052-802-1111）		
設置学部	工学部（入学定員80名）		
設置大学院	大学院工学研究科　修士課程（入学定員24名）／博士後期課程（入学定員12名）		
付置機関	半導体センター、総合情報センター、先端フォトンテクノロジー研究センター、超高効率光起電力変換共同研究推進センター、宇宙ロボティクス研究センター、未来情報記録材料共同研究推進センター、ナノ格子新技術開発研究センター、TTI at Chicago（大学院大学）		

■展　示　館

トヨタ鞍ヶ池記念館

完成	昭和49年9月
来場者	63,925人（平成17年実績）
展示内容	豊田喜一郎とその仲間たちの大いなる夢、情熱の日々…。創業期の歩みとモノづくりのスピリッツを紹介。
所在地	〒471-0001　豊田市池田町南250番地（TEL 0565-88-8811）
開館時間	9：30～16：30、月曜休館（祝日の場合は翌日）春期・夏期・年末年始の会社連休日も休館

トヨタ会館

完成	昭和52年11月
来場者	441,209人（平成17年実績）
展示内容	「環境」「安全」「ITS」に対する取り組みを中心にトヨタのクルマづくりを分かりやすく紹介。
所在地	トヨタ自動車㈱　本社地区内（TEL 0565-29-3355）
開館時間	9：30～17：00、原則として日曜日及び春・夏・冬の会社連休日休館

トヨタ博物館

完成	平成元年4月
来場者	262,785人（平成17年実績）
展示内容	ガソリン自動車誕生から100年の自動車文化の歩みを体系的に展示。
所在地	〒480-1131　愛知県愛知郡長久手町大字長湫字横道41番100号（TEL 0561-63-5151）
開館時間	9：30～17：00（但し、入館は16：30まで）、月曜日（祝日の場合は翌日）及び・年末年始休館

アムラックス東京

完成	平成2年9月
来場者	1,631,041人（平成17年実績）
展示内容	トヨタ車を紹介するショールームとしての機能のほか、トヨタの新技術、環境や安全への取り組みなどを紹介。
所在地	〒170-0013　東京都豊島区東池袋3-3-5　トヨタ自動車池袋ビル（TEL 03-5391-5900）
開館時間	（2～4F）11：00～19：00、（B1～1F）11：00～21：00、月曜（祝祭日の場合翌日は休館）

メガウェブ

完成	平成11年3月
来場者	5,610,600人（平成17年実績）
展示内容	3つのテーマ館と3つのライドコース。クルマのさまざまな楽しさを「見て、乗って、感じる」体験型クルマのテーマ施設。
所在地	〒135-0064　東京都江東区青海1丁目パレットタウン（TEL 03-3599-0808）
開館時間	11：00～21：00、不定休

産業技術記念館

完成	平成6年6月（トヨタグループ13社が共同して設立）
来場者	304,182人（平成17年実績）
展示内容	繊維機械技術や、自動車技術・生産技術の移り変わりの他、トヨタグループの歴史等を紹介。
所在地	〒451-0051　名古屋市西区則武新町4-1-35（TEL 052-551-6115）
開館時間	9：30～17：00（但し、入館は16：30まで）、月曜（祝日の場合は翌日）及び年末年始休館

主な活動事例

国　内：「豊かな社会の実現」と「持続可能な発展」に向けて、各種自主活動を展開

＜科学技術の振興＞

トヨタのノウハウを活かして科学技術の振興とモノづくり文化の伝承につながる活動を展開

・なぜなにレクチャー

1996年より、社内エンジニアを中心に組織されたトヨタ技術会と連携し社員ボランティア講師を全国の科学館・科学イベントに派遣。科学の不思議やモノづくりの楽しさを伝えるために「安全なクルマのボディの仕組み」「風洞実験」「からくり自動車」などの科学工作教室を開催。96年の開始以来、小学生を中心に延べ15,000人以上が参加。

・ITSによる交通モデル都市づくりへの支援

1996年に愛知県豊田市と連携して「豊田ITS研究会」を発足。関係省庁が指定する「ITSモデル地区実験」都市として選定され、1999年からはEV共同利用実験等、市内での渋滞緩和を狙いとした様々な実験を展開。2002年には産・官・学・民による「豊田市ITS推進会議」（会長：豊田市長）が設置され、まちづくり・交通施策と連携した本格的な地域でのITS推進を支援。2004年10月開催の「ITS世界会議愛知・名古屋2004」では、豊田市と連携し「Street Value Adventure in Toyota / 街の、路の、車の未来を探しに行こう!」体験ツアーを実施。

＜芸術文化支援＞

「文化の育成」「裾野の拡大」「地域文化の活性化」を重点に活動を展開

・トヨタ コミュニティコンサート

1981年より、全国のトヨタ販売会社とともに各地アマチュアオーケストラの支援とクラシック音楽の普及を目的に開催。2006年3月までに全国44都道府県で1,100回を越える。

・トヨタ 子どもとアーティストとの出会い

アーティストとの出会いを通じて子どもの豊かな感性を育てることを目的に、NPO法人「芸術家と子どもたち」と連携して、2004年より開催。

・トヨタ コレオグラフィーアワード

2001年より、次代を担う振付家の発掘を目的にコンテンポラリーダンスなどの舞踊分野における顕彰事業を東京の世田谷パブリックシアターと連携して開催。

＜地球環境の保全＞

地球温暖化防止への貢献のため環境緑化プログラムや環境啓発のための教育活動を実施

・「トヨタの森」と環境緑化活動

緑による環境改善を目指し、1997年より里山活性化モデル林「トヨタの森」での実践、学童の環境学習への協力、専用学習館での啓発活動などを推進。

・「エコのもりセミナー」の開催

「トヨタの森」フォレスタヒルズ・モデル林で、（社）日本環境教育フォーラムと連携し、21世紀の森づくりを支える人材育成を狙いとする様々な環境教育プログラムを1998年より展開。

・トヨタ環境活動助成プログラムの実施

1999年、国連環境計画「グローバル500賞」受賞を記念し、“持続可能な発展”に貢献する環境技術・環境学習に関する国内外の活動に対し2000年から助成。

＜福祉・地域社会・ボランティア活動支援＞

災害救援や福祉団体への援助、全国の事業所周辺での各種行事の支援、社員のボランティア活動支援

＜福祉＞

・災害救援活動への支援

2004年12月末に発生した、インドネシア・スマトラ島沖大地震に対して、トヨタと現地事業体は、義捐金の拠出、物資支援、リース車輌の提供などを行なった。アジア・オセアニアの事業体のみならず、米欧の事業体も義捐金や従業員とのマッチング募金などをグループ一体となって支援を行なった。

・社会福祉法人への支援

身体障害者の養護や自立支援を目的とする社会福祉法人に対し、施設の運営や施設が開催するチャリティーコンサート、バザーなどのイベントを支援。

＜地域社会＞

・トヨタサマースクール

夏休み期間中に豊田市周辺の小学5年生を招待し、車に対する理解を深めてもらう工場見学や勉強会を1969年より実施。

＜ボランティア活動支援＞

「トヨタボランティアセンター」を1993年に設立し、ボランティア活動の理解を深める啓発活動と情報提供並びに活動の拡大と自立に向けたサークル支援を推進。また、2003年には災害時の支援として関連企業と連携し、トヨタG災害Vネットを設置。

主な活動事例

海　外：北米、ヨーロッパ、アジアを重点地域とし、環境・教育を中心に活動を展開、また、様々な国際交流プログラムも展開

北　米

・アメリカ：「親子教育プログラムへの支援」

全米家庭教育センター（NCFL）がアメリカ各地で展開するPACE（Parent and Child Education）プログラムを1991年より支援。このプログラムは「教育を受けられなかった親の子供もまた、十分な教育を与えられずに育つ」という悪循環を断ち切ることを目的とした就学前児童の親子教育プログラム。1998年からは、新たに対象を小学校低学年レベルまで拡大したTFSP（Toyota Families in School Program）を実施。2002年より、ヒスパニック系の親子を対象としたESLP（the English as a Second Language Program）を支援。

ヨーロッパ

・欧州：「環境教育」

2003年より、「持続的発展可能なコミュニティー活動プログラム」を現地事業と連携しNGOの協力のもと、イギリス、ポーランド、チェコの3ヶ国で実施。小・中学校や地域のNGOに呼びかけ、地域の環境問題への理解促進と実体験を通じた環境改善プロジェクトの立案・実行を資金面・ノウハウ面でサポート。

・欧州：「交通安全」

2004年より欧州26ヵ国の赤十字社による子供向け交通安全、救命・応急手当教育キャンペーンを支援。子供たちの死亡・負傷事故件数の減少を目的とし、これまでに約75万人の小学生が、交通安全や事故に遭った時の応急手当について学んでいる。

アジア

・中国：「砂漠化防止のための植林活動」

近年急速に砂漠化が進行している北京近郊の河北省において、地球緑化センター、中国豊寧県林業局、中国科学院と共同で、2001年より植林活動を開始。現在、2,174haを植林。砂漠化対策とその定着化に向け、地域住民の生活向上や環境調査等の取り組みも実施。

・韓国：「大学寄付講座プログラム」

日韓の相互理解を促進するため、将来を担う大学生・大学院生を対象とした、日本研究・日韓関係の寄付講座設立を支援。ソウル国立大学・国際大学院にて実施。併せて一般市民向けの公開講座も実施。

・カンボジア／タイ：「JAHDS（人道目的の地雷除去支援の会）への支援」

人道目的の地雷除去活動を行うNGOであるJAHDSを1999年より支援。当NGOは被害地域の一般市民を残存する地雷及び不発弾の被害から守るために、地雷探知技術・機材及び除去員、探知犬を活用し総合的な地雷除去活動を行っている。

・トヨタクラシックス

1990年より、アジア地域で一流オーケストラによるコンサートツアーを開催し、チケット収益金を各地域の社会事業団体へ寄付。

国際交流

工場見学や質疑応答、環境プレゼンテーションを通じ、トヨタの高品質な車づくりや環境への取り組みに関する理解活動を展開。

- 海外ビジネススクール学生
- 愛知県下留学生
- JICA（国際協力事業団）研修生　等

History of TOYOTA

トヨタの歩み

トヨタ自動車の創業者・豊田喜一郎は
1894年（明治27年）に生まれました。
自動織機の発明家として歴史に名を残す
豊田佐吉の、「研究と創造」の精神を
受け継いだ息子の喜一郎は、
当時の日本ではまだ未知の分野であった
自動車づくりに生涯をかけ、苦心の末、
1935年（昭和10年）にA1型試作車を完成。
トヨタ自動車の歴史はこうして始まりました。
そして、1999年（平成11年）10月、
トヨタは、おかげさまで国内生産累計
1億台を達成しました。

豊田佐吉

豊田喜一郎

1867
慶応3年～

1940
昭和15年～24年

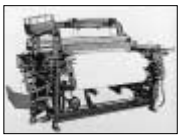
事業展開／工場・施設展開

1867年（慶応3年）
- 豊田佐吉 誕生

1890年（明治23年）
- 豊田佐吉「豊田式木製人力織機」完成

1894年（明治27年）
- 豊田喜一郎 誕生

1924年（大正13年）
- 豊田佐吉「無停止杼換式豊田自動織機（G型）」完成


無停止杼換式
豊田自動織機（G型）

'29年（昭和4年）
- 豊田喜一郎 自動車事情視察などのため欧米へ出張
- 自動織機の特許を英国のプラット社に譲渡

'30年（昭和5年）
- 豊田喜一郎 小型ガソリンエンジンの研究を開始

'33年（昭和8年）
- （株）豊田自動織機製作所に自動車部を設置

'35年（昭和10年）
- 日の出モータース㈱営業開始〈現・愛知トヨタ（株）〉

挙母工場

'36年（昭和11年）
- トヨタマーク制定

'37年（昭和12年）
- トヨタ自動車工業（株）設立

'38年（昭和13年）
- 挙母工場操業開始〈現・本社工場〉
- 「ジャストインタイム」方式本格的スタート

挙母工場生産ライン

'40年（昭和15年）
- 豊田製鋼㈱設立〈現・愛知製鋼（株）〉
- （財）豊田理化学研究所設立

'41年（昭和16年）
- 豊田工機（株）設立

'43年（昭和18年）
- 東海飛行機（株）創立〈現・アイシン精機（株）〉

'45年（昭和20年）
- トヨタ車体工業㈱設立〈現・トヨタ車体（株）〉

'46年（昭和21年）
- 関東電気自動車製造（株）設立〈現・関東自動車工業（株）〉

'48年　（昭和23年）
- 日新通商（株）設立〈現・豊田通商（株）〉

'49年（昭和24年）
- 名古屋ゴム（株）設立〈現・豊田合成（株）〉
- 日本電装（株）設立〈現・（株）デンソー〉

新車発表／生産・販売・輸出実績

'35年（昭和10年）
- A1型試作乗用車完成
- G1型トラック完成

A1型試作乗用車

'36年（昭和11年）
- トヨダAA型乗用車、AB型フェートン、GA型トラック発表

'38年（昭和13年）
- GB型トラック生産開始

G1型トラック

'41年（昭和16年）
- AE型乗用車生産開始

'42年（昭和17年）
- KB型トラック生産開始

'43年（昭和18年）
- AC型乗用車、KC型トラック生産開始

'47年（昭和22年）
- BM型トラック、SB型小型トラック、SA型小型乗用車生産開始

'49年（昭和24年）
- SD型小型乗用車生産開始

トヨダAA型乗用車

SB型小型
トラック

急行列車と競争するSA型小型乗用車

'36年（昭和11年）
- トヨタ車（G1型トラック）初輸出

'47年（昭和22年）
- 国内生産累計10万台達成

沿　革

1950
昭和25年～34年

1960
昭和35年～44年

トヨタ本社新本館

1970
昭和45年～54年

事業展開／工場・施設展開

'50年（昭和25年）
- 経営危機／労働争議・人員整理
- トヨタ自動車販売（株）設立
- 民成紡績（株）設立〈現・豊田紡織（株）〉

'51年（昭和26年）
- 創意くふう提案制度発足

'53年（昭和28年）
- 東和不動産（株）設立
- 会社代表標語「よい品よい考」制定

標語制定

'54年（昭和29年）
- 技術本館（テクニカルセンター）完成

'56年（昭和31年）
- トヨペット店営業開始
- 本社テストコース完成

'57年（昭和32年）
- 米国トヨタ自動車販売㈱設立

'58年（昭和33年）
- トヨタ・ド・ブラジルS.A.社（ブラジルトヨタ）操業開始

米国トヨタ自動車販売

'59年（昭和34年）
- 元町工場操業開始

元町工場

'60年（昭和35年）
- 新本館（現・事務本館）完成
- （株）豊田中央研究所設立

'61年（昭和36年）
- パブリカ店営業開始〈現・トヨタカローラ店〉
- TQCの全社的導入決定
- 春日工場完成〈現・春日センター〉

'62年（昭和37年）
- 「労使宣言」に調印
- トヨタ・モーター・タイランド社設立

労使宣言 調印式

'65年（昭和40年）
- デミング賞実施賞受賞
- 上郷工場操業開始

'66年（昭和41年）
- 高岡工場操業開始
- 日野自動車工業（株）と業務提携
- 東富士工場の自動車性能試験場完成

デミング賞実施賞

'67年（昭和42年）
- トヨタオート店営業開始〈現・ネッツトヨタ〉
- ダイハツ工業（株）と業務提携

'68年（昭和43年）
- 三好工場操業開始

東富士自動車性能試験場

'70年（昭和45年）
- 第1回日本品質管理賞受賞
- 堤工場操業開始

'73年（昭和48年）
- 明知工場操業開始
- キャルティデザインリサーチ設立

'74年（昭和49年）
- トヨタ鞍ケ池記念館完成
- トヨタ財団設立
- 日進研修センター完成

'75年（昭和50年）
- 下山工場操業開始
- 住宅事業に参入

'77年（昭和52年）
- トヨタテクニカルセンターU.S.A設立
- トヨタ会館完成

'78年（昭和53年）
- 衣浦工場操業開始

'79年（昭和54年）
- 田原工場操業開始

田原工場

日本品質管理賞受賞

日進研修センター

新車発表／生産・販売・輸出実績

'51年（昭和26年）
- BX型トラック、BJ型トヨタジープ発表〈現・ランドクルーザー〉
- SF型小型乗用車生産開始

'52年（昭和27年）
- SG型小型トラック生産開始

'53年（昭和28年）
- RH型トヨペット・スーパー、RK型小型トラック発表

'54年（昭和29年）
- SKB型小型トラック発表〈現・トヨエース〉

'55年（昭和30年）
- トヨペット・クラウン、トヨペット・マスター、クラウン・デラックス発表

'56年（昭和31年）
- RK52型小型トラック発表〈現・ダイナ〉

'57年（昭和32年）
- DA60型ディーゼルトラック、トヨペット・コロナ発表

トヨペット・クラウン

'61年（昭和36年）
- パブリカ発表

'63年（昭和38年）
- RK170B型ライトバス発表〈現・コースター〉

'64年（昭和39年）
- クラウン・エイト、FA100型・DA100型大型トラック発表

'65年（昭和40年）
- トヨタスポーツ800発表

'66年（昭和41年）
- カローラ発表

'67年（昭和42年）
- トヨタ2000GT、ハイエース、ミニエース発表

'68年（昭和43年）
- ハイラックス、カローラスプリンター、コロナマークⅡ発表

パブリカ

カローラ

トヨタ2000GT
スピードトライアル

'70年（昭和45年）
- カリーナ、セリカ、ライトエース発表

'73年（昭和48年）
- パブリカスターレット発表

'76年（昭和51年）
- タウンエース発表

'77年（昭和52年）
- チェイサー発表

'78年（昭和53年）
- セリカXX発表〈現・スープラ〉
- ターセル、コルサ発表

セリカ

'57年（昭和32年）
- 国産乗用車対米輸出第1号（クラウン）

'62年（昭和37年）
- 国内生産累計100万台達成

'69年（昭和44年）
- 輸出累計100万台達成
- 年間国内販売100万台達成

'72年（昭和47年）
- 国内生産累計1,000万台達成

'75年（昭和50年）
- 輸出累計500万台達成

'79年（昭和54年）
- 輸出累計1,000万台達成

1980
昭和55年～64年（平成元年）

'80年（昭和55年）
- トヨタビスタ店営業開始

'81年（昭和56年）
- 豊田工業大学開学

'82年（昭和57年）
- トヨタ自動車工業（株）、トヨタ自動車販売（株）合併 新社名 トヨタ自動車（株）

工販合併

'84年（昭和59年）
- 米国でのトヨタ・GM合弁会社（NUMMI）生産開始
- 士別試験場完成

NUMMI

'85年（昭和60年）
- 飛鳥センター完成

'86年（昭和61年）
- 貞宝工場操業開始

'87年（昭和62年）
- 春日井事業所操業開始
- トヨタ記念病院完成
- 欧州テクニカルセンター設立

TMM工場鍬入れ式

'88年（昭和63年）
- TMM〈現・TMMK〉生産開始

'89年（平成元年）
- 広瀬工場操業開始
- 栃木事業所操業開始
- トヨタ博物館完成
- 米国レクサス店設立
- 東京デザインセンター設立

レクサス店

1990
平成2年～11年

'90年（平成2年）
- アムラックス オープン
- TMME設立

'91年（平成3年）
- 山梨事業所操業開始

'92年（平成4年）
- 「トヨタ基本理念」発表
- 「トヨタ地球環境憲章」制定
- TMUK生産開始
- VW・Audi車販売店舗DUOオープン
- トヨタ自動車北海道（株）操業開始
- トヨタ自動車九州（株）操業開始

'94年（平成6年）
- 産業技術記念館オープン

'96年（平成8年）
- （株）コンポン研究所設立

'98年（平成10年）
- トヨタオート店 社名をネッツトヨタに変更
- フランス新工場建設を発表
- TMMI／TMMWV操業開始
- 天津トヨタ自動車エンジン有限会社操業開始
- トヨタ自動車東北（株）操業開始

'99年（平成11年）
- MEGA WEB（メガウェブ）オープン
- ニューヨーク・ロンドン株式上場
- トヨタ・キルロスカ・モーター社操業開始

TMUK全景

フランス工場建設発表

天津エンジン工場操業開始

2000
平成12年～

'00年（平成12年）
- 金融統括会社「トヨタファイナンシャルサービス株式会社」設立
- 四川トヨタ自動車有限会社生産開始

'01年（平成13年）
- TMMF（フランス）生産開始
- TMMAL（米・アラバマ）設立

'02年（平成14年）
- F1参戦
- TPCA（チェコ）設立
- TMMP（ポーランド）生産開始
- TMMBC（メキシコ）設立
- TKAP（インド）設立
- TMIP（ポーランド）設立

'03年（平成15年）
- 住宅販売会社「トヨタホーム（株）」を設立
- TMMTX（米・テキサス）設立
- 一汽トヨタ自動車販売有限会社を設立

'04年（平成16年）
- トヨタ一汽（天津）金型有限会社（TFTD）設立
- 一汽トヨタ（長春）エンジン有限会社（FTCE）設立
- ビスタ店を融合し、新「ネッツ店」スタート
- IMVシリーズ「ハイラックスVIGO」発表（タイ）
- 広州トヨタ自動車有限会社（GTMC）設立

'05年（平成17年）
- 愛・地球博にトヨタグループ館出展
- TPCA（チェコ）で「トヨタアイゴ」の生産を開始
- TMMR（ロシア）設立
- レクサス全国で開業
- 富士重と業務提携

'80年（昭和55年）
- セリカ・カムリ〈現・カムリ〉、クレスタ発表

'81年（昭和56年）
- ソアラ発表

'82年（昭和57年）
- ビスタ、カローラⅡ、スプリンターカリブ、マスターエース・サーフ発表

ソアラ

'84年（昭和59年）
- ハイラックスサーフ、MR2発表

'89年（平成元年）
- デリボーイ、セルシオ発表

セルシオ

'90年（平成2年）
- セラ、エスティマ発表

'91年（平成3年）
- サイノス、ウィンダム、アリスト発表

'92年（平成4年）
- セプター、カルディナ発表

'94年（平成6年）
- カレン、RAV4L、RAV4J発表

'95年（平成7年）
- アバロン、グランビア、トヨタキャバリエ、クラウン・コンフォート発表

'96年（平成8年）
- メガクルーザー、イプサム発表

'97年（平成9年）
- ハイエースレジアス〈現・レジアス〉、ラウム、プリウス、ハリアー発表

'98年（平成10年）
- プログレ、ガイア、ナディア、デュエット、アルテッツァ発表

'99年（平成11年）
- ヴィッツ、キャミ、プラッツ、ファンカーゴ、MR-S発表

プリウス

ヴィッツ

'00年（平成12年）
- WiLL Vi、bB、プロナード、オーパ、スパーキー、クルーガーV発表

'01年（平成13年）
- アレックス、アリオン、ヴォクシー、WiLL VS、ブレビス、ヴェロッサ発表

'02年（平成14年）
- イスト、アルファード、プロボックス、サクシード、ヴォルツ、WiLL サイファ発表
「トヨタFCHV」限定販売

'03年（平成15年）
- ウィッシュ、シエンタ、アベンシス発表

'04年（平成16年）
- パッソ、ポルテ、アイシス、マークX発表

'05年（平成17年）
- ラクティス、ベルタ発表
- レクサスGS430、SC430、IS350/250発表

'85年（昭和60年）
- 輸出累計2,000万台達成

'86年（昭和61年）
- 国内生産累計5,000万台達成

'88年（昭和63年）
- 年間国内販売200万台達成

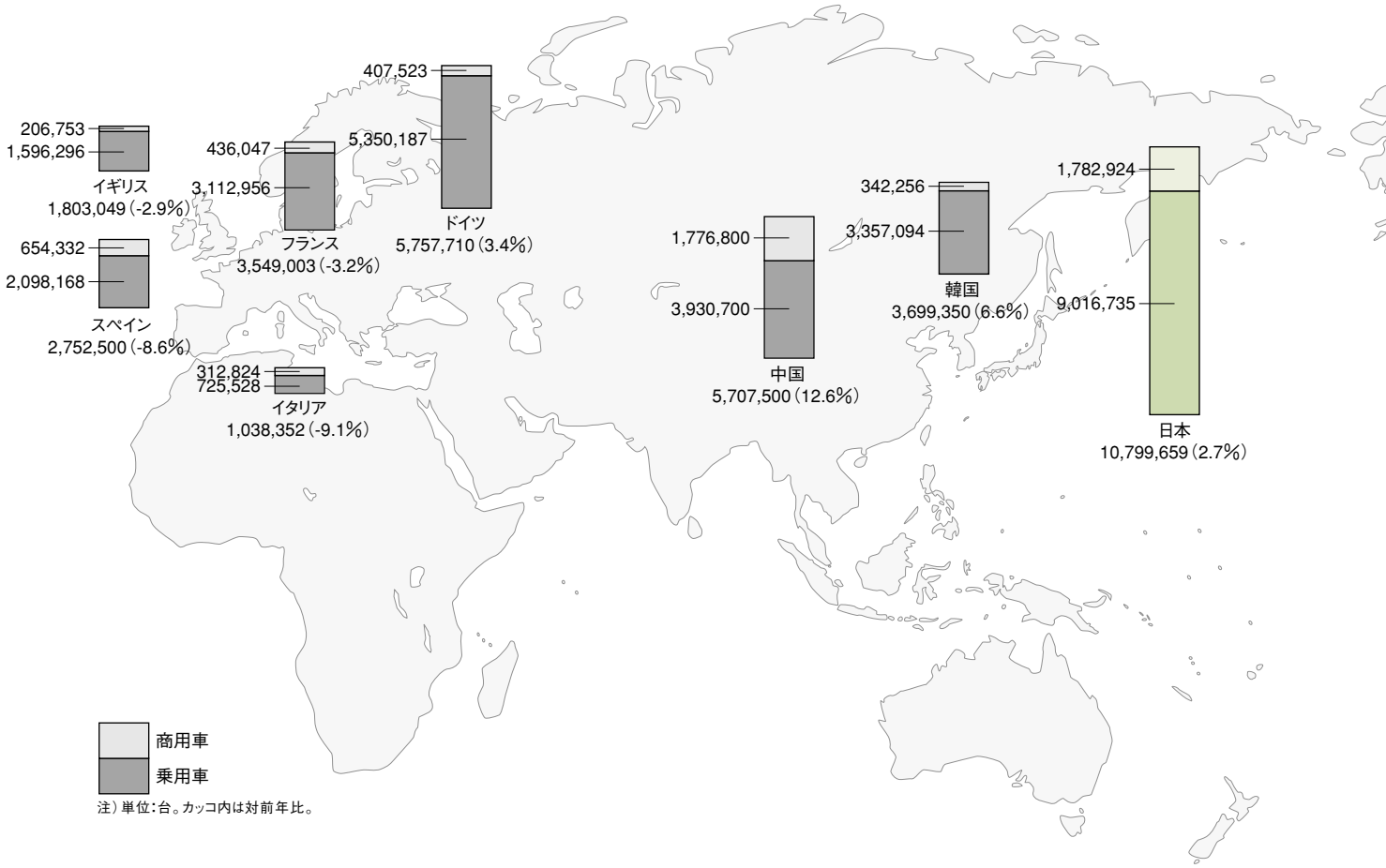
'94年（平成6年）
- 年間海外生産100万台達成

'99年（平成11年）
- 国内生産累計1億台達成
- 年間海外販売300万台達成

'02年（平成14年）
- 北米生産累計1,000万台達成
- プリウス販売累計10万台突破

'05年（平成17年）
- カムリセダン1,000万台販売達成

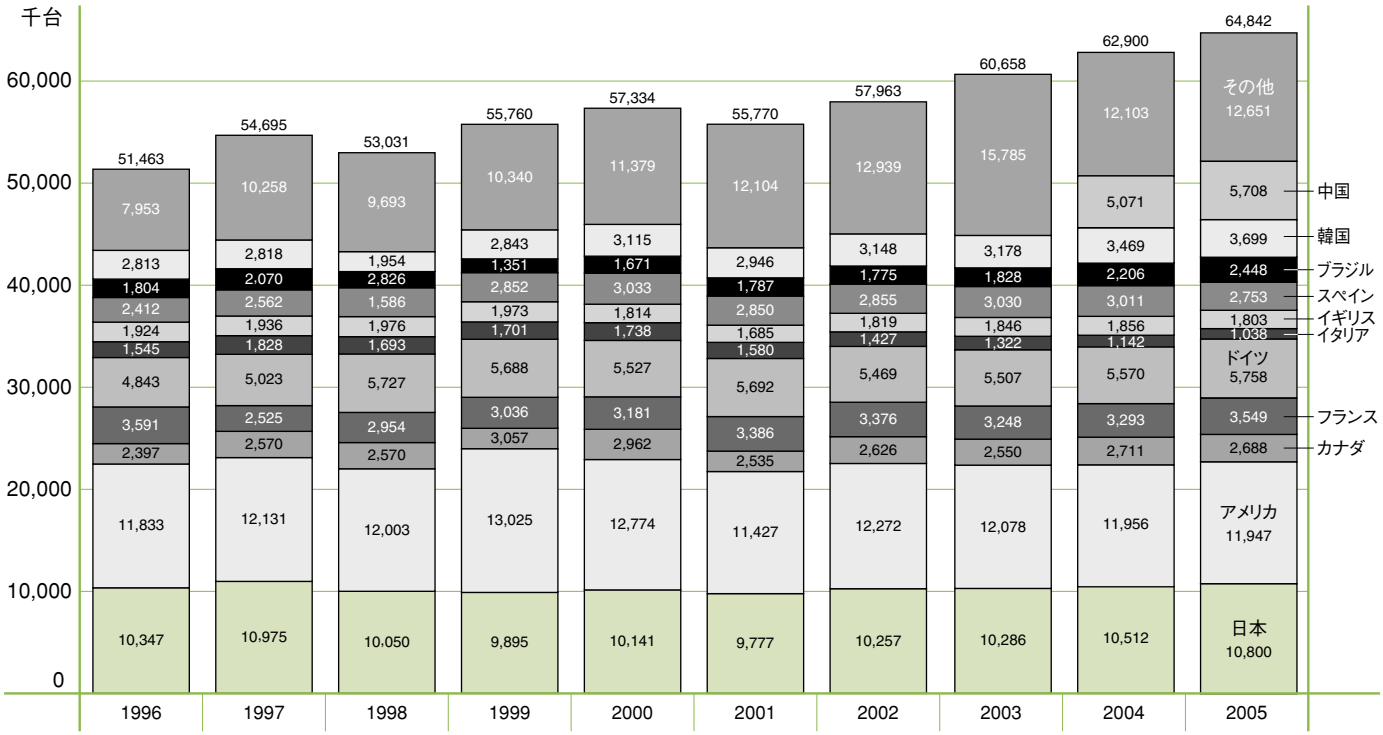
自動車生産



注）単位：台。カッコ内は対前年比。

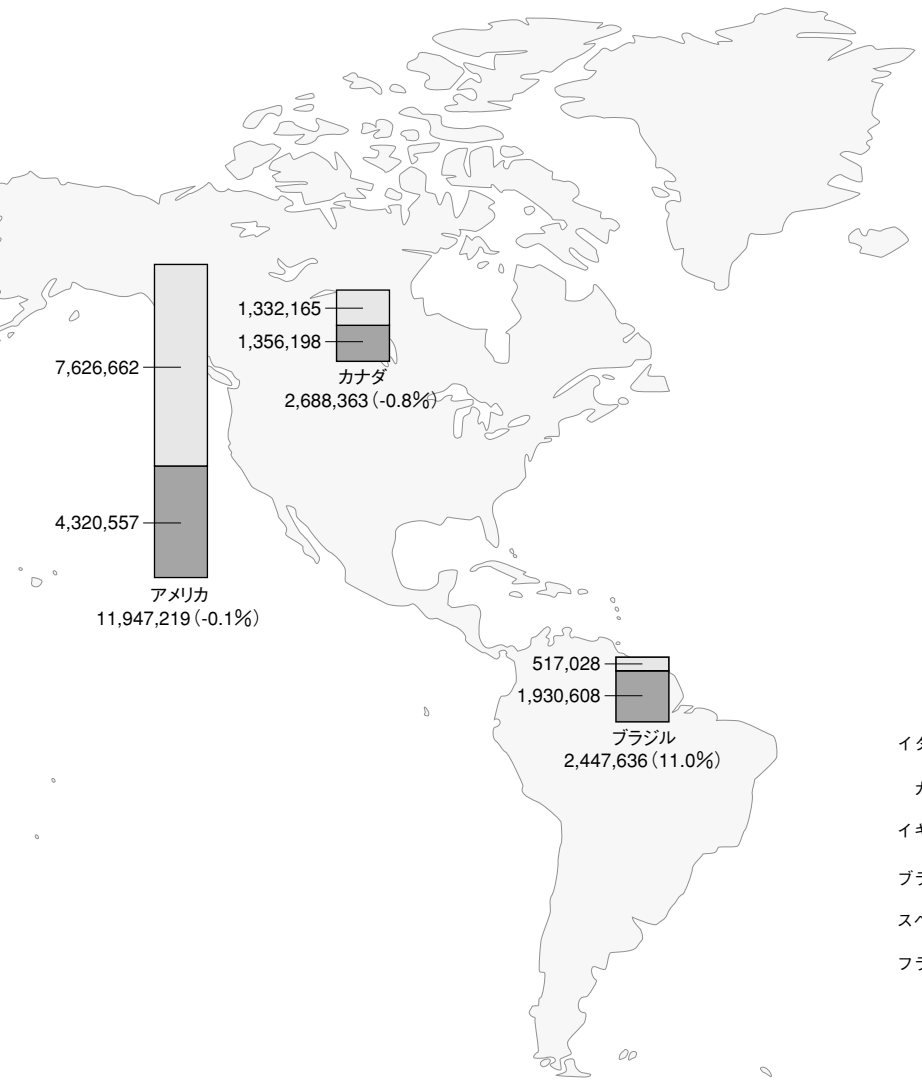
■主要自動車生産国の自動車生産台数

（単位：千台）

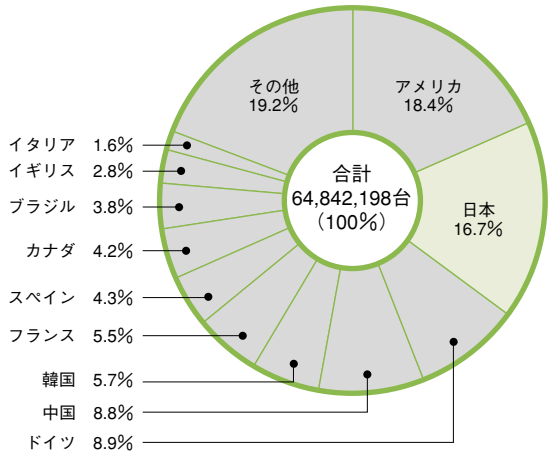


注）生産台数は2006年3月現在の公表値。フランスは1998年から生産台数の算出方法を変更（1997年までさかのぼって修正）。
2004年より中国を追加。2005年の「その他」は推計。2005年の自動車生産合計値はVDA（Verband der Automobilindustrie）推計。

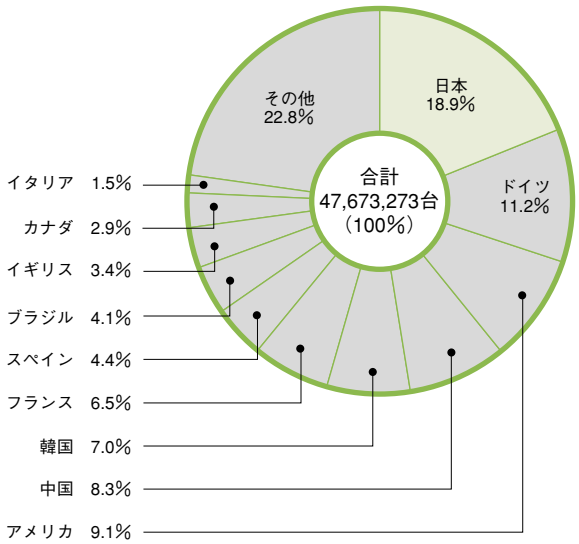
資料：各国自工会



2005年国別自動車生産（シェア）

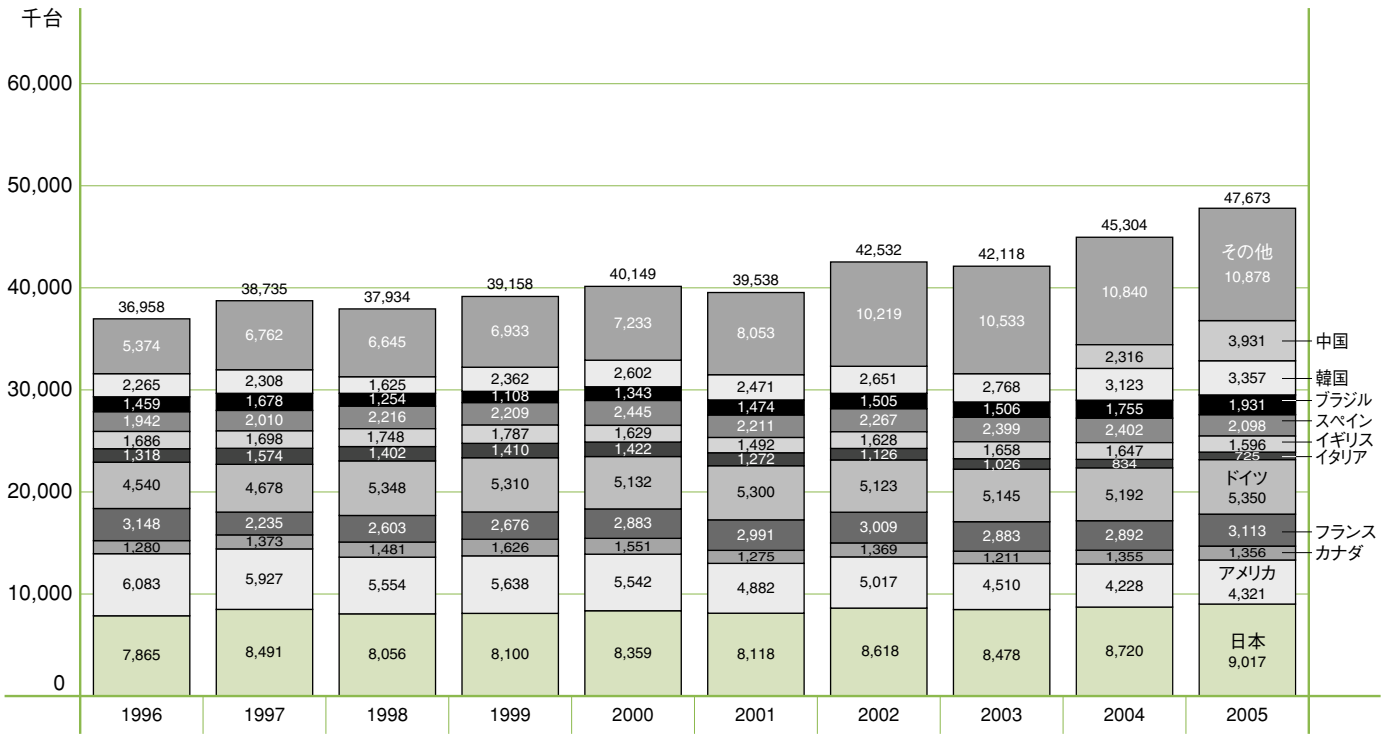


2005年国別乗用車生産（シェア）



■主要自動車生産国の乗用車生産台数

（単位：千台）

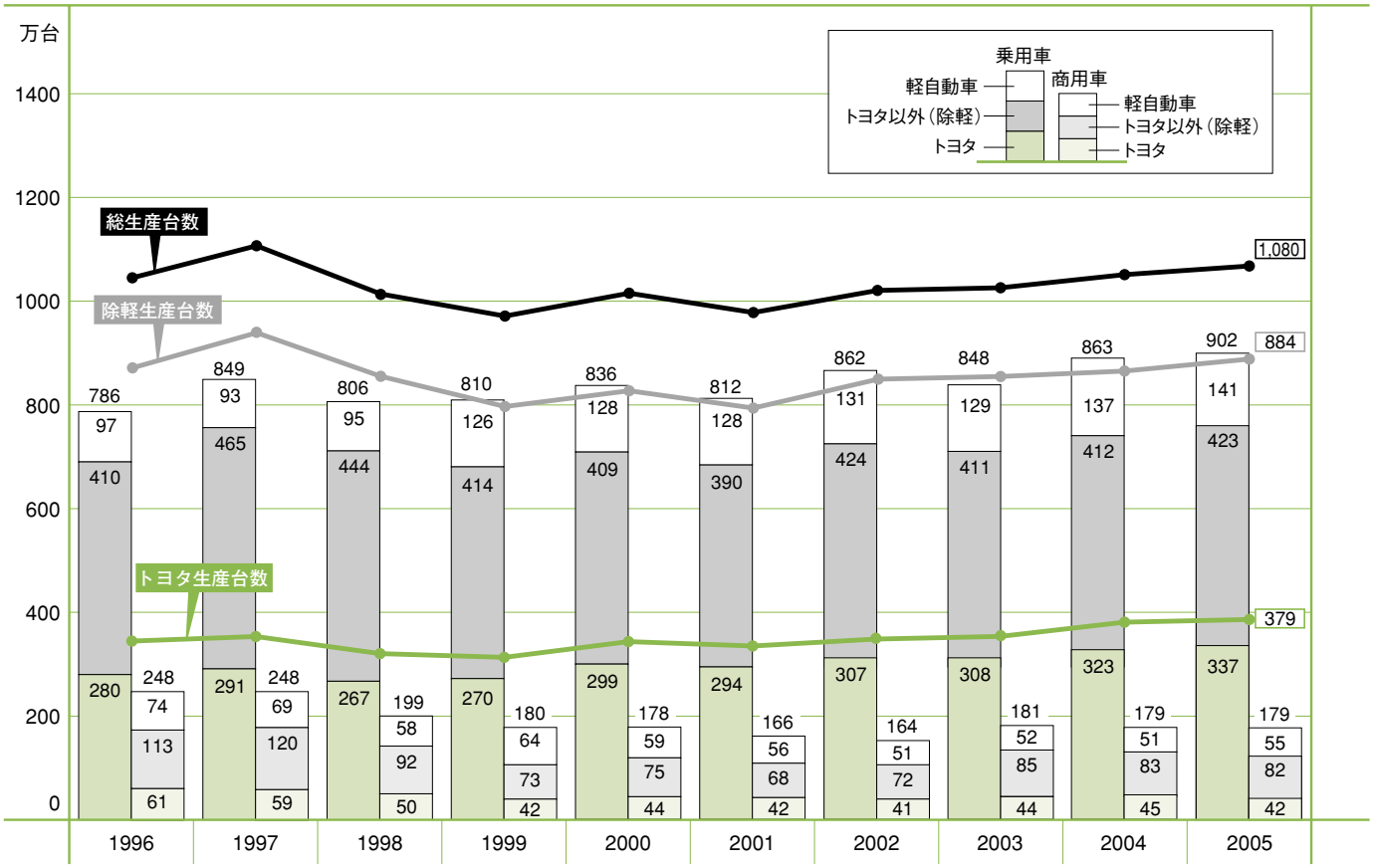


注）生産台数は2006年3月現在の公表値。フランスは1998年から生産台数の算出方法を変更（1997年までさかのぼって修正）。
2004年より中国を追加。2005年の「その他」は推計。2005年の乗用車生産合計値はVDA（Verband der Automobilindustrie）推計およびWard's による。

資料：各国自工会

自動車生産

■国内生産台数の推移



注）四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。　　資料：日本自動車工業会

■メーカー別自動車生産台数（含軽）（2005年）

（単位：台、%）

会社名	総生産台数			乗用車		
	生産台数	前年比（%）	シェア（%）	生産台数	前年比（%）	シェア（%）
トヨタ	**3,789,582**	**103.0**	**35.1**	**3,374,526**	**104.4**	**37.4**
ダイハツ	**724,509**	**106.6**	**6.7**	**539,206**	**102.0**	**6.0**
日　野	**96,985**	**103.4**	**0.9**	**—**	**—**	**—**
日産	1,451,212	100.8	13.4	1,221,086	101.4	13.5
ホンダ	1,261,994	101.6	11.7	1,213,352	101.9	13.5
スズキ	1,090,786	104.3	10.1	921,008	105.8	10.2
マツダ	864,929	105.6	8.0	806,064	106.3	8.9
三菱	664,900	103.9	6.2	555,540	104.3	6.2
富士重	469,497	95.5	4.3	385,953	95.6	4.3
いすゞ	210,253	96.3	1.9	—	—	—
三菱ふそう	132,274	110.1	1.2	—	—	—
日産ディーゼル	41,071	102.4	0.4	—	—	—
その他	1,667	167.0	0.0	—	—	—
合計	10,799,659	102.7	100.0	9,016,735	103.4	100.0

資料：日本自動車工業会

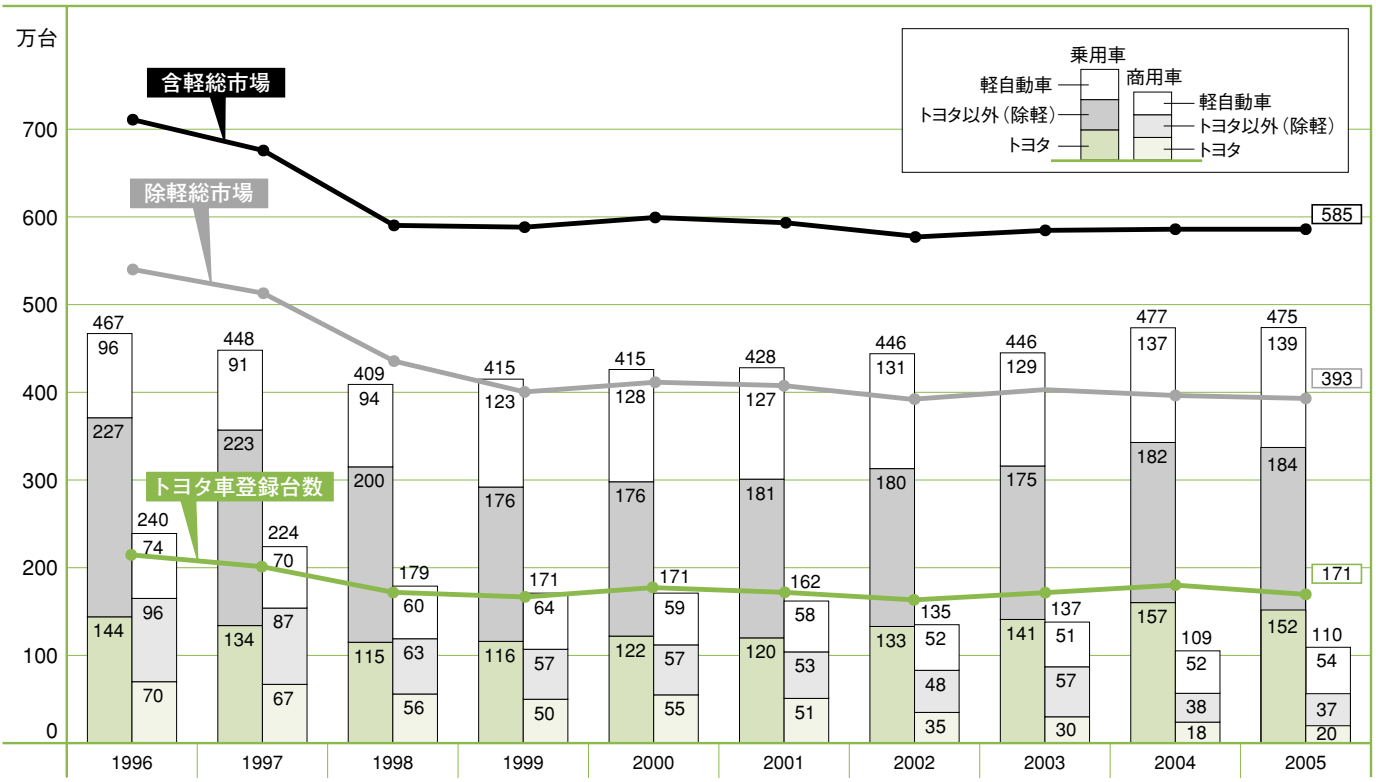
■日本メーカーの海外生産台数の推移

地域	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
北米	2,595	2,641	2,665	2,674	2,797	2,992	3,062	3,375	3,487	3,841
中南米	111	140	191	260	247	388	408	446	457	535
アフリカ	226	196	182	144	130	146	163	156	163	192
ヨーロッパ	642	738	815	921	929	953	1,038	1,153	1,338	1,455
アジア	1,883	1,951	2,003	1,221	1,551	1,678	1,873	2,387	3,013	3,650
オセアニア	103	118	136	151	126	131	137	135	148	126
総数	5,559	5,784	5,991	5,371	5,780	6,288	6,680	7,652	8,608	9,798

注）他ブランド分を除く。中近東をアジアに含む。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。　　資料：日本自動車工業会

自動車登録・届出台数

■国内登録・届出台数の推移



注）四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合

■メーカー別登録・届出台数（2005年）

（単位：台、%）

会　社　名	登録台数（除軽）					登録・届出台数（含軽）				
	乗用車	商用車	合計	前年比(%)	シェア(%)	乗用車	商用車	合計	前年比(%)	シェア(%)
トヨタ※1)	**1,517,780**	**195,698**	**1,713,478**	**97.4**	**43.6**	**1,517,780**	**195,698**	**1,713,478**	**97.4**	**29.3**
ダイハツ	**12,560**	**14**	**12,574**	**76.3**	**0.3**	**445,609**	**155,545**	**601,154**	**104.0**	**10.3**
日　野	**－**	**54,528**	**54,528**	**107.1**	**1.4**	**－**	**54,528**	**54,528**	**107.1**	**0.9**
日　産	661,054	98,722	759,776	102.2	19.3	743,596	122,630	866,226	104.8	14.8
ホンダ※	464,994	2,279	467,273	97.1	11.9	664,725	49,330	714,115	96.1	12.2
マツダ	196,084	38,889	234,973	102.3	6.0	238,946	47,973	286,919	102.3	4.9
三　菱	75,929	6,981	82,910	100.7	2.1	174,493	69,758	244,251	95.7	4.2
富士重	108,649	－	108,649	96.3	2.8	171,369	86,848	258,217	92.7	4.4
いすゞ	44	84,153	84,197	104.0	2.1	44	84,153	84,197	104.0	1.4
スズキ	77,353	－	77,353	112.6	2.0	544,527	151,261	695,788	105.1	11.9
日産ディーゼル	－	21,407	21,407	108.6	0.5	－	21,407	21,407	108.6	0.4
三菱ふそう	－	61,171	61,171	83.5	1.6	－	61,171	61,171	83.5	1.0
輸入車・その他	246,894	3,168	250,062	102.6	6.4	247,321	3,296	250,617	102.2	4.3
	264,729	3,383	268,112	98.3	6.8	265,156	3,511	268,667	97.9	4.6
合　計	3,361,341	567,010	3,928,351	99.1	100.0	4,748,410	1,103,658	5,852,068	100.0	100.0

注）※海外生産車を含む。「輸入車」の上段は輸入車から日本メーカーブランドとして登録されたものを除いた数字、下段は含む数字。　資料：日本自動車工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合

1）レクサスブランドを含む。

■乗用車系登録車両の国内販売台数ベスト10（2005年）

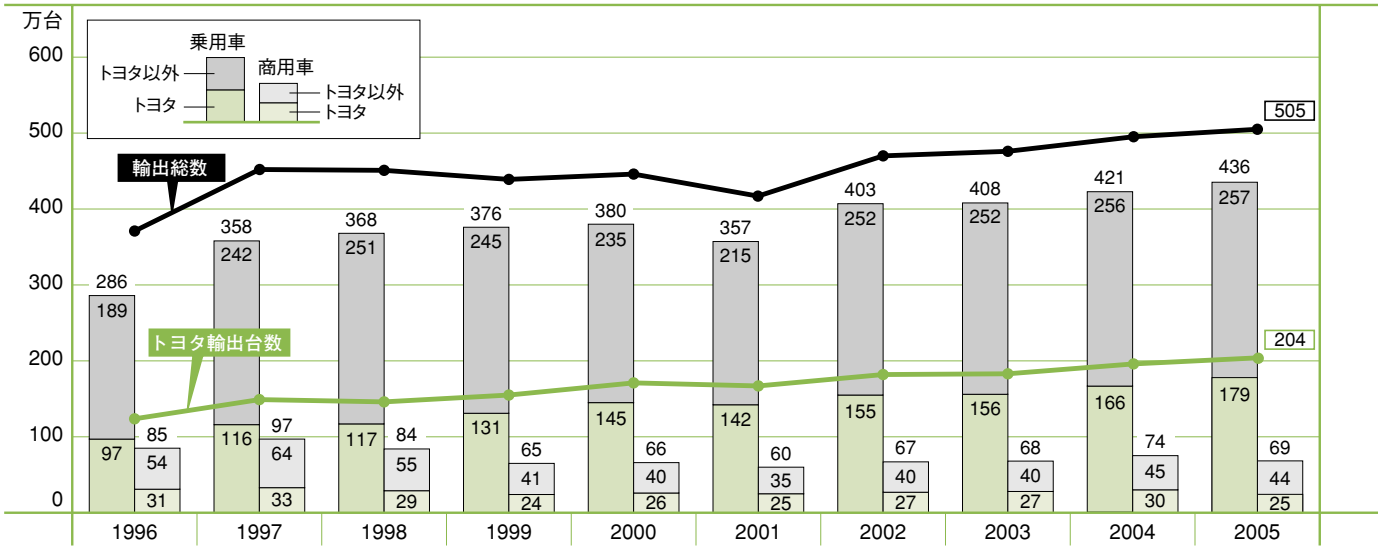
順位	車　名	会社名	登録・届出台数	前年比(%)
1	カローラ	トヨタ	149,810	86.4
2	ヴィッツ	トヨタ	131,935	217.0
3	フィット	ホンダ	125,894	84.2
4	ティーダ	日産	98,069	311.5
5	ノート	日産	93,925	―
6	ウィッシュ	トヨタ	92,066	72.7
7	ステップワゴン	ホンダ	91,745	196.5
8	パッソ	トヨタ	87,956	127.5
9	アルファード	トヨタ	81,647	95.0
10	クラウン	トヨタ	79,546	68.2

注）カローラにはカローラスパシオ、カローラランクス、カローラフィールダーを含む。

資料：日本自動車販売協会連合会

自動車輸出・輸入

■日本の自動車輸出の推移



注）四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：日本自動車輸入組合

■日本の自動車輸出相手国ベスト10（2005年）

（単位：台、%）

		輸出総数		乗用車		商用車	
		輸出台数	前年比	輸出台数	前年比	輸出台数	前年比
1	アメリカ	1,662,939	106.6	1,624,685	106.7	38,254	105.1
2	オーストラリア	392,610	99.8	338,705	106.2	53,905	72.4
3	イギリス	204,752	89.9	195,573	93.5	9,179	49.7
4	カナダ	191,499	114.8	190,249	115.2	1,250	75.9
5	ドイツ	168,349	84.8	167,185	86.1	1,164	26.3
6	サウジアラビア	154,078	107.8	91,840	115.1	62,238	98.7
7	ロシア	153,121	143.6	149,702	143.3	3,419	161.8
8	U.A.E.	106,660	116.8	79,780	124.3	26,880	99.0
9	イタリア	98,949	80.6	95,034	80.6	3,915	81.8
10	メキシコ	75,210	134.4	63,193	130.0	12,017	163.3

資料：日本自動車工業会

■メーカー別自動車輸出台数（2005年）

（単位：台、%）

会社名	総輸出台数			乗用車		
	輸出台数	前年比	シェア	輸出台数	前年比	シェア
トヨタ	**2,043,245**	**104.7**	**40.4**	**1,792,116**	**108.2**	**41.1**
ダイハツ	**109,840**	**117.0**	**2.2**	**89,489**	**114.8**	**2.1**
日　野	**41,647**	**95.5**	**0.8**	**—**	**—**	**—**
日産	677,496	92.9	13.4	533,543	91.4	12.2
マツダ	609,047	105.7	12.1	603,929	106.1	13.8
ホンダ	522,891	101.8	10.4	522,891	101.8	12.0
三菱	352,547	97.1	7.0	340,164	97.8	7.8
スズキ	277,358	101.4	5.5	265,211	104.2	6.1
富士重	215,825	102.2	4.3	215,825	102.2	5.0
いすゞ	122,771	94.0	2.4	—	—	—
三菱ふそう	60,572	119.9	1.2	—	—	—
日産ディーゼル	19,822	95.7	0.4	—	—	—
全メーカー合計	5,053,061	101.9	100.0	4,363,168	103.5	100.0

資料：日本自動車工業会

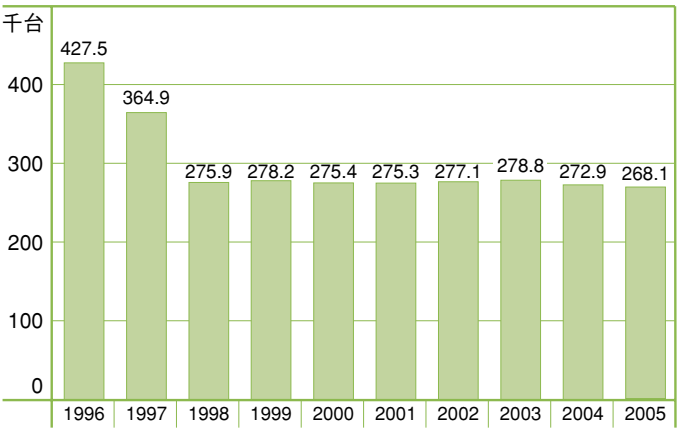
■日本の自動車輸出（2005年）

（単位：台）

輸出台数 ＼ 地域	北アメリカ	中南米	ヨーロッパ	EU	アフリカ	オセアニア	アジア	中近東
乗用車	1,814,934	313,298	1,101,251	849,644	116,017	382,118	261,765	370,448
商用車	39,504	99,961	76,946	46,084	93,531	65,804	158,302	149,146

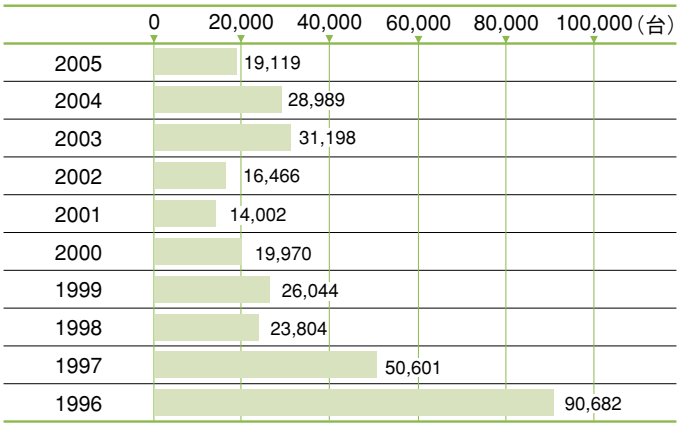
資料：日本自動車工業会

■輸入自動車登録台数の推移



資料：日本自動車輸入組合

■日本メーカーの海外生産車輸入台数の推移



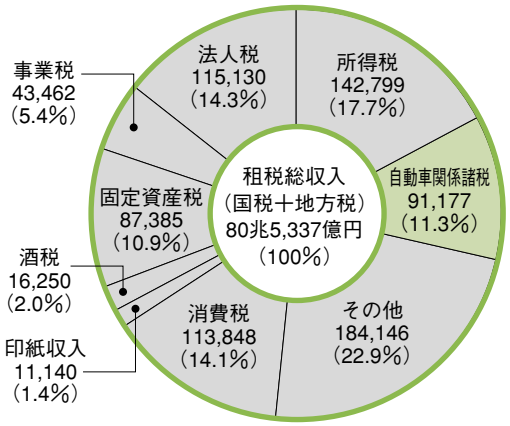
注）対象メーカーはトヨタ、ホンダ、三菱。

資料：日本自動車輸入組合

自動車関係税制

自動車関係諸税は、1954年の道路特定財源制度導入以降、道路整備の財源として大きな役割を果たしてきました。しかし、これまで増税、新税創設が繰りかえされた結果、日本の自動車ユーザーは多種多様で国際的にみても過重な税負担をしています。

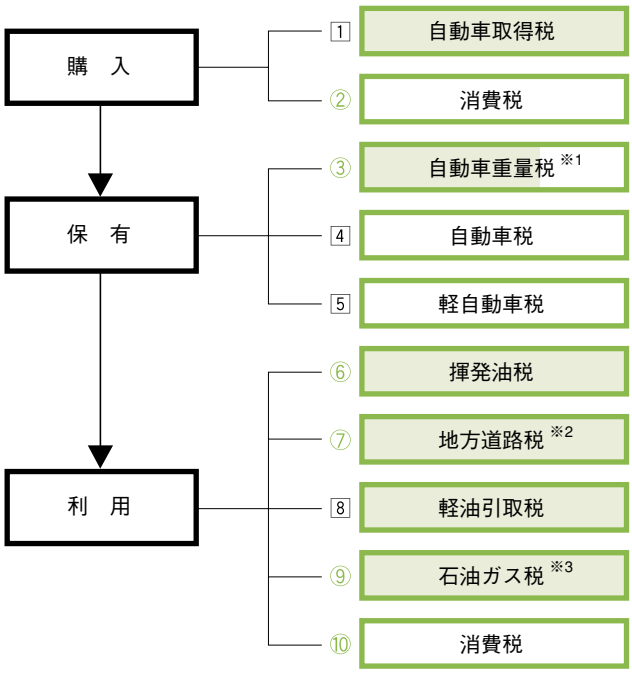
■2005年度租税総収入の税目別内訳並びに自動車関係諸税の税収額（当初見積り額）



注）1. 自動車関係諸税の消費税収は自工会推定。
2. 租税総収入内訳の消費税収は自動車関係諸税に含まれる消費税を除く。
3. 消費税収には地方消費税収を含む。

資料：財務省、総務省、日本自動車工業会

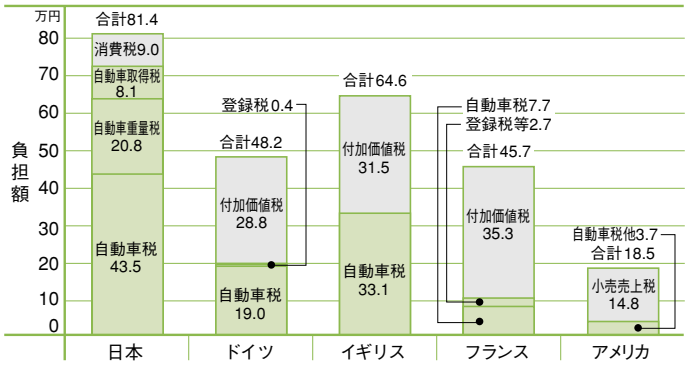
■自動車をめぐる税制



※1.「自動車重量税」は国税・普通税であるが、税収の1/3（平成15年度から）は地方へ譲与され「自動車重量譲与税」（道路整備特定財源）となり、残りの約8割は道路整備に充当される。
※2.「地方道路税」は国税であるが、税収の全額が地方へ譲与され「地方道路譲与税」となる。
※3.「石油ガス税」は国税であるが、税収の1/2は地方へ譲与され「石油ガス譲与税」となる。

資料：日本自動車工業会

■自動車関係諸税の国際比較

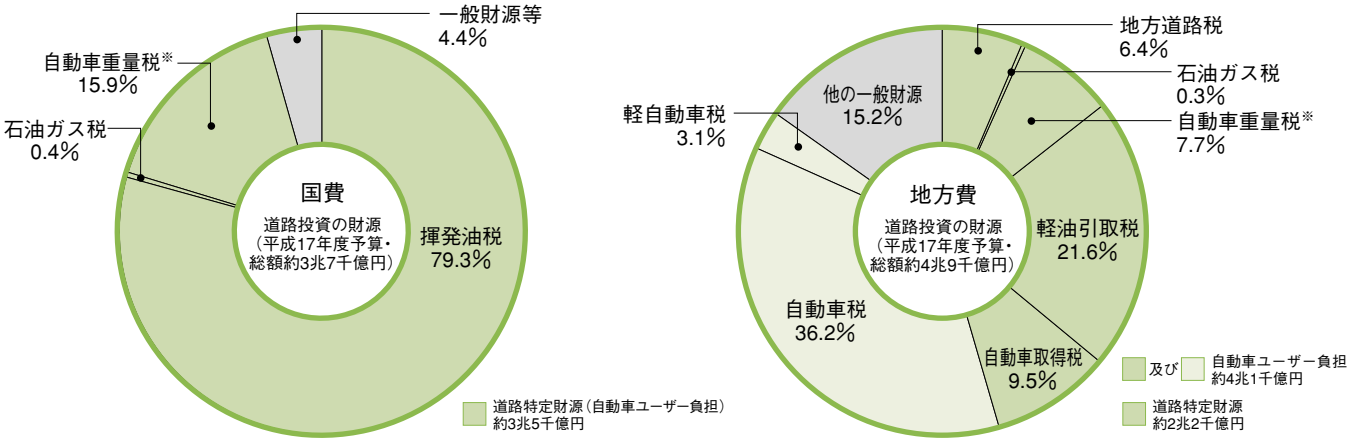


前提条件：（1）排気量1800cc（2）車両重量1,100kg（3）車体価格180万円（4）11年間使用（平均寿命）
（5）為替レートは2004年4月～2005年2月の平均

資料：日本自動車工業会

■道路特定財源制度

道路特定財源制度は、受益者負担の考え方を根拠として、自動車ユーザーに対して、
道路整備という特定の目的を使い道とすることを前提に、特別の負担を求めている制度のことです。



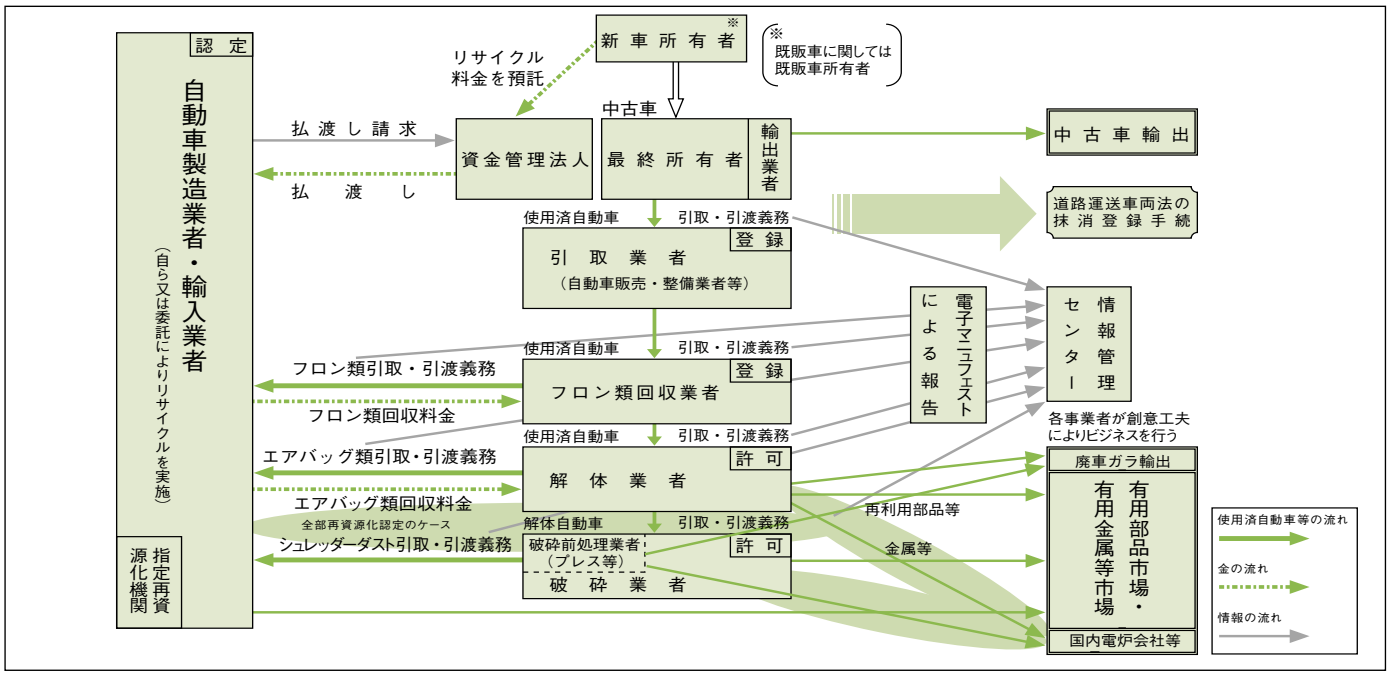
※ 自動車重量税の2/3は国の一般財源（ただし8割は国の道路特定財源）、
1/3は地方の道路特定財源。

資料：日本自動車工業会

自動車リサイクル法

年間500万台にも及ぶ国内で発生する使用済み自動車の再利用は資源保護の観点からも重要な課題となってきており、2005年1月から自動車リサイクル法が完全施行され、自動車メーカーは、使用済み自動車から発生するフロン類、エアバッグ類、シュレッダーダストを引き取り、リサイクル・適正処理を行っています。

■リサイクル法概念図



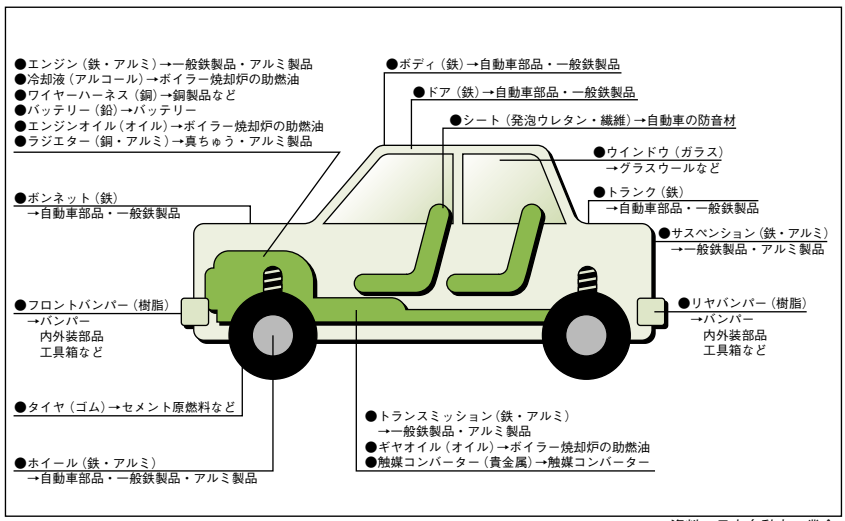
資料：経済産業省、環境省

■日本自動車工業会における削減物質削減目標

削減物質	四輪車(自動車リサイクル法対象車両)の目標
鉛	2006年1月以降：10分の1以下（96年比） ただし大型商用車（バスを含む）は4分の1以下とする。
	(1) 削減の基準は、従来通り、1996年の1台当たりの鉛使用量代表値である1,850gとする。従って、2006年の10分の1以下は185g以下とする。 (2) バッテリーは除く。
水銀	自動車リサイクル法施行時点以降：以下を除き使用禁止 <交通安全上必須な部品の極微量使用を除外とする> ・ナビゲーション等の液晶ディスプレイ ・コンビネーションメーター ・ディスチャージヘッドランプ　・室内蛍光灯
	・除外部品（極微量に含有）も、代替技術の積極的な開発を行う。
六価クロム	2008年1月以降：使用禁止
	・ボルト等の安全部分で長期使用のための防錆処理に含有。
カドミウム	2007年1月以降：使用禁止
	・電気、電子部品（ICチップ等）で、極微量に含有。

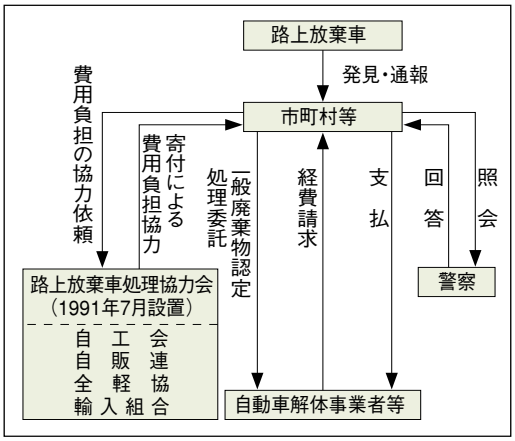
資料：日本自動車工業会

■使用済み自動車等のリサイクル用途



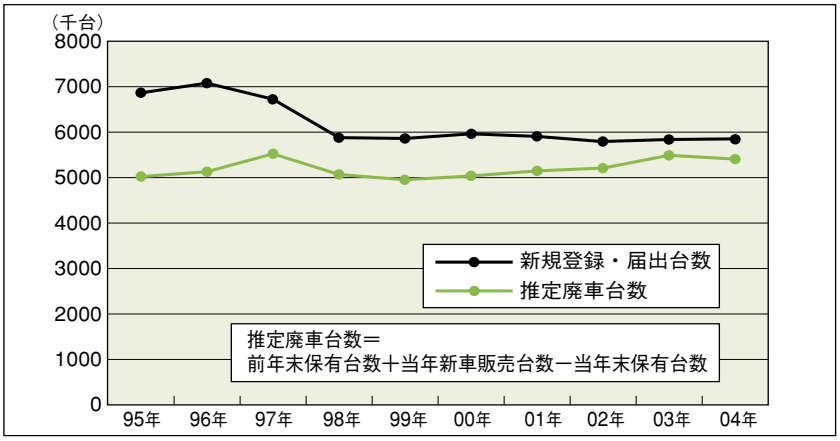
資料：日本自動車工業会

■路上放棄車防止対策



資料：日本自動車工業会

■使用済み自動車台数の推移



資料：日本自動車工業会

スピードはひかえめに。
シートベルトやチャイルドシートを忘れずに。

TOYOTA

トヨタ自動車株式会社
www.toyota.co.jp

発行:トヨタ自動車株式会社 広報部　　発行年月:2006年4月
お問い合わせは　東京本社／広報部 Tel（03）3817-7111（代）

森林資源保護のため再生紙を使用いたしました。
Printed In Japan（60001）